

第五十一回
帝國議會
衆議院
所得稅法中改正法律案(政府提出) 外二十七件

會議

大正十五年二月十五日(月曜日)午前十時四十三分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 元田 肇君

理事 田中 万逸君
理事 山田 道兄君
理事 山崎達之輔君
理事 砂田 重政君
理事 赤間嘉之吉君
理事 三輪市太郎君
理事 金光 庸夫君
理事 湯淺 凡平君
理事 石坂 豐一君
理事 町田 忠治君
荒川 五郎君
松田 三德君
淺賀長兵衛君
村山喜一郎君
岡本實太郎君

所得稅法中改正法律案(政府提出)
大正九年法律第十二號中改正法律案(政府提出)
(所得稅法ノ施行ニ關スル件)(政府提出)
地租條例中改正法律案(政府提出)
明治三十七年法律第十二號中改正法律案(政府提出)
營業稅法廢止法律案(政府提出)
營業收益稅法案(政府提出)
資本利子稅法案(政府提出)
通關稅法中改正法律案(政府提出)
酒造稅法中改正法律案(政府提出)
酒稅及酒精含有飲料稅法中改正法律案(政府提出)
麥酒稅法中改正法律案(政府提出)
醬油稅則廢止法律案(政府提出)
自家用醬油稅法廢止法律案(政府提出)
織物消費稅法中改正法律案(政府提出)
賣藥稅法廢止法律案(政府提出)
骨牌稅法中改正法律案(政府提出)
清涼飲料稅法案(政府提出)

大正九年法律第五十一號中改正法律案(朝鮮ニ移出スル物品ノ內國稅免除ニ關スル件)(政府提出)
地方稅ニ關スル法律案(政府提出)
明治四十一年法律第三十七號中改正法律案(地方稅制限ニ關スル件)(政府提出)
市町村稅地租法案(山本佛二郎君外十三名提出)
市町村稅地租法案ノ施行ニ關スル法律案(山本佛二郎君外十三名提出)
地租條例中改正法律案(床次竹二郎君外二十三名提出)
所得稅法中改正法律案(床次竹二郎君外二十三名提出)
大正九年法律第十二號中改正法律案(所得稅法ノ施行ニ關スル件)(床次竹二郎君外二十三名提出)
明治四十二年法律第七號廢止法律案(國債ノ利子所得稅免除ニ關スル件)(床次竹二郎君外二十三名提出)
市町村義務教育費國庫負擔法中改正法律案(床次竹二郎君外二十三名提出)

委員會會議錄(速記)第十三回

村上 國吉君 若尾幾太郎君
竹内友治郎君 武藤 金吉君
八田 宗吉君 高橋熊次郎君
大口 喜六君 山本 慎平君
嶋居 哲君 三土 忠造君
小川郷太郎君 大石 大君
福井 甚三君 宮島幹之助君
森 肇君 増田 義一君
今十五日委員山崎達之輔君辭任ニ付其ノ補闕トシテ山本慎平君ヲ議長ニ於テ選定セリ
同日理事山崎達之輔君辭任ニ付其ノ補闕トシテ砂田重政君理事ニ當選セリ
出席國務大臣左ノ如シ
內閣總理大臣兼 若槻禮次郎君
內務 大臣 大藏大臣 濱口 雄幸君
出席政府委員左ノ如シ
內務省地方局長 潮 惠之助君

內務書記官 田中廣太郎君
大藏省主稅局長 黑田 英雄君
大藏書記官 藤井 眞信君
商工參與官 野村 嘉六君
委員長ノ許可ヲ得テ出席シタル者左ノ如シ
內務省衛生局長 山田準次郎君
本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ
所得稅法中改正法律案(政府提出)
大正九年法律第十二號中改正法律案(所得稅法ノ施行ニ關スル件)(政府提出)
地租條例中改正法律案(政府提出)
明治三十七年法律第十二號中改正法律案(地租徵收ニ關スル件)(政府提出)
營業稅法廢止法律案(政府提出)
營業收益稅法案(政府提出)
資本利子稅法案(政府提出)

相續稅法中改正法律案(政府提出)
通行稅法廢止法律案(政府提出)
酒造稅法中改正法律案(政府提出)
酒精及酒精含有飲料稅法中改正法律案(政府提出)
麥酒稅法中改正法律案(政府提出)
醬油稅則廢止法律案(政府提出)
自家用醬油稅法廢止法律案(政府提出)
織物消費稅法中改正法律案(政府提出)
賣藥稅法廢止法律案(政府提出)
骨牌稅法中改正法律案(政府提出)
清涼飲料稅法案(政府提出)
大正九年法律第五十一號中改正法律案(朝鮮ニ移出スル物品ノ內國稅免除ニ關スル件)(政府提出)
地方稅ニ關スル法律案(政府提出)
明治四十一年法律第三十七號中改正

法律案(地方稅制限ニ關スル件)(政府提出)

市町村稅地租法案(山本悌二郎君外十三名提出)

市町村稅地租法ノ施行ニ關スル法律案(山本悌二郎君外十三名提出)

地租條例中改正法律案(床次竹二郎君外二十三名提出)

所得稅法中改正法律案(床次竹二郎君外二十三名提出)

大正九年法律第十二號中改正法律案(所得稅法ノ施行ニ關スル件)(床次竹二郎君外二十三名提出)

明治四十二年法律第七號廢止法律案(國債ノ利子所得稅免除ニ關スル件)(床次竹二郎君外二十三名提出)

市町村義務教育費國庫負擔法中改正法律案(床次竹二郎君外二十三名提出)

理事三輪市太郎君委員長席ニ著ク

○三輪委員長代理 是ヨリ開會ヲ致シマス、今日モ元田委員長ガ御出席ニナリマセヌノデ、理事諸君ノ御推薦ニ依テ、私が委員長ノ席ヲ保チマス、諸君ノ御承知ノ通り、今日ハ遂條審議ヲ致シマシテ、今日中ニ質問ヲ終了シヨウト云フコトニ略申合セガ付イテ居タヤウデゴザイマスガ、此ニ付託セラレタ件數ガ二十八件ノ多キニ互テ居リマスカラ、此二十八案ニ對シテ遂條審議ト云フコトニナレバ、中ニ一日ハオロカ、二日間デモ出來得ナイト思ヒマス、大

體ノ目的ガ今日之ヲ終了シヤウト云フ考ノ上カラハ、便宜上總括的ニ——逐條審議ノ意味ニ於テ、總括的ニ万テ質問セララルヤウニ願フタ方ガ宜カラウト云フ理事ノ打合せデ、サウ云フ方針ヲ定メマシタ、ドウゾ諸君ニ於カレマシテモ、御同意アランコトヲ望ミマス

「賛成」「異議ナシ」ト呼フ者アリ

○三輪委員長代理 幸ニ御異議ナイト認メマス、此場合御報告ヲ致シマスルガ、山崎達之輔君ガ理事ヲ辭任サレマシタノデ、此補闕ヲ推薦セナケレバナリマスガ、例ニ依テ委員長ニ御任セラ願ヘマスカ

「異議ナシ」ト呼フ者アリ

○三輪委員長代理 御異論モナイ様デゴザリマス、ソレデハ砂田重政君ヲ煩ハスコトニ致シマス——幸ニ憲政會ノ方デハ、此終了ヲ速ナラシメント云フ意味ヨリシテ、御通告ガナイノデ、今日ハ速ク運バウト思ヒマス、先ヅ政友會ノ竹内友治郎君ニ質疑ヲ許シマス

○竹内委員 大藏大臣ハ御出席ニナリマセヌカ

○三輪委員長代理 大藏大臣ハ御出席ニナツテ居リマセヌデス、——ソレデハ一寸順ヲ變ヘテ竹内君ハ次ヘ御廻リ下サルコトニ致シタラドウデゴザリマセウカ

○竹内委員 サウデスカ、ソレデハ……

○三輪委員長代理 幸ニ今大藏大臣ガ御出席ニナリマシタガ故ニ、竹内君ノ御發言ヲ望ミマス

○竹内委員 逐條審議ニ付キマシテ、私ハ先日ノ御尋致シマシタ速記録ニ付テ少シ疑義ガ殘ツテ居リマスノデ、御尋致シマス、私ハ先日稅制整理ト政府ノ必要ナル緊急缺クベカラザル關係ニ付テ御尋ヲ致シマシタガ、結局藏相ノ御答ガ、私ノ指摘致シマシタ海軍補充ニ付テハ、何レ十六年度ノ豫算編成期ニ於テ、財政計畫ヲ初メ諸般ノ事情ヲ攻究シテ決定スルト云フ御答デアリマシタガ、其際私少シク不注意デアリマシタガ、諸般ノ事情ト云フコトニハ、政府トシテハ餘程深イ意味ヲ持ツテ居ラルコトヲ、速記録ヲ拜見シテ考ヘマシタ、此質問應答ノ後デ、十年計畫ノ書面ヲ拜見致シマシタ、ソレニ依テ見テ、如何ニモ此先ニ於ケル歳入歳出ガ餘程逼迫デアルト云フコトヲ確ニ數字ノ上ニ於テ窺ヒ得ル、是ダケノ手許ニ於テ稅制整理ヲスルト云フノデアリマスカラ、政府ト致シマシテハ十分ノ御覺悟ヲ以テ、國家ノ緊急缺クベカラザル整理ヲ必ズ御ヤリニナルト云フ御決心ハ、無論私ハ當然アルベキ筋ト考ヘテ居ル、ソレデ此處ニアル財政計畫ヲ首メ、他ノ諸般ノ事情ヲ考慮シテ御決定ニナルト云フコトガ、即チ如何ニモ其他ニ御考ガアルト云フコトヲ窺ウニ餘リアルト思フ、結局政府ハ十分ニ此海軍補充ノ

件ニ付テハ、一ツノ成算ヲ御持チニナツテ居ル、唯何カノ御都合デ御明言ニナラヌダケダ、斯ウ云フコトニ私ハ考ヘラレルノデアリマス、ソコデ然ラバ其成算如何ト云フコトヲ私が推測致シマスト、丁度以下ノ三ツニナルダラウト思フ、第一ハ諸般ノ事情ノ一ツトシテ政府ノ御覽ニナル所ハ、現在ノ海軍ノ現勢力ガ、吾ミガ思フガ如クデナク、餘程綽々トシテ餘裕アルモンダ、斯ウ御覽ニナツテ居ルノデヤナイカト私ハ先ヅ疑ヲ起ス、ソレカラ第二ニハ、假ニ綽々トシテ餘裕ガアルト云フ程デナクトモ、政府ノ見ル所デハサウ補充ヲ急グニ及バヌト云フ風ナ御考ガアルノデハナイカ、第三ニハ一般ノ政策ノ上カラ御覽ニナリマシテ、彼是レ比較對照シテ、海軍ノ補充計畫其モノガ、必シモ急ヲ要セヌト云フ譯デヤナイガ、此稅制整理ノ方ガマダ急ナノダ、斯ウ云フ風ニ御覽ニナツテ居ル、先ヅ私ノ推測シ得ル限リニ於テハ、此三點何レカデ始メテ此將來ノ財政計畫ガ立ッデヤナイカト思フ、或ハ是ヨリ更ニ卓越シタ良イ御考ガアルカモ知レマセヌガ、假ニ私ガ今此處ニ列舉致シマシタ三ツノ何レカニ對シテ御明答ヲ賜ハルナラバ、始メテ私ハ稅制整理案ト云フモノハ、國民ニ對スル影響ノ方面ト、歳入ノ源泉タル租稅ノ關係ノ方面トヲ考ヘ、照シ合ハシテ、始メテ筋ノ通ツ御提案ト云フモノヲ考ヘ得ルノデゴザイマスカ

ラシテ、只今ノ三疑問ニ對シテ、其何レ
デアルカ、若クハ是ヨリ更ニ卓越セル
何カノ御所見ガアラバ、此際伺ッテ置キ
タイト思フノデアリマス

○濱口國務大臣 私ガ先日竹内君ノ御
質問ニ對シテ、海軍ノ事ハ大年十六年
度ノ豫算編成ニ當ッテ、財政計畫其他諸
般ノ情況ニ依テ慎重ニ調査ノ上、之ヲ
決定スル積リデアルト云フ説明ヲ致シ
マシタコトニ對シテ、其諸般ノ情況ト
ハドウ云フ事デアアルカト云フ點ニ疑ヲ
懷カレタ、ソレカラ出發シタル所ノ只
今ノ三點ノ御質疑デアッタト思ヒマス

ガ、諸般ノ情況トハ所謂諸般ノ情況デ
アリマシテ、之ヲ一々具體的ニ申上ゲ
ルコトハ困難デアリマスケレドモ、一
二ノ例ヲ申シテ見マスナラバ、財政計
畫ハ無論ノ事デアリマス、其他ノ緊急
施設トノ振合如何ト云フコモ、比較研
究ヲシナケレバナラヌト思ヒマス、又
國防ノ事ハ申迄モナク外國ノ勢力トノ
比較モ考ヘナケレバナリマセヌカラ、
内地ノ事ダケヲ考ヘテ參ル譯ニハ行カ
ヌ、若シ外國トノ關係又國際上ノ關係
ソレ等ノ事ヲ總稱シテ諸般ノ情況ト云
フコトヲ申上ゲタ積リデアリマス、現
在ノ海軍ノ勢力ガ、國防上ノ最少限度
ニ比較ヲ致シテ、大分餘裕ガアル意味
デアアルカ、或ハ非常ニ餘裕ガアルト云
フデハナイガ、ソレデモ補充計畫ヲ急
グト云フ程度デナイト云フ意味カト云フ如
キ御質問ニ對シマシテハ、私ハ軍務當局

カラ御答ヲスル方ガ適當デアルト考ヘ
マスルニ依テ、私ハ敢テ其處迄立入ッテ
申上ゲマセヌケレドモ、私ノ申シマシ
タ諸般ノ事情トハ、マア大體サウ云フ
事ヲ綜合シテ申上ゲタ積リデアリマ
ス、要スルニ今日ニ於キマシテ、大正十
六年度ノ豫算編成期ニ於ケル所ノ海軍
ノ補充計畫ヲ如何ニスベキヤト云フコ
トヲ、斷定的ニ又具體的ニ説明スルコ
トハ、甚ダ困難デアリマスカラ、是ハ明
年度豫算編成ノ時ニ讓ルコトニ致シタ
イト考ヘマス

○竹内委員 此處ニ態々軍務當局ノ御
出デヲ願ッテ時間ヲ潰スノモ御迷惑ト
考ヘマスカラ、其要求ハ私ハ致シマセ
ヌガ、大藏大臣ノ只今ノ御答辯ニ依レ
バ、結局此稅制整理ヲスル此際ニ於テ、
主トシテ其邊ノ御言明アルモノト考フ
ルニ拘ハラズ、今ハ決マラヌト云フ御
答辯デアアル、然ルニ海軍大臣ハ他ノ席
ニ於テ、ドウシテモ十六年度カラヤラ
ナケレバ、責任ガ取レヌト云フコトヲ
言明サレテ居ルデアリマスカラ、此
意味ニ於テ海軍大臣ノ代表スル政府ノ
所見ト、大藏大臣ノ代表スル政府ノ所
見トハ、一寸不揃ヒデアルガ如キ奇觀
ヲ呈スルノデハナイカト云フコトヲ私
ハ懸念致スノデアリマス、之ニ對シテ
大藏大臣ハ矢張ソレハ同様デアルト云
フコトヲ仰セラレコトハ、私ハ少シ
無理デハナイカトハ考ヘルノデアリマ
ス、其點ヲ今一ツ御伺ヒ致シテ置キタ

イト思フノデアリマス
○濱口國務大臣 ソレハ十六年度ノ豫
算ヲ編成スル時ニ當リマシテ、海軍大
臣ハ是ダケノモノガナケレバ、國防上
ノ責任ガ取レヌト言ヒ、大藏大臣ハサ
ウカモ知レヌケレドモ、財政ノ都合ガ
附カヌニ依テ、ソレヲ容レルコトハ出
來ヌト言フ、其時ニ於テ甚ダ問題ニナ
リマスノデ、今日ハマダ十六年度豫算
ノ事ヲ具體的ニ論議スベキ場合デナイ
ト私ハ思ヒマス、其時ニ於テ御疑問ノ如
キ疑問ガ若シ起レバ起ルト思ヒマス、
今日ハ其時期デナイト思ヒマス

○竹内委員 只今ノ御答辯ニ對シテ、
甚ダ細イ事ニ立入ルヤウデアリマス
ガ、私ハ斯ウ考ヘテ居リマス、十六年度
ナリ十七年度ナリ豫算ヲ御編成ニナル
時ニ、内閣ノ内部ノ御打合せトシテ、ド
ウ云フ御打合せガアルカ、ソレハ別問
題ト致シマシテ、ドウシテモ斯ウシナ
ケレバ持テナイ情況デアルト云フコト
ヲ主張セララル以上ハ、ソレハ矢張政
府ノ御意思デアルト思フ、ソレガ總理
ナリ或ハ大藏大臣ナリノ諒解ヲ得テ居
ル、居ラヌハ、内部ノ御手續デアルト思
フ、兎ニ角海軍大臣ガサウ仰セララル
コトハ、即チ政府ノ所信、之ニ對シテ大
藏大臣ハ兎ニ角ソレハ豫算編成期ニ行
カナクチャ分ラヌト云フコトデアアルカ
ラ、今日デハ何トモ決メラルコトハ出來
ヌト云フ意嚮ト、海軍大臣ノドウシテ
モソレハ無ケレバイカヌト云フノニ

ハ、少シ私ハ喰違ヒガアルト考ヘル、内
閣ノ内部デ、豫算編成期デ、決定シテソ
コデ始メテ政府ノ意思ガ決定スル、私
ハサウ云フモノデヤナイ、今日デモ海
軍大臣ガドウシテモ是ハ十七年カラ要
ルノダト云フコトヲ仰ッシヤラレルノ
ハ、即チソレガ政府ノ意思デアアル、之ニ
對シテ大藏大臣ハ今日カラソレハ何ト
モ言ヘヌト云フコトデアアル、ソレモ矢
張一ツノ政府ノ意思デアアル、此二ツノ
御言葉ノ間ニハドウモ少シ喰違ヒ違ガ
アルヤウニ私ハ思ヘル

○濱口國務大臣 國防ノ充實ト云フ事
ハ固ヨリ必要デアリマス、是ハ私共モ
ソレヲ承認致シマス、此國防ノ充實ガ
必要ノ事デアルト云フコトハ、獨リ此
内閣ニ限リマセヌ、何レノ内閣ト雖モ
等シク是ハ認メル所デアラウト思ヒマ
ス、然ルニ國防充實ノ程度ト時期ト並
ニ其方法ニ至ッテハ、財政計畫ハ勿論、
其他諸般ノ情況ヲ綜合致シマシテ、之
ヲ決定スル必要ガアルト思ヒマス、其
意味ニ於テ大正十六年度豫算編成ノ時
ニ當ッテ、財政狀態並ニ諸般ノ情況ヲ綜
合致シマシテ、其海軍補充ノ程度時期
並ニ方法等ヲ慎重ニ調査ノ上決定スル
積デアリマス、是デ御諒解ヲ得タイト
思ヒマス
○竹内委員 略々私ト御見解ガ近寄ッ
テ參ッタヤウニ考ヘマス、今一ツ伺ッテ
置キマスガ、結局金額トカ方法トカ云
フ事ガ、豫算編成ノ時ニ決マルト云フコ

トハ、無論私ハ明デアルト考ヘマス、是
コソ豫算編成ノ時デナケレバ分ラヌニ
相違ナイ、大體其金額ノ多少トカ、方法
ノ如何トカ云フ事ハ別問題トシテ、海
軍大臣ノ御要求通りニ——内容ハ別デ
ゴザイマスガ、軍部當局者ガ主張スル
ガ如クニ、内容ハ多少増減ハ無論アリ
マセウガ、私ノ主張スルガ如キ意味ヲ
大藏大臣ニ於テモ御認メニナツテ、多少
ノ議論ハ別トシテ、必ズ之ヲ充實ナサ
ルト云フ御趣意ト承ッテ差支ナイノデ
ゴザイマス

○濱口國務大臣 私ノ申上ゲルコトハ
極メテ明デアルト考ヘマスガ、海軍大
臣ノ主張ヲ大體ニ於テ十六年度豫算編
成ノ時ニ容レルカ容レナイカト云フコ
トヲ、今日ハッキリ申スコトハ出來マセ
ヌ、即チ諸般ノ情況ヲ判斷シテト申上
ゲマシタノハ其點デアリマス、今日ヨ
リ豫算編成期ニ至ル迄ノ間ハ八九箇月
カラ十箇月バカリノ時間ガアリマス、
其間ニ於テ財政情況ニハ大シタ變化ハ
無イカモ知レマセヌガ、相當ノ自然増
收ト云フモノハ年々アルノデアリマ
ス、其程度ハ固ヨリ分リマセヌケレド
モ、多少ノ自然増收モアラウト考ヘテ
居リマス、又財政計畫以外ノ所謂海外ノ
諸般事情モ、如何様ニ變化スルカ、今日
ヨリ之ヲ斷定スル譯ニハ參リマセヌ、
仍テ其國防充實ノ程度ト時期竝ニ其方
法ニ付キマシテハ、何ト致シマシテモ
十六年度豫算編成ノ時デナケレバ、今

日ヨリ如何ナル御質問ガアツテモ之ヲ
御答スル譯ニハ參リマセヌ

○竹内委員 決シテ方法時期ヲ御同致
シテ居ルノデナイ、既ニ大藏大臣ガ政
府ハ國防ノ充實ヲ疎カニセナイ、隨テ
此整理ハ國防ノ充實ト云フコトヲ主意
ニシテ、其意味ニ於テ財政計畫如何ニ
依テハ之ヲ繰延ベ延バシテシマウカモ
知ラヌト云フノデナクテ、是ハ軍部當
局ガ主張スル如ク御ヤリニナル御考デ
アル、但シ其内容ハ別問題デアアル、斯ウ
云フ意味ニ私ハ承ッテ然ルベキモノト
考ヘテ、最後ニ今一度御尋ネ致シマス
○濱口國務大臣 是ハ數回繰返シテ申
シテ居リマスガ、ドウカ左様ニ御了解
ヲ得タイト思ヒマス、其私ノ御答ニ對
シマシテ斷定的ノ御話ガアリマシタケ
レドモ、是ハ私ノ與リ知ラヌ所デアリ
マシテ、御解釋ハ隨意デアリマスケレ
ドモ、私ハ軍部當局ノ主張ヲ容レルト云
フコトヲ申シタノデハアリマセヌ、ソ
コヲドウカ御同達ノナイヤウニ御承知
ヲ願ヒタイト思ヒマス
○竹内委員 私ノハ是デ濟ミマシタ
○小川委員 私ハ第一番ニ政府ノ參考
資料トシテ提出セラレマシタモノニ付
キマシテ御伺シタイト思ヒマス、先ツ
此概計表デアリマスガ、概計表ニ付キ
マシテハモウ少シ御願シテ置キマシタ
ケレドモ、其材料ハ參リマセヌガ、併シ
今私ノ受取タモノダケニ付テ質問致
シマス、此概計表ハ大藏大臣ガ最モ重

キヲ置カレル所デアリマス、先ツ此財
政計畫ノ中ニ前年度ノ剩餘金ノ繰入ガ
アリマス、十五年、十六年、十七年度ニ
互フテ剩餘金繰入ガアリマス、是レ以外
ハ剩餘金ヲ當テニシタモノデナイ、即
チ概計表ニ示サレタモノダケガ剩餘金
ノ使途ヲ定メテ居ルモノデアアル、斯ウ
解釋シテ宜シイト思ヒマスガ、是ハ一
言デ宜シイカラ御答ヲ願ヒマス

○濱口國務大臣 概計表ニ載ッテ居リ
マス所ノ剩餘金ノ繰入ハ、五年、六年ト
アリマスガ、此以外ノ剩餘金ニシテ、大
體使途ヲ內定シテ居ルモノガアリマ
ス、是ハ追加豫算トシテ間モナク御要
求ヲスルコトニナル分デアリマス、ソ
レガ當テデアリマスモノガ此概計表ニ
載ッテ居リマス數字以外ニアリマス

○小川委員 一寸其點ヲ一ツ明ニシタ
イノデアリマスガ、我黨ノ大石君カラ
モ一寸質問サレマシタガ、大藏大臣ハ
サウ云フ同様ナ御答辯ガアリマシタ、
ソレニ付キマシテ私少シ疑ヲ持ッテ居
リマス、概計表ニ依リマス、大正十五
年ニハ剩餘金ノ繰入ガ一億二千五百餘
萬圓、十六年度ニハ九千三百餘萬圓、十
七年ニハ三千九百餘萬圓、是ノ計ヲ採
ツテ見マスト二億五千七百八十九萬四
千八百二十五圓、ソレカラ大正十五年
ノ豫算參考書ニハ、大正十五年度以降
豫算計畫上歳入不足ノ補填ニ充當スベ
キ見込額二億八千九百八十五萬八千八
百二十五圓デアリマスカラ、此兩者ノ

差ガ約三千二百萬圓デアリマス、之ガ
概計表ト豫算參考書ノ間ニ於ケル差デ
アリマス、大藏大臣ノ今ノ御説明ニ依
リマス、三千二百萬圓ト云フモノヲ
追加豫算ノ方ノ財源トシテ充當スル積
リダト云フヤウニ伺ッタノデアリマス、
所ガ此二億八千九百萬圓ノ外ニ、豫算
參考書ニ依リマス、大正十四、十五兩
年度ノ追加豫算ノ財源見込トシテ六千
萬圓取ッテ居リマス、十四年度貨幣交換
差金追加千二百萬圓ヲ取ッテ居リ、合セ
テ七千二百萬圓デアリマス、思フニ追
加豫算トシテ今後提出セラレマス所ノ
財源ハ、此七千二百萬圓ノ間デアルト
私ハ想像シテ居ッタノデアリマス、然ニ
今大藏大臣ハ三千二百萬圓ト云フ其差
モ、此開キアルモノ迄モ追加豫算ノ財
源ニ充テルト云フコトデアリマスレ
バ、追加豫算ノ額ハ少クトモ七千二百
萬圓ニ加ヘル三千二百萬圓、一億四百
萬圓ノ多キニナルノデアリマスカラ、
是ハ事實ニ現レテ來ルノデアリマス、
事實ハ證明スルコトデアラウト思ヒマ
スガ、其見込ヲ今承ッテ置キタイノデア
リマス

○濱口國務大臣 大體ノ御答ヲ致シマ
ス、二億八千九百萬圓ト二億五千二百
萬圓トノ差ノ三千九百九十六萬四千圓、是
ハマダ追加豫算トシテ提案ヲ致シテア
リマセヌガ、大藏省ニ於キマシテ只今取
纏メ中デアリマス、腹案中デアリマス

ケレドモ、其内譯ヲ大體申上ゲマス、是ハ今日迄凡ソ内定ヲ致シテ居ル所ノ事柄ノミデアリマス、此以外ニハ未ダ内定ヲ致シテ居ナイモノモアリマスガ、此三千百九十餘萬圓ノ内譯ヲ申シマスルト、第一ニ貨幣交換差金ノ見込デアリマス、是ハ大正十四年度、十五年度分同額デアリマス、一千二百萬圓デアリマス、大體十五年度分ト御覽ヲ願ヒタイ、十五年度貨幣交換差金ノ見込デアリマス、ソレガ千二百萬圓、ソレカラ朝鮮總督府ノ臨時補充金六百萬圓デアリマス、是ハ御承知ノ通り朝鮮ニ大水害ガアリマシタノデ、其復舊ニ充テル爲ニ、朝鮮ノ財政デハ到底賄ヒ切レマセヌカラ、臨時的ニ經費補充金ヲ増シマシテ、其復舊ヲセシメル——ソレニ要スル所ノ大正十四年度、十五年度此二箇年ニ互ル所ノ追加豫算合計六百萬圓デアリマス、ソレカラ爲替ノ變動ニ依テ生ジマス所ノ——昨年ノ議會ニモ要求シマシタガ、外務省ノ官吏其他ノ官吏ガ、此外國ニ在勤ヲ致シテ居リマシテ、爲替ノ變動ノ結果、非常ニ苦シイノデアリマス、一時的ニ在勤俸其他加給ヲスル見込ノ金額ガ約五十萬圓ノ見込デアリマス、ソレカラ此ノ委員會デモ屢問題ニナリマシテ、私カラモ説明シテ置キマシタガ、十七年度カラ地租ニ代ヘルニ貸賃價格ニ改メ、其貸賃價格ノ調査ハ十五年、十六年兩年度ニ互テ行ヒマスガ、經費ノ正確ナルコトハ分

リマセヌガ、大體ニ於テ十五、十六兩年度ヲ通ジテ約一千萬圓位ヲ要スルト云フノデ、一千萬圓取ツテ居リマス、ソレカラ最後ニ海軍々備縮少ノ結果、造船會社等ニ對シテ其損害ヲ補償スル爲ニ、今法案ノ立案中デアリマス、其公債ノ元利拂ニ要スル所ノ經費、十五年度ニ百萬圓、十六年度以降ハ利子ノ外ニ元金償還ガ參ッテ來マスカラ、將來ニ互テ百二十三萬二千圓ノ經常費ヲ要シマス、ソレダケノモノヲ見込ミマス云フト、今申シマシタ所ノ約三千二百萬圓ニ該當スル譯デアリマス、尙ホ其外ニ御説ノ通り十四、十五兩年度ノ追加豫算ノ見込額トシテ使途未定ノモノ六千萬圓ヲ留保シテ居リマス、是ハ例年位ノ金額ヲ使途未定ノ追加豫算トシテ留保スルト云フ慣例ニナツテ居リマス、多イ年ニハ一億圓留保シタ事モアリマスシ、又八千萬圓位留保シタ年モアリマス、此兩三年間ハ六年萬圓ト致シテ居リマス、是ハ只今申上ゲマシタ所ノ既ニ略決ツタ所ノ事項ノ外ニ只今此議會中ヲ通ジテ、新ニ各省カラ追加豫算ノ要求アルモノガ例年アリマス、ソレヲ見込シタノガ一ツ、今一ツハ議會ガ終リマシテ、次ノ議會迄ノ間ニ天災地變其他必要ガ起ツテ參リマス時ニ於テハ、無論第二豫備金ヲ以テ支出シマスガ、第二豫備金ガ盡キマスト云フト、是ハ憲法上ノ問題ハ別ト致シマシテ、慣例上責任支出ヲスル場合ガア

リマス、之ヲ豫想スルト云フコトハ多少ノ問題デアリマセウガ、例年サウ云フ事實ガアリマスカラ、其爲ニ相當ノモノヲ留保シテ置クト云フコトガ、慣例ニナツテ居リマス、ソレカラ十五年度——次ノ議會ガ初マリマシテ、十五年ノ追加豫算トシテ前ニ豫想シナカタモノガ出テ來ルト云フノガ是ハ能クアリマス、サウ云フ事柄ノ爲ニ使途未定ノ財源ト致シマシテ、六千萬圓位ノ金額ヲ留保シテアリマス、サウ致シマス云フト、尙ホ千二百萬圓此所ニ數字ノ相違ガ出テ來マスガ、此千二百萬圓ハ何デアアルカト云フト、是ハ十四年度ノ貨幣交換差金ノ追加デアリマス、十五年度分ハ初ニ申上ゲマシタガ、十四年度ニ於テモ同様ノ貨幣交換差損額ノ追加ヲ要スル見込デアリマス、之ヲ千二百萬圓ヲ積ツテ居リマス、ソレデ總テ合計致シマスト云フト十三年度ノ剩餘金ノ總額カラ差引キマシテ殘額僅ニ四十八萬七千圓ト云フ、斯ウ云フ計算ニナツテ居リマシテ、殆ド剩餘金ハ使ヒ切ルト云フコトニナルデアリマス、尤モ使途未定ノ爲ニ取ツタ所ノ六千萬圓ハ、是ハ概算デアリマス、或ハ多少餘リヲ生ゼストモ限ラヌガ、或ハ不足ヲ生ズルカモ知レヌデアリマス、是ハ不足ヲ生ジマスト云フト、將來ノ財政計畫ニ傷ガ附クコトニナリマスノデ、サウ云フ事ハ好ミマセヌガ、多少ノ是ハ出入ガアリ得ルモノデアルト云フコト

ヲ御承知ヲ願ヒタイノデアリマス、又多少餘ルカモ知レマセヌガ、大體サウ云フ計算デアリマス。○小川委員 非常ニ詳細ニ互ル所ノ御答辯デアリマシタガ、要スルニ私ハ斯ウ云フ風ニ聞イテ居リマス、此追加豫算トシテ、大正十四年、十五年度ノ兩年度追加豫算ノ財源見込トシテ、六千萬圓、大正十四年度貨幣交換差金追加ノ財源トシテ千二百萬圓、計七千二百萬圓ノ剩餘金ヲ使用スルコトニ豫定シテアル、然ルニ更ニ三千二百萬圓ノ剩餘金ヲ財源トシテ追加豫算ヲ提出スルト言ハレルノデアアル——此三千二百萬圓ノ追加豫算ニ付テハ、大石君ノ質問ニモ御答辯ニナリマシタ、サウスルト總計一億萬圓餘ノ剩餘金ヲ財源トスル追加豫算ガ出ル譯デアアル、ソレダケ出レバ、其處ニ使途不明ノ剩餘金ガ無イコトニナル、斯ウ云フヤウニ了解シテ宜シイト思フ、大藏大臣ハ三千二百萬圓ヲ財源トスル追加豫算ヲ提出スルト言ハレマシタガ今ノ御説明ヲ聞キマスト、大正十五年度ノ貨幣交換差金追加費モ其中ニ計上サレテ居リマス、是モ今年ハ昨年ノ例ト違ツテ、今議會ニ於テ追加豫算トシテ提出サレルモノト解釋シテ宜カラウト思フ、唯私ハ剩餘金ノ使途未定ノモノガドレ位ニナルカト云フコトダケ聞ケバ宜シイノデアリマス、是ハ今申シマシタヤウニ解釋ヲ致シテ置キマシテ、次ノ質問ニ移リマス、即チ尙ホ剩餘

金ニ關聯シテ伺ヒマス、今ノ剩餘金ノ話ハ大正十三年度ノ決算カラ起ツタ問題デアリマス、大正十四年度ノ歳入歳出ハ目下進行中デアリマスカラ、適確ニハ分リマセヌガ、大體ハ少クトモ收入ノ部ニ於テハ見當ガ付キハセヌカト思フノデアリマス、政府ノ御示シニナツタ參考材料ニ付テ見マス、第一ニ此間森君カラ質問ガアリマシテ、政府委員カラ御答ニナリマシタ酒造稅ノ問題デアリマス、此問題ハ昨年カラ本黨ト政府當局ノ間デ議論ニナツタ居タ點デアリマスガ、過日ノ質問デ明瞭ニナリマシタ、酒ノ査定石カラ稅額ヲ算定シタモノガ、御示シニナツタ材料ニアルノデアリマス、大正十三年酒造年度ノ酒ハ、大正十四年度デ收メルコトニナリマスカ、其決定稅額ガ一億九千四百七十六萬九千五百四十四圓トナツタ居ル、然ルニ大正十四年ノ豫算ニ依ルト、一億七千九百三十五萬六千三百九十六圓トナツタ居ル、即チ其差ガ千五百四十一萬三千四百四十八圓、大體千五百萬圓ニ上ルノデアル、是ハ明白ニ大正十四年度ニ餘ツテ來ルモノデ、爭フベカラザル事實デアル、是ハ此間ノ質問應答ニ依テ明ニナリマシタカラ、今日ニ於テ之ヲ御變更ニナルコトハナイト確信シマス、ソレカラ第三種所得稅モ御示シニナツタ材料ニ依テ見マス、十四年度ノ稅額ハ定ツテ居リマス、マダ三月分、即チ第四期分ハ收納ニナツテ居リマセヌデセ

ウガ、第一期、二期、三期ノ分ハ收納ニナツテ居リマス、一體所得稅ハ昨年八月ニ決定シテ居リマスカラ、第三種所得稅額ハ多少ノ差ハアリマスケレドモ、大體定ツテ居リマス、即チ其額ハ一億二千二百四十二萬三千四百十六圓トナツテ居リマス、然ルニ豫算ニハ十億百八十八萬五千九百九十圓ニナツテ居リマス、其差額ガ二千五百四十四萬二千八百二十六圓トナル、即チ所得稅ニ於キマシテ二千餘萬圓ノ剩餘金ガ出來ル筈デアリマス、營業稅モ同ジク既ニ決定シテ居リマス、是ハ收納濟ニナツテ居ルト想像致シマス、豫算ノ上デハ五千七百二十八萬二千五百三十四圓トナツテ居ルガ、決定額ハ六千八百五萬二千三百九十五圓トナツテ居リ、千七十六萬九千八百六十一圓ノ增收ニナリマス、以上述べマシタ所ノミデ見ルト、豫算ト決定額トヲ較ベテ見マス、酒造稅ニ於テ約千五百萬圓、第三種所得稅ニ於キマシテ二千萬圓、營業稅ニ於キマシテ千萬圓、總計四千六百萬圓以上ノ增收ガアルコトガ明白ニ出テ來タノデアリマス、大正十四年度ノ決算ニナラナケレバ細カナ事ハ分リマセヌガ、大抵ハ既ニ剩餘金ガ出來ルヤウニ出來テ居ル、決算ガ出來テ居リマセヌカラ正確ニハ申セナイノデアリマスガ、目下ノ狀態カラ見レバ大正十四年度ノ決算ノ時ニハ夥シキ剩餘金ガ出來ル、斯ウ云フコトハ御認メニナラナケレバナラヌト思フノデアリ

マス、是ハ參考書類ニ付テ或ル主ナル稅ヲ引拔イタダケデアリマス、尙ホ進シデ其他ノ稅ニ付キマシテ大正十四年度ノ豫算ニアル額ト、大正十三年度ノ決算額トヲ較ベテ見マスレバ、大正十四年度ノ豫算ノ方ガ遙ニ低イノガ多數デアリマス、ソレデアリマスカラ、他ノ事ハ考察シマセヌデモ、大キナ稅額ニ達スル所ノ酒稅ト營業稅ト、第三種所得稅ダケデモ四千六百萬圓ノ剩餘金ガ出來ルト云フコトハ認メザルヲ得ナイト思ヒマス、是ハ此材料カラ計算シタダケデアル、議論デモ何デモナイカラ此點ハ御認メニナルト思ヒマス、餘リ細カイ御答辯ハ必要アリマセヌ、極ク簡單ニ私ノ述ベタ事實ニ誤ガナイト云フコトヲ御答辯下サレバ宜シイノデアリマス

○濱口大藏大臣 只今ノ御計算ハサウデアラウト思ヒマス、併ナガラ歳入ノ全體ヲ合計シマシテ、豫算以上ノ剩餘金ガドレダケ出ルカト云フコトハ十四年度ノ決算ヲ終ツテ見ナイト分リマセヌガ、只今御舉ゲニナリマシタモノハ大藏省カラ御廻シ致シマシタ材料ニ依テ御述ニナツタモノト思ヒマスカラ、其通リデアラウト思ヒマス、例ヘバ關稅ノ如キハ今日ノ實績ヲ考ヘテ見マス、ト十三年度ノ實績ヨリハ大分減ツテ居ルヤウデアリマス、豫算ニ對スル増減ハ是ハ年度内ノコトデアリマスカラ、正確ニ申スコトハ出來マセヌガ、要スルニ私ノ考モ十四年度ノ決算ヲ致シマスル時ニハ多少ノ剩餘金ハ出ルデアラウト思ヒマスガ、其金額ガドノ位増加デアルト云フコトハ是ハ今日分リマセヌガ、又物ニ依テハ豫算ノ範圍内デ其以上ニ出ナイモノモアルカモ知レマセヌ、今總括致シマシテ幾ラ出ルト云フコトハ申上ゲ兼ネマス、多少出ルデアラウト思ツテ居リマス

○小川委員 私ハ數字ニ涉リマスモノデアリマスカラ、煩ヲ厭ヒマシテ申述ベマセヌガ、唯政府ノ御示ニナリマシタ材料ニ依テ見マス、大正十五年度ニ増稅ナカリセバ、ドウデアルカ、斯ウ云フ計算ガ出テ居リマス、其計算ハ大正十三年度ノ決算ト云フモノヲ捉ヘテ、多少ノ斟酌ハアルカ知レマセヌガ、ソレガ大勢ヲ示シテ居ルト思フノデアリマス、ソレト比ベテ見マス、今私ガ述ベタ他ノ稅ニ於テ、今年大正十四年度ノ豫算ト大正十三年度ノ決算ト云フモノヲ見マス、即チ大正十三年度ノ決算ノ方ガ多イノデアリマスカラ、其方ニ多大ノ減收ト云フコトヲ考ヘルコトハ出來ナイ、例ヘバ第二種所得稅ニ付テ申シマス、是ハ公債、社債、銀行預金ノヤウナ利子ニ課稅スルノデアリマスカラ、大正十五年度ニ増稅ナカリセバト云フノデ、二千七百萬圓程モ見積ツテアルノデアリマス、大正十三年度ノ豫算ニハ二千百萬圓デアリマスカラ、

斯ウ云フモノハドウシテモ矢張增收ニナル、間違ハナイノデス、ソレカラ只今大藏大臣ガ御引キニナリマシタカラ申上ゲマス、關稅ニ付テ申上ゲマス、豫算額ハ九千八百萬圓、然ルニ大正十三年度ノ決算ハ一億千九百萬圓デアアル、大正十三年ヨリハ少イト申サレタガ、大正十三年ノ決算ヲ豫算ト對照スレバ豫算ノ方ガ遙ニ少イ、ドノ項目ヲ取ツテモ一々説明ヲシテモ宜イガ、時間ガ無駄ニナリマスカラ申述ベマセヌ、今ノヤウナ大キナ、誰デモ首肯スベキ政府ノ資料ニ依テ直グ分ルヤウナモノ、サウ云フモノヲ取ツテモ四千五百萬圓、六千萬圓ノ數字ガ出テ來ルノデアリマスカラ、殆ド問題ニナラヌ程確實ナモノト思フノデアリマス、併シ此事ハ私ハ此程度デ爭ヒマセヌ、次ニ増稅ノ結果ニ於テ、稅ノ收入ニドウ云フ増減ヲ來スカト云フ見積ノ問題デアリマス、是ハ委員會デ隨分爭ヒマシタ、私ハ議論ハ致シマセヌ、唯數字ヲドウ見ルカト云フ事デアリマス、是モ只今一番問題ニナリマシタノハ、酒ト煙草デアリマスカ、私ハソレヲ一々論ジマセヌ、先ヅ酒ニ付テ申シマスガ、清酒ニ對スル稅率ノ査定石數ト云フモノデ、増稅ヲシテカラドウ云フヤウニ消費ガ減ジ、稅ノ收入ガ減ジテ來ルカト云フコトヲ過去ノ實績ニ付テ調べテ貫ヒタイト云フコトデアリマシテ、其表ガ出來テ居リマス、所ガ政府ノ計算ハ私ハ數字ハ爭ハナイ、唯ドウ云フ風ニ消費減ガアルカト云フコトノ計算ノ仕方ニ付テ私ハ疑ヲ持ツノデアリマス、之ニ依ルト明治四十一年ノ酒造稅ヲ上ゲタ時ノ査定石數ノ減ツタノハ、初年ニ於テハ五分三厘、其次ニハ一割、サウ云フヤウナ數字ニナツテ居リマス、ソレカラ大正七年ノ増稅ノ時ハ三分方其年ニ減リ、其次カラハ減ラナイ、大正九年ノ増稅ノ時ハ初五分四厘、斯ウ云フヤウナ計算ガ出テ居リマス、所カ是ハ質問應答ニ依テ明カナナツテ居リマスガ、其増稅ガアルト云フコトヲ聞イタトキニハ、多少造石ヲスル、見越シテ造石スルト云フ傾ガアル、是ハ局長モ御話ニナッタト思フノデアリマス、現ニ今回ノ増稅ニ依テ大正十五年度ニドウナルカ、ソレカラ致シマシテ幾割増ストカ減ルトカ云フコトヲ考ヘラレテ居ル、所ガ増稅ナカリセバ大正十五年ニハドウナルカト云フコトノ觀察ノ起點ハ、大正十三酒造年度デアアル、大正十三酒造年度ノ造石數ト云フモノヲ標準ニシテ、ソレハ普通ノ場合——其時分ニハ増稅スルト云フコトノ聲ヲ聞カヌ時分デアアル、増稅スルト云フ聲ヲ聞カヌ時分ノ事デ、普通ノ年デナケレバナラヌ、増稅ノ聲ヲ聞イタ年ハ既ニ見越シテ造石ヲスルノデアアル、ソレデアリマスカラ、大正十五年度ニ増稅ナカリセバドウ位ニナルカ、政府ハ初ノ年ハ一割、其次ハ七分、其次ハ五分ト、斯ウ云フヤウニ減ズルト云フ計算ヲ立テラレテ居ルノデアアル、併シ其基礎ハ矢張大正十三年度ノ通りデ、前ノ前ノ年ノ大正十三酒造年度ヲ起點ニシテ考ヘタノデアアル、其論法ヲ以テスルナラバ、其割合ヲ出スノガ違ッテ來ナケレバナラヌ、即チ明治四十一年ノ増稅ノ時ヲ考ヘテ見マスノニ、是ハ明治四十年度ヲ取ツテハイケナイ、其時分ハ議會デ爭ハレテ居ル時分——明治四十酒造年度ト云フ時分ニ酒ガ拵ヘラレタ、其折ニ議會ニ問題ニ上ツテ居ルダカラ明治三十九酒造年度ヲ拵ヘナケレバナラヌ、ソレハ今ノ計算ト同ジコトニナル、サウナリマス、明治三十九酒造年度ヲ拵ヘレバ、清酒ノ造石數ハ四百十六萬七千七百二十一石デアリマスカラシテ、此増稅ノ時分モ直グ餘リ査定額ハ少クナラナイ、此政府ノ御示ニナツタ計數ハ割合ガスッカリ違ッテ來ル、即チ結論ヲ申シマス、増稅ニ依ル所ノ消費減ガサウ政府ノ示スヤウナ大キナモノハ出ナイ、消費減ハ僅カナモノデ、回復スル、斯ウ見ルベキデアアルト思フノデアリマス、大正七年ノ増稅ノ時分モ、大正六酒造年度ノ酒ヲ拵ヘテ居ル時分ニ議會ニ問題ニナツテ居リマスカラ、大正六年ノヲ取ツテハイケナイ、矢張今ノ時分ト同ジヤウニ大正五酒造年度ヲ取ラナケレバナラヌ、ソレヲ標準ニシテ考ヘナケレバナラヌ、ソレヲ標準ニシテ考ヘルト一ツモ消費減ハナイ、百分ノ三ト云ツテ居リマスケレドモ、一ツモ消費減ハナイノデアリマス、ソレカラ大正九年ノ場合モ此論法ニ依テ同ジ論法デ大正七年ノ酒造年度、是ハ増稅ノ聲ヲ聞カヌ時デアリマスカラ、其時ノ標準ニシテ考ヘナケレバナラヌ、サウシテ見マス、政府ノ消費減ハ見タ所ノ割合ガスッカリ違ッテ、次年度ニハ一寸減リマスガ、一年置イテ次ノ年ニハ段々殖エテ居ルノデアリマス、ソコデ私等ノ論ハ、以前カラ申シマス通りニ、酒稅ト云フモノヲ増稅スルト、ソレハ消費減ニハ多少ナリマス、造石減リナリマス、併シ直グ回復スルノデアアル、御話ノ通りニ大正九年カラ後ハ是ハ景氣ガ惡イノデアリマテ、景氣ガ惡イカラシテ其事モ考ヘテモ宜シイ、其景氣ガ惡イニモ拘ラズ、一年一寸消費減ガアッタノミデ、直グ回復シテ居ルノデアリマス、若シ政府ガ大正十五年度ニ増稅ナカリセバ、斯ウ云フヤウナ初メニハ一割、ソレカラ次ニハ七分、其次ニハ五分、斯ウ云フ風ニ計算セララルナラバ、サウ云フ計算方法ヲ御探リナラバ、御示ニナツタ此參考資料ハ違ッテ居ルト思フ、過去ノ實績ヲ土臺ニシテ、若シ消費減ト云フモノヲ御計算ニナリマシタナラバ、此數字ト云フモノハ間違ッテ居ルト思フ、酒稅ト云フモノヲ上ゲタナラバ、其次ノ年ニハ消費減ガアルカモ知レナイガ、直グ回復スルモノデアアル、況ヤ大藏大臣モ御話シ

ニナツタヤウニ、今ヤ財界ハ恢復ノ曙光
ガ見エテ居ル、恢復ノ途中ニアル、大正
九年ハ却テ逆ニ財界ガ惡クナッタ時ニ
於テスフ一年經ッタラ恢復シテ居ルカ
ラシテ、財界ガ恢復シカケテ居ル今日
ニ於テ、増税ノ影響ヲ考ヘタナラバ、私
ハモット早ク恢復スルト見ルノガ極メ
テ穩當デアルト思フ、此點ニ付キマシ
テ政府ノ見積ト云フモノガ、大體ニ於
テ平年度ニ落付クト見テ居ルト、斯ウ
云フ風ナ感ジラスルコトモ已ムヲ得ヌ
コトト思フノデアリマス、此點ニ付テ
政府ノ見ル所ヲ伺ッタノデアリマス

○黒田政府委員 酒造税ノ見積ハ色ミ
ノ事情ヲ考慮致サナクテハナラヌノデ
アリマシテ、只今小川君ノ御述ニナリ
マシタヤウニ、其御述ニナツタコトハ勿
論考慮シナケレバナラヌ點デアリマス
ガ、唯其一點ノミヲ以テ考ヘルコトハ
出来ヌノデアリマス、酒ニ付キマシテ
ハ増石ノ方面カラモ貯藏ノ方面カラモ
見マスルシ、又一面消費ノ方面カラモ
兩方カラ考ヘナケレバナラヌノデアリ
マス、御述ニナリマシタ通り増税ニナ
リマスル當時、即チ此法案ガ出テ居リ
マスル酒造年度ニ於テハ多ク造ル傾ニ
ナルノデアリマス、ソレカラシテ次ノ
年カラシテ幾分力減ッテ來ルト云フコ
トハ御述ニナツタ通りデアリマス、又過
去ノ實例モ其通りデアリマス、併ナガ
ラ増税ニナリマス故ニ、ドレダケ多ク
造ルデアラウカト云フコトハ、單ニ増

税ニナルト云フ事ニ依テ、過去ノ實例
通りニナルモノデハナク、其時ノ現狀
ニ依テ色ミ違ッテ來ヤウト思フノデア
リマス、現ニ御舉ゲニナリマシタ實例
ニ依テモ、明治三十九年ノトキ、大正七
年ノトキ、大正八年ノトキ、皆ナ増方ガ
各違ッテ居ルノデアリマス、是ハ其時
ノ經濟界ノ事情ニモ依リ、又藏出ノ狀
況ニ依テ色ミ違フ、酒屋ト致シマシテ
モ、其設備ヲ以テ造リマスカラ、如何ニ
増石致サウト致シマシテモ、貯藏桶ヲ
新ニ拵ヘルト云フコトモ困難デアリ、
又釀造場ヲ擴張致スコトモ困難デア
ル、又其時ノ米價ノ關係又市價ノ關係、
消費ノ狀況ニモ依ルノデアリマシテ、
是ハ一概ニ過去ノ例ヲ取ル譯ニモ參ラ
ヌ、過去ノ例モ其時々々ニ依テ増石高
ハ違フモノデ、又翌年ニ於ケル減高モ
御述ニナリマシタ通り差違ガアル、是
ハ其時ノ狀況ニ依テ違フト思フノデア
リマス、然ラバ今回ハ如何デアアルカト
申シマススト云フト、是ハ先般モ申述ベマ
シタ通り、現在ニ於キマスル、即チ此大
正十七年酒造年度ニ於テドウ云フ風ナ
狀況ニナルカト云フコトヲ考ヘテ見マ
スト、持越高ト云フモノハ先例ニ殆ド
ナイ位殖エテ居ル、丁度大正八年ニ稅
ヲ上ゲマシタトキノ持越高ト殆ド同ジ
ヤウニ、即チ非常ナ増石ヲ致シタ其時ト、
同ジヤウナ狀況ニナツテ居ルノデアリ
マスガ、消費ノ方面カラ見マススト云フ
ト、消費ハ近年々々減ッテ參ッテ居ルノ

デアリマス、即チ消費高ハ大正十二年
ガ五百八十一萬石、十三年ガ五百五十
二萬石ト云フヤウニ減ッテ參ッテ居リマ
ス、ソレデアリマスカラ、現在ノ狀況カ
ラ見マシテモ、消費ガ俄ニ殖エルト云
フ事ヲ豫想スルコトハ困難デアリマ
ス、然ルニモ拘ラズ、持越高ハ大正十二
年ニ二百七十九萬石、大正十三年ニ二
百八十三萬石、大正十四年ハ二百八十
八萬石ト、漸次持越高ハ殖エテ居ル、又
藏出高ハ減少シテ、十二年ハ五百三十
四萬石、十三年ハ五百八萬石ト云フヤ
ウニ減ッテ來テ居ル、即チ消費ガ割合ニ
伸ビナイデ、サウシテ貯藏酒ガ多イト
云フ現狀ニナツテ居ルノデアリマスカ
ラ、本年若シ酒造税ガ引上ゲラレナカ
タナラバ、是程マデモ増石スルコトハ
或ハ想像スルコトガ困難デアラウ、唯
稅制整理ノアリマスル結果ト致シマシ
テ、多少茲ニドレ位造ルデアラウト云
フコトヲ豫想シテ見マススト、大體ノ平
年ノ造リ高ヲ一方ニ考ヘテ見ナケレバ
ナラヌノデアリマス、ソレニ依リマス
ト云フト、大體十三年酒造年度ニ於キ
マスル造石高ヲ標準ニシテ極メルコト
ガ宜シイデハナカラウカト考ヘタノデ
アリマス、是ハ色ミナ方面カラ參ッタノ
デアリマス、一概ニ唯、稅ガ増スカラ、
如何ナル現在ノ狀況ニアッテモ増石ヲ
スルト云フコトハ考ヘラレナイノデア
リマス、又殊ニ從來増税ニナリマスル
コトヲ見越シテ増石ヲ致シマシタモノ

ガ、果シテソレダケノ利益ヲ得テ居ル
カト云フコトヲ考ヘテ見マススト云フ
ト、翌年ニ於テ非常ナ市價ノ激落ヲ來
シテ、多クハ損失ヲスル者ガ小酒造家
ニハ多イノデアリマス、サウ云フ關係
カラシマシテモ、此頃ハ酒造家ニ於テ
モ相當ニ覺醒ヲ致シテ居リ、サウ濫リ
ナ増石ハ致サナイト云フヤウナ狀況ニ
モアルノデアリマスカラ、過去ノ例ノ
多イ時ヲ取ッテサウ云フ風ニ想像スル
コトハ困難デアリマス、次ニ翌年度カ
ラノ收入減デアリマス、收入減ハ申上
ゲル迄モナク時ニ依テ違フノデアリマ
スガ、前年増石ヲ多クシテ置ケバ、持越
ガ多クナルノデ、翌年ハ造石ヲ控ヘル
コトニナラウト思ヒマス、翌年度ノ狀
況ヲ考ヘテ見マススト、既ニ前年減石ヲ
シナケレバナラヌモノヲ減石シテ居ラ
ヌガ爲ニ、非常ニ困ッテ居ルト云フコト
ハ先般申述ベタ通りデアリマス、其點
カラ致シマススト、翌年度ハ一割減石ス
ルコトハ困難デナイト思フ、是ハ堅實
ナル酒造業ヲ致シマス上ニ於テハ、當
然感ジナケレバナラヌコトデアラウト
考ヘマス、過去ノ例ヲ見マシテ、大正九
年ノ如キハ經濟界ノ不況ノトキハ二割
七分五厘ト云フ非常ナ減石デアッタ、ソ
レカラ十年十一年十二年ヲ過ギマシ
テ、未ダ以前ノ狀態ニ復セナイト云フ
ヤウナ狀況ニナツテ居ル、是ハ經濟界ノ
狀況モアリマスガ、サウ云フ風ニナツ
テ居ルノデアリマスカラ、今度ハソレ程

マデ長ク見ナクトモ一割、七分五厘、五分ト云フ位ノ所デ平準ニ復スルモノデアル、大正十三年度位ノ造石數ニハ復スルデアラウト云フ風ニ考ヘタ次第デアリマシテ、唯漫然ト致シタ譯デハアリマセヌ、色々全國ノ酒造家ノ現狀等ヲ實ハ平素報告ヲ取ツテ居リマスルノデ、其等ヲ考慮シテ、斯ウ云フ風ニ見ルノガ宜カラウト云フ所カラ認メタノデアリマス、又以前ノ二十三圓ヲ三十三圓ニ増シタトキト、今回ノ四十圓ニ増シタトキノ狀態等モ考ヘナケレバナラヌト思フノデアリマス

○小川委員 私ハ此問題ハ此程度デ打切リマスガ、唯見積ノ大體方針ヲ問題トシテ論ジテ居ッタノデアリマス、政府ノ御提出ニナツテ居ル資料カラ致シマスレバ、私ハ私等ノ考ヘタ方ガ誤リデナカタコトヲ思フノデアリマス、尙ホ煙草ニ付キマシテモ、モットヒドイノデアリマスガ、一々是ハドウダ、是ハドウダト云フコトハ言ハナイ、見積ノ大方針ニ付テ論ジテ居ルノデアリマシテ、吾々ハ初メカラ疑フ持ツテ居ッタコトガ、政府ノ示サレタ資料ニ依テ確デアッタト云フコトヲ私ハ考ヘルノデアリマス、酒ノコトニ付キマシテモ、局長カラ色色御辯解ガアリマシタガ、酒ノ見積ニ付キマシテモ一寸計數ハ持ツテ居リマセヌガ、毎年サウ違ハナイ、二百八十萬石カラ二百七十萬石位ノ所ヲ上下シテ居ルヤウナ譯デ、大シテ違ハナイノデ

アリマス、併シ數字ニ互リマスカラシテ、私ハ此問題ハ此程度デ止メテ置キマス、次ニ、モウ私ハ議論ヲシナイノデアリマスカラ、唯簡單ニ答ヘテ戴ケバ宜シイノデアリマス、問題ハ大口君ノ御質問ニナリマシタコトデ、大藏大臣ナリ内務大臣ナリノ方ノ御答ガアリマシタ、ソレニ關聯シタ問題ヲ御伺ヒシタイノデアリマス、即チ大口君ノ疑問ニセラレタノハ、營業收益稅ト資本利子稅トノ關係、營業收益稅ノ中カラシテ資本利子稅ヲ差引クト云フ規定ガアルノデアリマシテ、之ニ付テ問題ガ起ツタノデアリマス、大口君ハ事例ヲ示サレマシテ、神田銀行ノ如キ、營業收益稅カラ資本利子稅ヲ引クト、殆ド無クナツテシマフ、ソレガ一ツノ事實、ソレカラサウスルト營業收益稅ニ對シテ附加稅ガ掛ケラレヌカラシテ、地方ノ財政ガ困ル、是ガ問題デアリマシテ、ソレデ内務大臣ノ御辯明ガアリマシテ、ソレハ速記録ニモアリマスガ、補完稅ノ重複課稅ヲ避ケル爲ニ已ムヲ得ザルコトデアツテ、ソレガ爲ニ地方ノ財源ニ困ルト云フコトデアレバ、或ハ特別稅ヲ起ストカ何トカ、或ハ營業收益稅ニ付テハ附加稅ヲ課シテモ宜イト云フヤウナ規定ヲ法律デ設ケル、サウ云フヤウナ御辯明ガアッタノデアリマス、是ハ事實デアリマスガ、サウデアアルトスルナラバ、私此處デ御伺ヒシタイノハ、次ニ起ル問題ハ、第二種所得稅ト、第一種所得稅

トノ關係デアリマス、是ハ大口君ガ本會ナリ、又此處デモ御尋ニナリマシタガ、大口君ノ言ハレタノト私ノ言フ所ハ少シ違ツテ居ルノデアリマス、大口君ノ舉ゲラレマシタ神田銀行ノ例ヲ持ツテ來マスガ、サウシマスルト、營業收益稅カラ資本利子稅ヲ引ケバ、殆ド無クナルノデアリマス、神田銀行ノヤウナ法人ニナツテ居ルモノ、ソレノ第一種所得稅ト、營業收益稅トハ大シテ違ヒハナイモノデアアルト思フ、此銀行ガ公社債ヲ各澤山ニ持ツテ居ルカラ、第二種所得稅ガ多イ、殊ニ第二種所得稅ノ率ガ高イ、ソコニ非常ニ隔リガアルノデアリマス、尤モ國債證券ニ付テ片方ハ掛ケル、片方ハ掛ケヌト云フ、ソコノ違ヒデアリマスガ、アノ大口君ノ御出シニナツタ事實ヲ捉ヘレバ、大體ニ第一種所得稅カラ第二種所得稅ヲ引クト、殘ス所幾何モナイ、公社債ヲ多ク持ツテ居ル所ノ銀行ニ於テハ、或ハ第一種所得稅ト云フモノハ一ツモ拂ハナクテモ宜イト云フコトガ起リ得ルト思フ、サウスルト神田銀行ハ第二種所得稅ノミ拂ツテ、第一種所得稅ハ拂ハヌト云フコトニナルノデアリマス、資本利子稅ト營業收益稅トハ同ジコトデアアル、其事實ヲ認メルト、更ニ進ンデ地方稅問題ガ起ルノデアリマス、第一種所得稅ニ付テハ附加稅ヲ課シテ居ル、第二種所得稅ニ付テハ附加稅ヲ課セラレヌ、是ハ地方稅ノ制限ニ關スル法律ニ明白ニ書

イテアル、此關係ハ全然同ジコトデアアル、サウスルト、政府ガ御聲明ニナツタコトハ、此場合ニモ適用スル譯デ、此缺陷ト言ヒマスルカ、何デアルカ知レマセヌガ、地方稅ハ第一種所得稅ト云フモノガ無イカラ、附加稅ハ無イ譯ニナル、第二種所得稅ハ規定ニ依テ附加稅ガ課セラレヌノデアリマス、サウスルト斯ウ云フコトニナル、神田銀行ノヤウナモノガアルト云フコトヲ若槻内務大臣ハ御認ニナツテ居ルノデアリマスカラ、サウ云フモノハ第一種所得稅ヲ拂ハズ、營業收益稅ヲ拂ハナイ、何ヲ拂フカト云フト、資本利子稅ト第二種所得稅、ソレダケシカ拂ハナイ、之ニ對シテ地方稅ノ附加稅ガ課セラレナイ、斯ウ云フコトニナル、大口君ハ唯一方面カラ御覽ニナツテ居ルノデアリマスガ、此兩方面カラ來ルノデアリマス、サウスルト地方ノ財政ト云フモノハ益困窮スルコトニナルノデアリマスガ、是ハ若槻内務大臣ハ前ノ場合ヲ御認ニナツタノデアリマスカラ、此場合ヲ御認ニナラヌコトハナイト思フノデアリマスカ、念ノ爲ニ御伺ヒスルノデアリマス

○黒田政府委員 ソレハ營業收益稅ト全ク同ジコトデアリマス、ソレハサウ考ヘテ居リマス

○小川委員 簡單明瞭ノ御答デ甚ダ満足致シマス、サウスルト此方モ、政府ハ前ノ場合ニハ多少委員ハ手ヲ附ケテモ宜イト云フヤウナ口吻デアリマシタ、

アノ總理大臣ノ口吻ハ、此場合ニモ適用スルト思フノデアリマスガ……

○濱口國務大臣 其場合ニ於テハ、審議ノ進ムニ從ヒマシテ能ク考慮致シマス

○小川委員 尙ホソレニ關聯シテ、第一種所得稅額カラ第二種所得稅額ヲ扣除スルト云フコトト、營業收益稅額カラ資本利子稅額ヲ扣除スルト云フコトトニ關聯シテ、マダ伺ヒタイノデアリマス、政府ハサウ云フ場合ニ於キマシテ、資本利子稅額並ニ第二種所得稅額ヲ正確ニ捉ヘナケレバナラヌノデアリマス、サウシマセスト云フト、法人ニ於テ第二種所得稅額ヲ差引クト云フ時分ニ間違ガ起ルノデアリマス、如何ニシテ第二種所得稅額若クハ資本利子稅額ヲ御押ヘニナルノデアリマス、大藏大臣ハ屢御聲明ニナッタノデアリマス、債券ハ無記名式ガ多數デアル、所有者ハ僞名ヲ用ヒタリ何カシテ、連モ之ヲ押ヘルコトハ出來ナイ、又銀行ノ預金モ中面倒臭クテ容易ニ捉ヘラレヌ、是ハ大藏大臣ノ唯一ノ論法デアリマスガ、法人ガ無記名債券ヲ持ッテ居ル場合ニハ押ヘラレルト云フノデアリマス、法人ガ銀行預金等ヲ持ッテ居ル時分ニハ、之ヲ調べルノガ面倒デナイト云フノデアリマス、此點ヲ一ツ伺ヒタイ、ドウシテ第二種所得稅額若クハ資本稅額ヲ押ヘルノデアリマス、既ニ此間モ、此委員會デ質問應答ガア

リマシタガ、今日マデ法人ガ持ッテ居ル所ノ公債社債額ニ對シテ或ハ百分ノ二ナラ百分ノ二ヲ掛ケタナラバ幾ラデアルカ、其計數ヲ考ヘラレテ三百萬圓ト云フヤウナ數字ガ出タノダト思フノデアリマス、是ハドウシテ御調べニナルノデアリマス、ソレヲ伺ヒタイノデアリマス

○黑田政府委員 是ハ詳細ナ規定ハ何レ施行規則デモ設ケナケレバナラヌト思ヒマスガ、大體ニ於キマシテ申告ヲ取リマシテ、貸借對照表ヲ調べマシレバ、法人ガ第二種所得稅ヲ幾ラ納メタ、ドレダケ有價證券ヲ持ッテ居ッテ、ドレダケ所得稅ヲ納メタカト云フコトヲ見ルコトハ、決シテ困難デナイト考ヘテ居リマス、個人ノ場合ニ於テ、無記名證券ニ對シテ個人ノ所得稅ヲ捉ヘルコトハ困難デアルト云フコトハ、是ハ過日私ガ此席ニ居リマセヌデシタガ、他ノ政府委員カラ詳シク申上ゲタト思ヒマス、省略致シマス、法人ノ場合ニ於テハ是ハ出來ルト思ヒマス、ソレガ故ニ恐ラクハ大口サンモ銀行ノ實例ヲ舉ゲテ、是ダケ引ケバ斯ウナルデハナイカト言ハレタノデアルト思ヒマス、是ハ現在ニ於テモ出來ルノデアリマス、此點ハ困難デハナカラウト考ヘテ居リマス

○黑田政府委員 先程申上ゲタ通り施行規則ニ於テ相當ナ規定ヲ設ケル積リデアリマス、大要ハ申告ヲサセマシテ、其申告ニ計算書ヲ付ケサセル積リデアリマス、尙其計算書ト貸借對照表或ハ其他ノ書類等ヲ付ケサセマシテ、又或ハ進ンデ計算書等ヲモ無論見ナケレバナリマセヌ、ソレニ依リマシテ大體信用ヲ得テ居ル、若シ信用ヲ得ナケレバ相當調査ヲ致シマシテ適當ナルモノト考ヘマシテ、初メテ控除ヲ認メル、控除ヲシマスニハ命令ノ定メル所ニ依ルト思ヒマスガ、命令ニ相當條件ヲ付ケタイト思フノデアリマス

○三輪委員長代理 一時間休憩致シマシテ、午後一時ヨリ再開スルコトニ致シマス

○三輪委員長代理 一時間休憩致シマシテ、午後一時ヨリ再開スルコトニ致シマス

○小川委員 午前中ニ質問ヲシテ居リマシタコトヲモウ少シ敷衍シテ申上ゲマス、第二種所得稅第一種所得稅カラ扣除スル、資本利子稅額ヲ營業收益稅額ヨリ控除スル、此控除スルノヲ如何ニシテ引提マヘルカト云フコトヲ御尋ヲシテ居ルノデアリマス、政府ハ貸借對照表ヲ見テヤルト云フヤウナ御答デアリマシタガ、所ガ貸借對照表ニハ國債モアリマスシ、地方債モアリマスシ、社債モアリマスガ、サウ云フモノガ一緒ニナッテ出テ居リマス、ソレヲ分ケテ見ナケレバナラナイト思フノデアリマス、ドウ云フ風ニシテソレガ見當ガ付キマス、ソレカラモウ一ツノ點ハ貸借對照表デアリマス、決算ニ關係ノ書類ト云フモノハ、其決算期ニ於ケル現在ニ於テノ規定ニナッテ居リマス、事業年度ニ於テ公債社債ノ賣買ト云フモノガアリマス、其決算期ト云フモノト利子ヲ得ル其時期ト云フモノハ、必ズシモ一緒ニナッテ居リマセヌ、其移ルモノモ見ナケレバナラヌ、デアリマス、特別ニ法人ヲシテ申告セシノルト云フコトニナッテ之ヲ持ッテ行クト云フ風ニナリハシナイカト思フノデアリマスガ、如何デアリマセウカ

○小川委員 私議論ハ致シマセヌ、簡單ニ申上ゲマスガ、實際ニ法人ヲシテ申告セシムルト云フコトデアリマスガ、矢張法人モ中ニハ僞ヲ言フ者ガアラウト思フ、殊ニ資本利子稅額ヲ引イテ貫ッテ營業收益稅額ガ少クナル、ソレカラ第二種所得稅額ヲ引イテ、第一種所得稅額ガ少クナルト云フコトデアレバ、ソコニ法人ガ脱稅ヲ試ミヤウトスルモノガアレバ、公債社債ノ額ヲ多クスルト云フヤウナコトガ起リハセヌカト思フ、ドウシテモ之ヲ嚴重ニ取締ラナケレバ不正ガ盛ンニ起ルト思フノデアリマス、サウスレバ矢張是ハ法人ノ方ダケノ申告ニ止メナイデ、之ヲ拂ッタ所ノ公債社債ノ資本ハ勿論、利子ヲ支拂フモノ、或ハ銀行ナラバ銀行預金利子ト云フモノハ、申告セシムル必要ハ當

然起ルト思フノデアリマスガ、ソレハ如何デアリマセウカ

○藤井政府委員 法人ノ支拂ヒマシタ第二種所得ガ幾ラデアルト云フコトヲ調ベマスニ付テハ、今主税局長ヨリノ御答ガアリマシタガ、其時ニハ無論其當該法人ノ拂ヒマシタ第二種所得税額ハ幾ラニナルカト云フコトノ證明書ヲ附ケサセル積リデアリマス、言葉ヲ換ヘテ申セバ、銀行預金トシテ利子ヲ受ケル場合ニ、幾ラ第二種所得税額ヲ控除サレタカト云フ計算書ヲ附ケサセル積リデアリマス、ソレニ依テ大體法人ノ拂ヒマシタ第二種所得税額ガ幾ラデアルカト云フコトヲ證明シタモノヲ附ケサス積リデアリマス

○小川委員 證明書ト言ヘバ、矢張支拂フ人ガ證明スルト云フコトニナルト解釋致シマスガ、サウデアリマスカ

○藤井政府委員 普通銀行預金ノ利子ノ支拂ヲ致シマス場合ニハ、算出利子ガ幾ラニナルカ、隨テ第二種所得税額ガ幾ラニナルカト云フコトヲ銀行デ計算ヲ附ケマス、其計算書ヲ税務署ニ取ル積リデアリマス

○小川委員 今銀行預金ノ御話デアリマシタガ、個人ノ方ニ於テモ拂フ時分ニハ拂フ者ガサウ云フ風ナ計算書ヲ附スルコトニナル、斯ウ解シテ宜シイト思ヒマス、然ラバ私濱口大藏大臣ニ御尋致シマス、私ガ第二種所得税ヲ第三種所得税ニ綜合課税スルト申シタ場合

ニ、大藏大臣ハ、無記名ノモノハ誰ガ來ルノカ分ラナイカラ、捉ヘラレモノデナイト言ッテ、非常ナ勢ヲ以テ、私等ノ案ト云フモノハ理論ニ捉ハレテ實行ノ出來ナイモノデアルト云フ風ニ御蹴リニナッタデアリマスガ、矢張ドウデスカ、今ノ政府委員ノ御説明ニ依テモ、愈拂フ時分ニハ計算書ヲ添ヘル、サウスルト法人ノ代理人トシテ、權兵衛カ太郎兵衛カ分ラヌヤウナ者ガ使ニ來マス、ソレヲ捉ヘルニハ、私ハ神田鑑藏ナ

ラ神田鑑藏ノ代理人デアルト云フ、ソレヲ申告サセテ、ソレヲ捉ヘルヨリ外ナイト私ハ思フノデアリマス、濱口大藏大臣ハ、今日ノ納税道德ト云フモノハ進ンデ居ナイノデ、無記名債券ト云フモノハ捉ヘラレヌ、又銀行預金ナント云フモノハ面倒クサクテ計算ナンカ出來ルモノデヤナイト云フ論理デオヤリニナッテ居ッタノデスガ、今日第二種所得税額ヲ引ク、或ハ資本利子税額ヲ引クト云フコトニナレバ、矢張私ト同ジ論理ニ復ッテ、支拂フ者ヲシテ計算書ヲ添ヘシメルトカ、無記名ノ債券デア

レバ矢張代理人ヲ捉ヘルノダト抑シヤルデアリマセヌカ、デアルカラ私ハ矢張法人ト個人ノ別ナク、支拂フ時ニ於テ計算書ヲ出スト云フヤウナ風ニ、又ソレヲ銀行ナラ銀行、公債社債ノ利子ヲ拂フ者ナラ拂フ者ガ、又片方デ税務署ニ申告スルト云フノデナケレバ、取締ガ出來ナイト思フ

○藤井政府委員 只今私ノ御答致シマシタノハ、法人ノ拂ッタ第二種所得税ヲ税務署デ調べル時ニドウ云フ方法ヲ執ルカト云フダケノ御話デアリマシタノデ、簡單ニソレダケヲ申上ゲタノデアリマスガ、無論法人ヲシテ自分ノ拂ッタ第二種所得税額ガ幾ラニナルト云フ計算書ヲ出サセ、ソレニ關スル明細ナル參考資料ヲ提出セシムルコトハ勿論デアリマスガ、ソレダケデハ税務署ニ於テ眞偽ノ尙ホ分ラヌ點ガアルト思フ、其場合ニハ勿論主税局長モ申シマシタ通り、會社ノ貸借對照表其他ノ書類ヲ對照致シマシテ、税務署ニ於テハ法人ニ付テハ調査ガ出來ルト思ヒマス、其論法ヲ以テ直ニ之ヲ個人ノ拂ッタ第二種所得税ニ付テモ矢張調査ガ出來ルデハナイカト云フ御考ノヤウデアリマスガ、此點ハ法人ト個人ノ間ニ非常ニ差ガアルト思ヒマス、法人ニ付テハ只今申ス通り相當ノ計算書類ガアリマスガ、個人ニ付キマシテハ之ヲ同一ニ論ズルコトハ今日ノ實情ニ於テハ出來ナイト思ヒマス

○小川委員 公債社債ノ利子ヲ支拂フ者、或ハ預金ノ利子ヲ支拂フ者、即チ銀行、其銀行ヲシテ、法人ノ第二種所得税或ハ資本利子税ト云フモノニ付テドレダケ拂ッタカト云フ事ヲ、税務署ノ方ニ届ケサスコトハヤラヌノデスカ、ヤルノデスカ、ソコヲ伺ヒタイ

○黒田政府委員 ソレハ先程私ガ御答申上ゲタ通り、利子ノ支拂スル方ノ者カラ誰ニ支拂ッタカト云フコトヲ調ベマスコトハ、非常ニ困難デアリマス、是ハ外國ニ於キマシテモ非常ニ苦心シテ居ルヤウデアリマスガ(小川委員「分リマシタ、ソレデ宜シイト呼フ」)ソレハ取レナイト思ヒマス、デアリマスカラ所謂税ヲ拂ッタ方、即チ利子ヲ受取ッタ方ニ於テ十分調べル積リデアリマス

○小川委員 サウシマス、法人ノ第二種所得税ヲ引ク、或ハ資本利子税ヲ引クト云フコトハ、唯法人ヲシテ申告セシムルノミデ、支拂フ者ハ申告セシメナイ、斯ウ云フコトニ御極メニナッテ居ルノデスネ——ソレデアレバ私ノ申シマシタ通り、法人ガ、神田銀行ナラ神田銀行ト云フモノガ好イ加減ナ計算書ヲ出シテ、資本利子税ト云フモノヲ是ダケ拂ッタ、第二種所得税ヲ澤山拂ッタ言ッタクニ、如何ニシテ其眞實ヲ捉ヘルコトガ出來マスカ、私ハ兩方面カラ之ヲ押ヘナイデ、一方面ノミデヤルト云フコトハ、大藏大臣ノ言葉ヲ藉リテ今日ノ租税道德ト云フモノガ信ゼラレナイ、嘘ヲ言フノデアルト云フ、其嘘ヲ言フ者ダケノ申告ニ止メテ置クト云フコトハ、税法ノ缺陷デアリマス

マイカ、サウ云フ風ニシマス法人ヲ組織シテ居ル者ハ、第二種所得税額ヲ多ク申告シ資本利子税額ヲ好イ加減ニ報告シテ逃ゲテシマフ、第一種所得税

第五類第一號 所得税法中改正法律案(政府提出)外二十七件委員會會議錄 第十三回 大正十五年二月十五日

ハ拂ハナイ、營業收益稅ハ拂ハナイ、而シテ何モ取締ル方法ガナイ、是デハ稅法ノ大缺陷デハアリマセヌカ、私ハ濱口大藏大臣ノ言葉ヲ藉リテ、今日租稅道德ト云フモノガ進ンデ居ナイ、皆逃ゲヤウト思ッテ居ルカラシテ、茲ニ問題ガ起ル、其論理ヲ進メテ言ヘバ、是ガ第一種所得稅ガ取レナイ方法、營業收益稅ガ取レナイ方法ヲ講ジテ居ルモノデアル、私ハ此點ニ於テ此稅法ノ大缺陷ヲ認メザルヲ得ナイト思フ、ドウシテ之ヲ抑ヘマスカ

○藤井政府委員 先日來大藏大臣カラ屢御説明ニナッテ居リマス通リ、日本ノ今日ノ納稅道德ハマダ理想ノ域ニ達シテ居ルト吾々ハ思ッテ居リマセヌ、而シテソレハ個人ト法人トニ付キマシテハ、其間ニ非常ニ徑庭ガアルノデアリマス、法人ニ付テモ勿論計算書ヲ多少事實ト違フモノヲ作りマシテ、脫稅ヲ圖ラントスルモノガアリマス、無イトハ申シマセヌ、ケレドモ今日ノ實況ニ於キマシテ、法人ニ對スル課稅ハ大體會社ノ作りマシタ計算書ヲ基礎ト致シマシテ、稅務署ノ方ニ於テ之ヲ十分ニ調査致シマシテ、其調査ノ結果ニ於テハ大體ニ於キマシテ法人ニ對スル課稅ハ相當ニ行ッテ居ルト、私共ハ考ヘテ居リマス、此點ニ於キマシテ、個人ノ課稅ニ對スル脫稅ノ關係トハ、法人ノ課稅ニ對スル脫稅ノ關係トハ、其間ニ於テ非常ナ差ガアルト吾々ハ認メテ居リマ

ス、此點ハ御諒承ヲ願ヒマス
○小川委員 私ハ此以上御尋シマセヌ、唯私希望ヲ述ベテ置キマス、所得稅法ノ精神カラ言ヘバ、即チ課稅物件ヲ捉ヘルト云フコトハ、所得ヲ得テ居ル者ト、其所得ヲ拂ウタ者、兩方面カラ抑ヘルト云フ大體精神デ、出來テ居ルト私ハ信ズルノデアリマス、唯今回設ケラレマシタ第二種所得稅ヲ引ク、資本金子稅額ヲ引クト云フコトニ付テノミ、法人ノ方ダケデ申告サスト云フ片破ノ規定ヲ設ケラレルト云フコトハ、私ハ所得稅法ノ缺陷デアリ、或ハ資本利子稅法ノ缺陷デアルト思フノデアリマスカラ、茲ニ言葉ニ捉ハレナイデ、公平ニ金持ヲ逃サヌヤウニ、命令デモ規定スル折ニハ一ツ御考慮ニナッテ戴キタイト思ヒマス、然ラザレバ是ハ大變ナ問題ニナルト思フノデアリマス、モウ此以上ハ爭ヒマヌ、ソレカラ同族會社ニ付テモウ一ツ同ツテ置キマス、此間伺ッタ事ハ承知シテ居リマスガ、同族會社ニハ法人ノ普通所得稅ヲ掛ケマス其外ニ、二十一條ノ二ノ規定ガ今度出來マシテ、非常ニヤコシイ計算法ニ依テ累進稅ヲ掛ケルト云フコトニナッテ居リマス、ソレハ累進稅ヲ加算スルコトヲ得トシテ居リマスノデ、或ハ脫稅ノ爲ニ同族會社ヲ形造ッテ居ルノデナイモノ、事業本位ノ同族會社ト云フモノハ之ヲ加算セナイ、サウ云フ餘地ガ存シテアルト云フ風ナ政府委員ノ御答

辯デアリマシタ、私ハ茲ニ於キマシテ誰ガ一體加算セザルモ可ナリ加算シテモ宜シイト云フ事ヲ極メルカ、是ハ稅務署デアル、或ハ大藏大臣デアルデセウ、サウシマススト茲ニ稅務官ニ非常ニ大ナル權限ヲ與ヘルコトニナル、同族會社デ脫レントスルモノヲ捉ヘルト云フコトモ、捉ヘスト云フコトモ勝手デアル、茲ニ何カ標準ガナケレバ、加算スルコトヲ得トシタダケデ追放シテ置イテハ、私ハ非常ナ缺陷ガ茲ニ起リハセヌカト思フノデアリマス、若シ稅務官ガ今日ノ同族會社ヲ皆引捉マヘルコトガ出來テ居ッタラ宜シイ、今マデ説明モ聞キマシタガ、「配當ト見做スコトヲ得」ト云フ今日ノ七十三條ノ二デアリマシタガ、アノ規定ハ實際行ハレテ居ラヌト云フデヤアリマセヌカ、是モ配當ト見做スコトヲ得ト書イテアル、得ナンデス、得デアルカラ實際稅務官ト云フ者ハ其權限ヲ持タナイ、或ハ其行爲ノアル者モ計算スルコトガ出來ヌ、是デアッテハ中々出來ナイノデアアル、然ルニ今回ノ同族會社ニ付テ今ノヤウナ計算法ニ依テ計算スルコトヲ得トシテアル、是ハ私ハ實行出來ナイ事ニナリハシナイカト思フ、ノミナラズ或ル金持階級ヲ元ニ依テ擁護シテ行クノデアアル、加算スルコトヲ得ト法律ニ書イテアッテ、加算シナイノデスカラ、多クハ大抵百分ノ五ノ普通所得稅ダケデ逃ゲテシマフ事ニナリハセヌカト云フ心配

ガアルノデアリマスガ、此點ニ付テ政府ハ心配ナイト云フコトヲ明ニ御證明願ヒタイノデアリマス
○黒田政府委員 之ヲ得ト書イテアリマスル事ニ付キマシテハ、只今御述ニナリマシタヤウニ、之ニ當ルベキ者ガ必シモ負擔輕減ノ目的デ以テ見テ居ルトノミ見ルコトハ出來ナイノデアリマス、得ト書イテ、其他ニ規定ヲ設ケル積リデアリマスガ、是ハ現行法ニ於キマシテモ、矢張同ジ様ニナッテ居ルノデアリマス、現行法ト同ジヤウニナッテ居ルガ、現行法ノ適用ガ今マデナカッタデハナイカト云フ御話デアリマスガ、是ハ實際ニ於テ御觀察ガ違フノデアリマス、現行法ニ於キマシテハ、未ダ此制限ニ達シマスルモノガ、割合ニ少イノデアリマス、段々モウ此頃カラ達シテ參ッテ居ルノデアリマス、モウ多クノ法人ガ段々ソレニ達シツツアルノデアリマス、是カラ段々適用ガ多クナッテ來ルノデアリマスガ、併ナガラ現行ノ規定ニ於テ此不便ナリト云フコトハ、是ハ過日説明シタ通りデアリマスカラ省略致シマスガ、ソレニ依テ今回適用ノ實行出來易イヤウニ之ヲ改正シタノデアリマスカラ、今後ニ於キマシテハ能ク其間ノ區別ヲ致シマシテ、十分ニ此規定ノ勵行ヲ期シタイト思ッテ居リマス、勿論之ヲ決シマスルノニハ、單リ稅務署長ノ專斷デ決シマセヌ、稅務署長カラシテ監督局長ニモ上申サセテサウシ

辯デアリマシタ、私ハ茲ニ於キマシテ誰ガ一體加算セザルモ可ナリ加算シテモ宜シイト云フ事ヲ極メルカ、是ハ稅務署デアル、或ハ大藏大臣デアルデセウ、サウシマススト茲ニ稅務官ニ非常ニ大ナル權限ヲ與ヘルコトニナル、同族會社デ脫レントスルモノヲ捉ヘルト云フコトモ、捉ヘスト云フコトモ勝手デアル、茲ニ何カ標準ガナケレバ、加算スルコトヲ得トシタダケデ追放シテ置イテハ、私ハ非常ナ缺陷ガ茲ニ起リハセヌカト思フノデアリマス、若シ稅務官ガ今日ノ同族會社ヲ皆引捉マヘルコトガ出來テ居ッタラ宜シイ、今マデ説明モ聞キマシタガ、「配當ト見做スコトヲ得」ト云フ今日ノ七十三條ノ二デアリマシタガ、アノ規定ハ實際行ハレテ居ラヌト云フデヤアリマセヌカ、是モ配當ト見做スコトヲ得ト書イテアル、得ナンデス、得デアルカラ實際稅務官ト云フ者ハ其權限ヲ持タナイ、或ハ其行爲ノアル者モ計算スルコトガ出來ヌ、是デアッテハ中々出來ナイノデアアル、然ルニ今回ノ同族會社ニ付テ今ノヤウナ計算法ニ依テ計算スルコトヲ得トシテアル、是ハ私ハ實行出來ナイ事ニナリハシナイカト思フ、ノミナラズ或ル金持階級ヲ元ニ依テ擁護シテ行クノデアアル、加算スルコトヲ得ト法律ニ書イテアッテ、加算シナイノデスカラ、多クハ大抵百分ノ五ノ普通所得稅ダケデ逃ゲテシマフ事ニナリハセヌカト云フ心配

辯デアリマシタ、私ハ茲ニ於キマシテ誰ガ一體加算セザルモ可ナリ加算シテモ宜シイト云フ事ヲ極メルカ、是ハ稅務署デアル、或ハ大藏大臣デアルデセウ、サウシマススト茲ニ稅務官ニ非常ニ大ナル權限ヲ與ヘルコトニナル、同族會社デ脫レントスルモノヲ捉ヘルト云フコトモ、捉ヘスト云フコトモ勝手デアル、茲ニ何カ標準ガナケレバ、加算スルコトヲ得トシタダケデ追放シテ置イテハ、私ハ非常ナ缺陷ガ茲ニ起リハセヌカト思フノデアリマス、若シ稅務官ガ今日ノ同族會社ヲ皆引捉マヘルコトガ出來テ居ッタラ宜シイ、今マデ説明モ聞キマシタガ、「配當ト見做スコトヲ得」ト云フ今日ノ七十三條ノ二デアリマシタガ、アノ規定ハ實際行ハレテ居ラヌト云フデヤアリマセヌカ、是モ配當ト見做スコトヲ得ト書イテアル、得ナンデス、得デアルカラ實際稅務官ト云フ者ハ其權限ヲ持タナイ、或ハ其行爲ノアル者モ計算スルコトガ出來ヌ、是デアッテハ中々出來ナイノデアアル、然ルニ今回ノ同族會社ニ付テ今ノヤウナ計算法ニ依テ計算スルコトヲ得トシテアル、是ハ私ハ實行出來ナイ事ニナリハシナイカト思フ、ノミナラズ或ル金持階級ヲ元ニ依テ擁護シテ行クノデアアル、加算スルコトヲ得ト法律ニ書イテアッテ、加算シナイノデスカラ、多クハ大抵百分ノ五ノ普通所得稅ダケデ逃ゲテシマフ事ニナリハセヌカト云フ心配

辯デアリマシタ、私ハ茲ニ於キマシテ誰ガ一體加算セザルモ可ナリ加算シテモ宜シイト云フ事ヲ極メルカ、是ハ稅務署デアル、或ハ大藏大臣デアルデセウ、サウシマススト茲ニ稅務官ニ非常ニ大ナル權限ヲ與ヘルコトニナル、同族會社デ脫レントスルモノヲ捉ヘルト云フコトモ、捉ヘスト云フコトモ勝手デアル、茲ニ何カ標準ガナケレバ、加算スルコトヲ得トシタダケデ追放シテ置イテハ、私ハ非常ナ缺陷ガ茲ニ起リハセヌカト思フノデアリマス、若シ稅務官ガ今日ノ同族會社ヲ皆引捉マヘルコトガ出來テ居ッタラ宜シイ、今マデ説明モ聞キマシタガ、「配當ト見做スコトヲ得」ト云フ今日ノ七十三條ノ二デアリマシタガ、アノ規定ハ實際行ハレテ居ラヌト云フデヤアリマセヌカ、是モ配當ト見做スコトヲ得ト書イテアル、得ナンデス、得デアルカラ實際稅務官ト云フ者ハ其權限ヲ持タナイ、或ハ其行爲ノアル者モ計算スルコトガ出來ヌ、是デアッテハ中々出來ナイノデアアル、然ルニ今回ノ同族會社ニ付テ今ノヤウナ計算法ニ依テ計算スルコトヲ得トシテアル、是ハ私ハ實行出來ナイ事ニナリハシナイカト思フ、ノミナラズ或ル金持階級ヲ元ニ依テ擁護シテ行クノデアアル、加算スルコトヲ得ト法律ニ書イテアッテ、加算シナイノデスカラ、多クハ大抵百分ノ五ノ普通所得稅ダケデ逃ゲテシマフ事ニナリハセヌカト云フ心配

テ其事ガ適當ナリヤ否ヤト云フコトヲ決定致シテ、適用致ス積リデ居リマス

○小川委員 私ハ外ニ質問者ガ澤山ニアルト思ヒマスカラシテ、モウ一間シテ終リマス、此留保所得稅ノ累進課稅ヲ廢止セラレト云フコトニ付キマシテ、其點ニ付テ一寸御尋致シマス、是ハ大藏大臣ガ屢聲明サレテ居リマス通リ、積立金ガ少クナツテ、會社ノ基礎ヲ薄弱ナラシムルト云フ事デアリマシタガ、現在私等ノ聞イテ居リマス所ニ依ルト、今日マデ積立金ヲ澤山ニ持ッテ居ルモノガアル、積立金ト云フ表面上ノ名目デアリマセヌデモ、減價償却ト云フヤウナ名ニ於テ、事實上積立金ヲ澤山ニシタモノガアル、或紡績會社ノ如キハ一鍾ガ極メテ僅カナモノニナツテ居ルト云フコトハ、隠レナキ事實デアリマス、然ルニ今日ノヤウナ改正法ヲ拵ヘマスト云フト、是ハ積立金ヲ表面ニドン（現ハシテモ宜イ事デアリマスカラ、表面上ノ積立金ハ段々多クナツテ來ルト思ハレハ、ソレヲ會社ノ基礎ガ鞏固ニナツタト言ハレハカモ知レマセヌガ、片方ニサウ云フ風ニナツテ來マスト、超過所得稅ト云フモノハ段々取レナクナツテシマヒハセヌヤト思フノデアリマス、積立金ガ澤山ニナレバ、ソレモ資本金ト一樣ニ見マシテ、ドウシテモ超過所得稅ハ澤山ニ取レナイヤウニナル、而シテ今日ノ留保所得稅ノ累進

ノ方ハ取レナクナル、私ハ斯ウ云フ評判ヲ聞キマシタガ、第一流ノ紡績會社ナンカト云フモノハ、今度ノ此改正法ガ通ツタナラバ大變ナ減稅ニナツテ來ル、ソレヲ配當ニ廻スコトモ出來ルト云フヤウナコトヲ聞クノデアリマス、留保所得稅デ累進稅ガナクナルシ、或ハ超過所得稅モ掛カラナクナル、斯ウ云フ風ニナリマシタナラバ、今日非常ナ強イ所ノ會社ノ資本ニ課稅スルコトガ出來ナイヤウナ憾ミハナイカ、ソレダケ伺ッテ私ノ質問ヲ終リマス

○藤井政府委員 今回ノ改正ニ依リマシテ、或ル特殊ノ會社ノ既ニ積立金ヲ多ク持ッテ居ルモノガ、非常ナ恩典ヲ受クルモノガ出來ヤシナイカト云フ御尋デアリマス、中ニハサウ云フモノガアルカモ知レマセヌ、是ハ大藏大臣モ屢説明致シマシタガ、或ル特殊ノ一二ノ會社ヲ目當ニ設ケタ稅法デアリマセヌ、全體ノ會社ト致シマシテ、積立金ヲ成ベク多クスルト云フコトハ、其會社ノ基礎ヲ鞏固ニシ、産業發展ヲ助成スル意味ニ於テ必要ナリト、斯ウ大體觀察致シマシテ出テ居ルノデアリマス、更ニ附加ヘマシテ超過所得稅ノ關係ニ於テモ取レナクナルデハナイカト云フ御話デアリマスガ、御承知ノ如ク超過所得稅ハ拂込資本金ト積立金ヲ基礎トシテ、之ニ對スル所ノ稅金ノ歩合ヲ見テ居ルノデアリマス、留保所得稅ノ累進課稅法ノアル結果ト致シマシテ、若

モ法人積立金ヲ減少致シマシテ、ソレヲ名義上ノ資本金ニ變換致シマシテ、ソレデ却テ留保所得ニ對スル累進課稅ヲ免レルト云フヤウナ傾向ガナイデハナイノデアリマス、此點ニ於キマシテハ、積立金ヲ資本金ニ廻シマセウガ、或ハ積立金トシテ置キマセウガ、超過所得ニ對スル關係ハ同ジデアリマス、隨テ今回ノ改正ニ依リマシテ積立金ノ相當ニ多イ會社ノ超過所得稅ヲモ輕減スルデハナイカト云フ懸念ハ、吾々ハ懷イテ居ナイノデアリマス

○小川委員 私ハ唯一言附加ヘテ置キマス、只今ノヤウデアレバ、今ノ法人ノ會社ノ基礎ヲ薄弱ニスルコトニナル、現行ノ稅法ニ於キマシテモ、唯積立金ト云フモノヲ片方ニ振替ヘテヤルト云フコトデアアルナラバ、大藏大臣ノ聲明サレテ居ル所ノ會社ノ基礎ヲ薄弱ニスルモノデアアル、是ダケ申上ゲテ私ハ質問ヲ止メマス

○大口委員 私ハ細目ニ互リマシテ質問ヲ致シマスコトヲ先般申述ベテ置キマシタガ、時間モ餘リナイヤウデアリマスカラ、成ベク省略致シマシテ、僅カ四五點ニ對シテ承リタイノデアリマシテ、其細カイコトヲ承リマス前ニ當リマシテ、特ニ大藏大臣ノ御説明ヲ煩シタイコトガ一件アルノデアリマス、是カラ先ヅ伺ッテ掛リタイト思フノデアリマスガ、明治四十年法律第四十一號中改正法律案ト云フモノハ、本會議

ニ御提出ニナリマシテ、此委員會ニモ廻ッテ參ッタノデアリマスガ、是ハ先日御撤回ニ相成ッタノデアリマス、之ニ對シマシテ石坂君ヨリ本會議ニ於キマシテ、政府ニ質問ガアリマシテ、其質問應答ニ依リマスルト、樺太ニ於ケル所ノ所得稅ハ尙ホ一年現行ノ儘デ取ラセル管デアアル、ソレ故ニ明治四十年法律第二十一號ハ撤回ヲ致シタ、私ガ申スマデモアリマセヌガ、今回政府ガ御提出ニナツテ居ル所ノ豫算表ノ中ニハ、樺太ノ收入ノ中ニ醬油稅ノ收入ガ計上シテアルノデアリマス、所ガ一面ニ於テハ内地ノ醬油稅ヲ全廢サレル結果ト致シマシテ、樺太モ同ジヤウナ恩典ニ浴セシメヤウト云フ御趣意デアラウト私ハ思フノデアアルガ、其意味カラ明治四十年ノ法律第二十一號中改正法律案ハ提出サレタモノデアアルト思フ、是カラ行キマスト云フト、日本全國中ニ行ハレル所ノ所得稅撤廢ト云フコトト、樺太ニ於ケル醬油稅モ同ジ恩惠ニ均霑セシムル意味ニ於テ、此法律ガ提出サレタモノデアレバ、道理ノアルコトデアアルコトト私ハ思フ、所ガ一面ニ於キマシテ、豫算表ニ醬油稅ノ收入ニ掛ケテアル、所デ矛盾撞著ヲ生ズルノデハナイカト云フコトニ相成ルノデアアル、豫算ノ方ヲ全體私ハ御訂正ニナツテ然ルベキモノデアアルト思ッタノニ、全國ノ醬油稅全廢ト同ジヤウニ、樺太ニ恩惠ヲ均霑セシムル法律案ノ方ヲ御撤回ニナツテシ

マツタ、是ハドウモ不思議ナ譯ダト思ッ
タノデアルガ、今申ス通り飯塚君ナド
ノ質問應答ノ結果ニ依ルト、何カ手違
ガアツテ、樺太ニハ内地ト違ッテ、内地ノ
醬油稅ハ全廢スルニモ拘ラズ、樺太ニ
ハモウ一箇年醬油稅ヲ掛ケルノダト、
斯ウ云フ御意思ノヤウニ承ツタノデア
ルガ、果シテ其通り解釋シテ誤リハア
リマセヌカ

○濱口國務大臣 御答致シマスガ、實
ハ此植民地ニ於ケル所ノ稅制ノ整理
ハ、内地ノ稅制整理トノ關係上ドウス
ルカ、十五年度カラ内地同様ニ行フカ、
或ハ十六年度カラヤルコトニスルカト
云フコトニ付キマシテハ、政府部内ニ
於テ十分ニ考慮致シ、熟議ヲ重ネタノ
デアリマス、然ルニ御承知ノ通り植民
地ニ於テハ、或ハ内地ノ稅法ヲ其儘施
行シテアルモノモアリマスガ、大部分
ハ植民地特有ノ事情ニ依テ稅制ノ組織
ガ出來テ居ル、殊ニ朝鮮ノ如キニ至リ
マシテハ、内地カラ移出致シマスル所
ノ織物ニ對シテ、朝鮮ニ於テ移入稅ヲ
掛ケテ居リマス、ソレヲ内地ニ於ケル綿
織物消費稅ヲ全廢スルコトニ致シマシ
テ、ソレニ伴ッテ朝鮮ニ於テ綿織物ニ對
スル移入稅ヲ撤廢致シマスルコト云フ
ト、玆ニ朝鮮總督府ノ財源二百餘萬圓
ト云フモノガ減少スルコトニナリマ
ス、サウ致シマス、十五年度ノ朝鮮總
督府ノ財政計畫上、甚ダ苦シイト云フ
事情ガアリマス、其他一般植民地ニ於

テ稅制整理ヲスルニハ、十五年度カラ
ヤルト云フコトハ甚ダ困難デア、ソ
レ故ニ總テヲ一年遅ラレテ、十六年度
カラヤルコトニシヤウト云フコトニ議
ガ纏ッテ居ッタノデアリマス、其纏ッ
居ッタノヲ、樺太ノ醬油稅ケ豫算ニ拘ラ
ズ法律ノ廢止案ガ提案ヲサレマシタ
云フコトハ、是ハ全クノ手違デアリマ
ス、深ク遺憾ニ思ッテ居リマス、其趣意
ヲ以テ本議場ニ於キマシテモ釋明致シ
テ置イタ次第デアリマス、豫算ニ舉ゲ
テアツタノガ本當デアリマス、十五年度
カラノ植民地ノ整理ハ、遺憾ナガラ一
年遅ラスト云フコトニ初メカラ定メテ
居リマシタ、手違ノ爲ニ出マシタカラ
是ハ撤回ヲ致ス、斯ウ云フ事情デゴザ
イマス

○大口委員 其御趣意ニ付キマシテ
ハ、私ハ異論ヲ持ッテ居リマシテ、其御
意見ヲ承認スル譯ニハ參リマセヌガ、
是ハ別問題デアリマスカラ、議論ハ致
シマセヌ、只今ノ御答辯ヲ承リマス、
サウスルト私ハ玆ニ一ノ大ナル疑問ガ
生ズルノデアリマス、今日議題トナッ
居ル大正九年法律第五十一號中改正法
律案、是ハ撤回サレテハ居リマセヌ、現
ニ吾々ノ議題ニナッテ居ル、是ガドウ云
フモノデア、アルカト云フト、只今大藏大
臣ノ言ハレマシタル通り、内地臺灣又
ハ樺太カラ朝鮮ニ移出スル所ノ物品ノ
内國稅免除ニ關スル所ノ法律デアリマ
ス、此法律ノ中ニ、是マデハ内地、臺灣、

樺太等ニ醬油稅ガ掛ケテアリマシタ結
果トシテ、此醬油稅ト云フモノガ朝鮮
ニ移入シマシタ場合ハ、内國稅ヲ免除
又ハ拂戻又ハ交付金ヲ與ヘルコトニ現
行法ガナッテ居ル、所ガ今回内地ニ於キ
マシテ醬油稅ヲ廢サレル結果是ガ改正
ヲ行ハレテ、此法律案中ヨリ「酒精含有
飲料」ノ下ニ「清涼飲料」ヲ加ヘ「醬油」
及ビ「石油、賣藥、賣藥類似品」ヲ削ルト
アリマスカラシテ、此清涼飲料ナドハ
内國稅ガ免除ニナリ、交付金ガ貰ヘルガ、
此中カラ醬油稅ハ全部削ラレルノデア
リマス、即チ樺太ノモ削ラレシマフ
ノデアリマス、サウスルト樺太ハ可笑
シイモノニナル、相變ラズ又一年醬油
稅ハ取ラレル、内地デハスッカリ醬油稅
ガ免除ニナル、樺太デハ御手違ノ結
果、醬油稅ガ取ラレル、ソレカラ今マデ

ハ内地ト同ジヤウニ朝鮮移入ノモノニ
對シテハ交付金ヲ與ヘルガ、内國稅ハ
免除拂戻ヲ受ケル、是ダケハ除ラレテ
シマッタガ、樺太ハ相變ラズ醬油稅ハ取
ラレテ、今マデ通りデア、ルニモ拘ラズ、
朝鮮ニ送ル物ニ對シテハ、今マデノ法
律カラ醬油稅ヲ除カレテ、拂戻或ハ交
付金ハ無クナル、樺太ニ對シテ斯ウ云
フ苛酷ノ取扱ヲスル必要ガ何處ニアル
ノデアリマス、此理由ヲ私ハ明瞭ニ
致シテ置キタイト思ヒマス

○藤井政府委員 大正九年法律第五十
一號中ノ改正法律案ヲ提案致シマス
キニ、其事ハ考ヘタノデアリマスガ、樺

太ニ於ケル醬油稅ノ整理ニ付テハ、今
大藏大臣ノ申サレタ通りデアリマス、
サウシテ今提案致シテ居リマスガ如キ
改正法律案ヲ出シマス、樺太カラ朝
鮮ニ行ク醬油ニ付テハ、成程恩惠ガナ
イコトニナリマスガ、事實上樺太ヨリ
朝鮮ニ行ク醬油ハ無イト考ヘテ居ル
デ、斯ウ致シマシテモ、事實上差支ナイ
ト斯ウ思ッテ居リマス

○大口委員 ソレハ別問題デアリマ
ス、アッタラドウデアリマス、無イトハ
申サレマセヌ、樺太ニ醬油ヲ造ルコト
ヲ禁止シテ居リマス、或ハ樺太カラ
朝鮮ヘ醬油ヲ移出スルコトヲ法律デ禁
止シテ居レバ角別、サウデハナイ、私ガ
明日カラ樺太ニ行ッテ醬油ヲ造ルカモ
分ラナイ、私ハ朝鮮ニ賣ルカモ分リマ
セヌ、現在無イカラト云ッテ、事實ガド
ウデア、ルカラト言ッテ、法律ノ中カラ樺
太ヲ除クノハドウ云フ譯デア、ルカ、理
窟ガ合ハナイ、若シ是モ樺太ヲ取ラナ
カッタノハ政府ノ手違デア、ル、ソレハ修
正スル筈デア、ルヲ直サナカッタノ
デ、是モ手違デア、ル、申譯ガナイト仰
シヤルナラ、ソレハソレデモ宜イガ、今
ノ論デハ通りマセヌ、是ハ大藏大臣ニ
對スル質問デアリマス、ソレダカラ最
初カラ特ニ大藏大臣ノ言明ヲ求メテ居
リマス

○濱口國務大臣 是ハ只今藤井政府委
員ガ申シマシタ通り、實際ニ於テサウ
云フコトハナイノデアリマス、毫モ差

支ナイノデアリマス、若シサウ云フコトガ出来マスナラバ、又ソレニ應ジテ適當ノ處置ヲ致ス考デアリマス

○大口委員 是ハドウモ大藏大臣ノ御答辯トモ思ヘマセヌ、實際ニ於テ必要ガナイナラ、今迄デモ法律ヲ御廢止ニナツテモ宜イ譯デアリマス、所ガ樺太ニ於テ醬油ヲ製造セシメテ居ル、サウシテ之ニ醬油稅ヲ課シテ居ル、醬油稅ヲ現ニ課シテ置イテ、是ガ事實朝鮮ニ行カナイト云フ見込カラ差支ナイト云フ論ハ、是ハ政府或ハ大臣トシテ此處デ御答辯ニナルベキコトデアリマセヌドウシテモ是ダケハ矢張免除スルノガ當然デアリマス、之ヲ引クコトヲ落シタノガ手違デアル、總テガ手違ニナツテ來タト云フコトハ明瞭デアル、ソレヲ斯ウ云フ意味ヲ以テ抗辯サレルト云フナラ、吾々ハ本會議ニ於テハ之ヲ正々堂々ト論ジテ、今ノ政府ハ斯ノ如キコトヲ以テ抗辯スルト云フコトヲ明カニスルダケデアル、質問ハ是デ宜イ、誠ニ政府ノ答辯甚ダ宜シキヲ得テ居ラザルコトヲ私ハ茲ニ明言致ス、次ニ私ハ所得稅法ニ就テ少シ伺ヒタイノデアリマス、此第一種ノ所得稅カラ第二種ノ所得稅額ヲ除セラレルガ、第二種ノ所得稅ハ先刻小川君モ言ハレル通り、明治四十一年三月法律第三十七號ノ第三條第二項ニ於テ地方稅ヲ賦課スルコトガ出來ナクナツテ居リマスカラ、其結果先日私ガ質問致シマシタ如ク、收益稅モ

資本利子稅モ亦地方稅全部ヲ引カレルモノデアツテ、是ハ由々敷問題デアルト信ジテ居ッタノデアリマスガ、之ニ對シマシテハ先刻小川君ノ質問ガアツテ、之ニ對シ政府ハ全部ヲ肯定シテ居ラレマスカラシテ、是レ以上追窮致シタ所ガ、又先日ノ質問ヲ繰返スコトニナリマス

カラ、私ハ是レ以上ハモウ追窮シナイコトニ致スノデアリマスガ、之ニ就テ尙ホ私ハ小川君ガ質問サレタ以外ニ少シ疑問ヲ持ツテ居リマスノハ、稍是ハ面倒ナコトニナツテ、法律ノ解釋ノヤウニナリマスガ、現行法ニ於ケル所得稅法ノ第七條ノ解釋ガ、今度政府ガ法律ノ改正ヲサレル結果トシテ變ッテ來ナケレバナラヌ結果ヲ招來スルト私共ハ思フ、此點ニ就テ政府ノ御所見ヲ伺フテ置キタイ、即チ現行所得稅法ノ第七條ニハ「本法施行地ニ本店若ハ主タル事務所ヲ有セサル法人又ハ所得稅ヲ課スヘキ所得ト其ノ他ノ所得トヲ有スル法人ノ」云々トアルノデアリマス、即チ所得稅ヲ課スベキ所得ト云フモノト、其ノ他ノ所得ト云フモノノ解釋デアリマス、今日迄ハ此現行法ガ出ナイ内ハ、所得稅ヲ課スベキ所得ハ第一種ノ所得モ、第二種ノ所得モ、所得稅ヲ課スベキ所得デアッタニ違ヒナイ、其他ノ所得ト云フモノハ國債ノ如キモノデアアル、斯ウ解釋シテ誤リナカラウト思フシ、又現在ガサウ解釋サレテ居ルヤウデアリマス、所ガ今回第二種ノ所得稅ト云フ

モノヲ一種ノ所得稅カラ控除スルト云フコトヲ法律決メル以上ハ、隨テ此第七條ノ解釋ニモ影響シテ行カナケレバナラヌ、何故デアアルカト云フト、今迄ハ所得稅ヲ課スベキモノト、絕對ニ課セザルモノトノ二ツダケデアッタガ、新ニ所得稅ヲ免除スルモノガ其間ニ出來テ來ルノデアアル、第一種ノ所得ヲ計算スルトキニ、第二種ノ所得ト云フモノハ一種ノ所得カラ免除サレルモノデアアルカラ、之モ矢張所得稅ヲ課スベキ所得トナリマシテ、第二種ノ所得稅ガ掛ルノデアアルカラ、是モ所得稅ヲ課スベキ所得デアアルト解釋スルコトガ出來マセウ、一種ノ所得稅ノミヲ計算スル場合ニ於テ考ヘレバ、第一種ノ所得ト云フモノハ第二種カラ控除サレ、免除サレル所ノモノデアアルカラ、是ハ別ノ解釋ニ置カナケレバナラヌ、ソコデ今迄ハ所得稅ヲ課スベキ所得、課スベカラザル所得ノ二ツニ分レテ居ッタノデアアルガ、今度ハ所得稅ヲ課スベキ所得ト、控除サレル、即チ其場合ニ於テ免除サレル所得ト、ソレカラ當然所得稅ヲ掛ケラレル所得ト、三種類ニナツテ來ル、此場トニ於テ免除サレル所ハ即チ控除サレル所得ト云フモノハ當然所得稅ヲ課スベキ所得ト云フモノニハナラヌ

課スベキ所得ト云フモノニハナラヌデ、其他ノ所得ト云フ方ニ這入ルベキモノト解釋サルヤウデアリマスガ、此點ハドウデアアルカ、是ハ法律解釋ノ上ニ確定シテ置カナイト、所得稅計算

ノ上ニ非常ナ相違ヲ生ズル、是ハ必ズ起ル問題、ドウ御解釋ニナルノデアリマセウカ

○藤井政府委員 今回此所得稅法ノ改正致シマシテ、法人ノ納メマス第一種ノ所得稅額カラ、第二種ノ所得稅ヲ控除スルコトニ致シマシタ結果、第七條ハ課稅スベキ所得ト其他ノ所得ト解釋シナケレバナラヌト云フコトデアリマスガ、其點ニ付テハ吾々ハ從來ノ解釋デ宜イト思ツテ居ルノデアリマス、成程今回ノ所得稅法ノ改正ニ依リマシテ、法人ノ第一種所得カラ第二種所得ヲ控除スルコトニ致シマシタケレドモ、其稅ヲ課セラレテ居リマス、基本タル所得タルヤ、是ハ矢張所得稅ヲ課スベキ所得ト云フ從來ノ解釋ヲ其儘維持シテ宜シイト思ヒマス、先日大口サンノ仰シヤッタ超過所得稅ノ御質問モ、斯ウ云フ解釋カラ出テ居ルト思ヒマスガ、吾ガ今考ヘテ居リマス所デハ、第二種ノ所得ト云フモノハ、是ハ所得稅ヲ課スベキモノデアアル、今マデ法人ノ持ツテ居リマシタ其所得ニ所得稅ヲ課スベキモノナリト云フコトハ、動カナイト考ヘテ居リマス、隨テ第七條ノ解釋ハ前述ノ通りデアルト思ヒマス

○大口委員 サウ云フ解釋ニナルト超過所得稅ヲ納メル者ハ非常ナ有利ニナツテ來ル、私共ハ面白カラザル解釋デアツテ、後日必ズ是ハ疑ノ起ルベキ問題ダト思ヒマスガ、議論ハ致サナイカラ

質問ハ是デ終リマス、次ニ私ハモウ一箇條伺ヒタイノデアリマス、私共ノ知ル所ニ依リマスルト、政府デハドウ云フ譯デアアルカ、屢此稅務監督局長ナドカラ内訓ヲ稅務署長ナドヘ、何レ本省ノ方カラ出ルノデアラウト思ヒマスガ、此今度ノ豫算ノ都合上必要ダト云フ廉ヲ以テ、法人ノ一種ノ所得稅中デ五萬圓以上ヲ納メル者ト云フヤウナ大キイモノニ向ッテハ、差支ガアルナラバ決定ヲ延期シテ置イテ、年度ガ變ッテカラ決定ヲセヨト云フヤウナ内訓ヲ致シテ居ルノデアリマスガ、斯ウ云フコトハ甚ダ不都合ナコトデアアル、法人ノ大キナモノダケヲサウ云フコトヲスル、三ヶ月間ノ其利子ト云フモノハ大キイモノデアアル、税金ノ利子ハ——斯ウ云フ事ヲサレタ事實ガアルヤウデアアルガ、ドウ云フ譯デサウ云フ運用ヲサレルノデアアルカ

○黒田政府委員 御尋ノヤウナ内訓ヲ致シタコトハアリマセヌ

○大口委員 私ノ是ハ間違デアリマセウカ、丁度其所ニ勝君ガオキデノヤウデアリマスガ、私ガ此處ニ持ッテ居ル勅記第八十二號ト云フノデ、大正十三年十月十五日東京稅務監督局長、名前ハ申上ゲマセヌガ御分リニナル筈ダ、永代橋稅務署長宛デ出シテ居ルト吾々信ズルモノガ此處ニアル、一種所得稅決定繰延方ノ件、大正十四年度豫算ノ都合上第一種所得收入見込額照會方本省

ヨリ内示有之候ニ就テハ既定計畫ニ依ル本年度決定見込ノモノノ内左ニ該當スル未決定ノモノハ其決定ヲ繰延ベ翌年度ニ於テ決定セラレ候様致シ度尤モ其調査ハ豫定ノ通進行スベキハ勿論ノ儀ニ付併セテ了知相成度右及移牒候也、記一、半期ノ見込總額五萬圓事業年度一ヶ年ノモノニアリテハ十萬圓以上ノモノノ内本年度四月以降終了シ又終了スベキ事業年度分全部「斯ノ如ク移牒ガ行ッテ居ル、私ハ事實ダト思ッテ居ルガ、稅務署ノ内情ニ關スルコトデアラカラ、政府ハサウ云フコトハナイト否認ヲサレレバソレマデデアリマスガ、是ダケ文書ハ偽造ハ出來マイト私ハ思フ(拍手)私ハアッタモノト確信ヲスル、大正十三年十月十五日、勅記第八十二號、東京稅務監督局長何ノ某トアル、勝君ガ其所ニ居ラレルカラ能ク御存ジノコトト思ヒマスガ、文書偽造モ是程旨クハ出來ナイ、私ハ決シテ偽造ハシナイ、是マデ旨クハ書ケナイ、是ハ如何デアリマスガ、御認メニナリマスガ

○黒田政府委員 只今御讀ミニナリマシタノデアリマスカラ、或ハサウ云フコトハアルカモ知レマセヌガ、能ク調ベテ見マスガ、大藏省カラサウ云フ内牒ヲ發シタコトハアリマセヌ

○大口委員 御取調べ下サルナラ調べルノモ結構デアリマスガ、是ハ事實デレバ餘程ノ問題デアリマス、政府委員デハナイガ、丁度當時ノ責任者タル勝

君ガオキデニナリマスカラ、勝君カラ御答ヲ願ヒタイ、是ハ是非御答ヲ願ヘルナラ願ッタ方ガ宜カラウト思ヒマス、御取調べニナラヌデモ當時ノ責任者ガオキデニナル

○黒田政府委員 能ク取調べマシテカラ後デ亦申上ゲマス

○大口委員 ソレナラバ私ハ敢テ政府ヲ苦シメル意味デハアリマセヌカラ、追究ハ致シマセヌ、御取調べノ上必ラズ御明答アラムコトヲ茲ニ御願ヲ致シテ置キマス、次ニ私ハ營業收益稅ニ付テ伺ヒタイノデアリマスガ、營業收益稅ノ中カラ先日カラ疑問ニナッテ居リマス通り、資本利子稅ヲ控除サレル筈デアリマスガ、先日モ詳シク申シマス通り、數ハ少ナイカモ知レマセヌガ、資本利子稅ノ方ガ營業收益稅ヨリモ多クナルモノガ確ニアル、數ハ少フゴザイマスガアル、其場合ハ一體政府ハドウスルノデアリマスガ、控除シテ居ラナイ場合ハ返スノデアアルカ、其儘取切リデアアルカ、其點ヲ伺ヒタイ

○黒田政府委員 其點ハ度々申上ゲマシタカラ、極メテ簡單ニ御答ヲ申上ゲマスガ、是ノ趣旨ハ重複課稅ヲ省ク趣旨カラ出テ居ルノデアリマスカラ、御話ノ通り資本利子稅額ノ方ハ營業收益稅額ヨリモ多クナル場合モアラウト思ヒマス、サウ云フ場合ニ於テハ營業收益稅ヲ取りマセヌカラ重複ヲ——營業稅ハ取りマセヌカラ重複ヲ致サナイノデ

アリマスカラ、特ニ其場合ニハ勿論控除モシナケレバ返ス必要モナイノデアリマス、唯重複ヲ避ケルト云フ、ソレダケデアリマス

○大口委員 御答辯ハソレデ分リマシタガ、是ハ非常ニ不公平ニナルト云フコトダケヲ私ハ茲ニ明言シテ置キマス、次ニソレニ關聯シテ承リタイノデアアルガ、サウ云フ不公平ヲ生ズルノハ何故デアアルカト云フト、實ハ今同設ケラレタ所ノ二重課稅免除ヲ政府ノ出サレタ法律ニ、一口ニ言フト言葉ハ惡イカ知レマセヌガ、不當免稅ノ部分ガアル結果デアアルト私ハ思フノデアリマス、何故デアアルカト云フト、營業收益稅ハ有ラユル、經費ヲ差引イタ純益ニ税金ガ掛カルノデアリマス、資本利子稅ハ經費ヲ差引カナイ單純ノ收入ニ掛カルノデアリマス、即チ營業收益稅ノ方ハ經費ヲ差引カレルモノニ稅ガ掛ッテ居ル、一方ハ經費ヲ差引カナイ收入ニ稅ガ掛ッテ居ルカラ、資本利子稅ハ經費其モノニ於テモ稅ヲ拂フ、サウシテ經費ニ拂ッタ稅額ダケヲ經費ヲ差引イテ、純益ニ拂ッタ稅額カラ控除スルカラ、サウ云フコトヲ生ズルノハ明瞭デアリマシ、即チ今申ス通りニ、其經費ニ對シテ掛ケタ稅ヲ片一方ノ經費ヲ引イタモノニ掛ケタ稅カラ引クト云フ點ダケハ、所謂不當免稅ニナルコトハ明瞭デアルト思ヒマスガ、其差ハ政府ハ認メマス

○黒田政府委員 不當免稅ニハナラナイト思フ居リマス、ソレハ資本利子稅ガ掛リマス、所得ハ成程經費ハ引イテ居リマセヌ、併ナガラソレガ法人ニ這入リマシテ經費等ヲ引カレマシテ、玆ニ純益ヲ出ス、ソレニ對シテ資本利子稅ガ掛カル、即チ一遍資本利子稅ガ掛ツテ所得ガ這入ッテ來マシテ、ソレガ營業收益稅ノ基本ニナッテ居ルノデアリマスカラ、同ジ所得ガ營業收益稅ノ基本ニナッテ居ル、其結果トシテ營業收益稅ガ掛カルノデアリマスカラ、同一ノ所得ガ一方ニハ營業收益稅ノ基本トナリ、一方ニハ資本利子稅ノ基本トナッテ居ルノデアリマスカラ、其同ジ所得ニ對シテ掛ケテ居リマス所ノ稅金ノ重複ト云フコトヲ除ク趣旨カラ出テ居ルノデアリマスカラ、決シテ不當デアリマセヌ、唯サウ申上ゲマスカラ、一方ハ經費ヲ引イテ居ルデヤナイカ、一方ハ經費ヲ引カナイデヤナイカト仰シヤルト其通リデアリマス、併シ一方ハ經費ヲ引イテ他ノ所得ト一緒ニナリマシテ出タモノデアリマスカラ、ソレニ對シテハ、一方營業收益稅トシテ百分ノ三・六ヲ掛ケ、一方ニハ百分ノ二ト云フ稅率ノ差ハアリマス

アルガ、假ニ之ヲ單純ニ見テ、資本利子稅ヲ納メル所ノ公債ノ利子以外ニハ利益ノナイ所ノ會社ニ對シテ御考ニナレバ、私ノ言フコトハ明瞭デアリマス、算盤ニ依テモ明瞭デアリマス、假ニ資本利子稅ヲ課セラレル利子以外ニハ收入ノナイ會社アリト假定スレバ、一方デハ百圓ト云フ元ニ對シテ課稅サレル、一方ハソノ内カラ五圓ノ經費ガアレバ五圓ヲ引イタ九十五圓ト云フモノニ課稅サレル、サウシテ九十五圓ノ課稅カラ百圓ニ掛ケテ課稅ヲ引クノデアアルカラ、ソレハ引ケナクナルノハ當リ前デアアル、其差ハ經費ト云フモノニ稅ヲ掛ケテ居ルノガ誤リカ、或ハ資本ト云フモノニ稅ヲカケテ其課稅ヲマルデ引クト云フコトガ不當免稅ニナルカ、何方カニナル、是ハ明瞭デアリマス、到底引去レマセヌ、議論ハ致サナイガ此位分リ易イモノハナイ、是ハ事務ノ取扱上斯ウヤルヨリ外ハナイ、複雑デ困ルカラ已ムヲ得ズヤッタト云フ御答ナレバ、ソレハソレデ了解ガ出來ルガ、サウナラナイト云フコトデアレバ私ノ申ス通りニナリマス

○黒田政府委員 只今ノ例ハ勿論其通リデアリマスガ、假ニ今例ニ御取リニナリマシタヤウナ百圓ノ利子ノ所得デ、ソレニ對シテ經費ガ五圓掛タト云フコトニナリマス、營業收益稅ノ方ハソレ故ニ所得カラ經費ヲ引イテ、ソレニ對シテ純益ヲ出シテ、其純益ガアリマスカラ百分ノ三・六ト云フ稅率ヲ掛ケテ居リマス、一方ノ方ハ此經費ヲ引カナイモノデアリマスカラ、百分ノ二ヲ掛ケテ居リマス、ソコヲ御覽ヲ願ヒタイト思ヒマス

○大口委員 ソレダカライカナイ、ソレハ答辯ニナラナイ、其意味デアアルカラ一方ノ率ト一方ノ率トガ開キガアルノデアリマスカラ、結局ハオ前ノ言フ通りニナルト仰シヤルコトニナルコトハ是デモ分ル、私ハ意見ハ違フガ分ル、結局私ノ言フ通りニナルモノダト云フコトハ、今其處デ御肯定ニナッタモノト思フ、私ノ質問ハソレダケデアリマス

○三輪委員長代理 次ハ森君ノ質疑ニ入ラレンコトヲ望ミマス

○森委員 過日ノ質問ト或ハ重複致スカモ分リマセヌガ、御許ヲ願ッテ御尋ラ致シタイト思ヒマス、玆ニ御示シニナッテ居リマス、雜種稅ノ整理ノ見込、營業稅ノ廢止ノ見込ト云フモノヲ拜見致シテ居リマス、種々ノ種目ニ互テ居リマス、此廢止スルモノ、若クハ雜種稅ヨリ營業稅ニ移ルベキモノ、其種目ノ選擇ハ宜シイカドウカト云フコトニ付テハ昨日デアッタカ他ノ委員ノ方カラ意見ヲ申述ラレタノデアリマスガ、私ハ玆ニ善シ惡シヲ申上ゲルノデアリマセヌガ、斯様ニ或物ヲ廢止セラレ、或物ヲ營業稅ニ御移シニナル、其物ハ大體ニ於テ私ハ宜シカラウト思フ、而シテ斯様ニシテ下層ノ仕事ヲ致シテ居ル人々ヲ保護サレルコトハ結構ナコトデアルト思ヒマスケレドモ、雜種稅ノ方ニ於テ廢止セラレベキモノノ方ニ御入レニナッタ、此内多分廢止セラレルト云フコトハ名目デアッテ、實際ハ他ノ稅目ヲ課セラルルモノガアルノデハナイカ、ソレガドノ位此中ニアルノデアアルカ、先ヅソレヲ一ツ伺ヒマス

○田中政府委員 先日差上ゲマシタ表ニナッテ居リマスル雜種稅ノ廢止ノ科目ハ、大體ニ於テ廢止セラレル種類ニ屬スルモノガ舉ゲテアル譯デアリマスガ、其中ニ於キマシテ例ヘバ、職業稅ト書イテアリマスモノノ中ニハ、藝妓ニ對スル稅モ混ッテ居リマスノデ、サウ云フ金額ハ此職業稅ノ中ニ於キマシテ多少ゴザイマスガ、其他ヲ除キマシテハ總テハ廢止セラレルモノデアルト御承知ヲ願ヒマス

○森委員 此法人建物稅ガ總テ廢止サレシマフノデアリマスカ

○田中政府委員 法人建物稅ハ法人建物稅ト致シマシテハ廢止セラレマス、併ナガラ一般ニ家屋稅ガ創設セラレマス結果、唯一般ノ個人ノ家屋ト同様ニ課稅ヲ受クルト云フコトハ、實際將來起リ得ル譯デアリマス

○森委員 ソレデ御尋ラ申シタノデアリマスガ、此廢止セラレベキモノノ中ニ於テ、少ナクモ家屋稅ヲ課セラルベキ目標トナルベキモノハ、ソレハ大體ドレト云フコトニナッテ居リマスカ、

大體家屋稅ト重複課稅タル故ヲ以テ廢止セラシムルコトニナルト思ヒマスルモノハ、法人建物稅以下麴室稅ニ至ルマデアリマス、其金額ト致シマシテハ四百三十三萬四千圓ト云フコトニナリマス

○森委員 其點ハ了解致シマシタガ、斯様ニシテ廢止ノ名ヲ附シテ、一方ニ於テハ家屋稅ヲ課スルコト云フノデアアルカラ、政府ガ恩惠ヲ下層ノ人ニ及ボスト仰セニナル趣旨ニハ合致シテ居ナイト思ヒマス、此地方稅ニ關スル法律案ノ第十三條、十八條、二十一條、二十七條、之ニ依リマス家屋稅、營業稅、雜稅、戶數割ノ賦課ニ關シテモ勅令ヲ以テ之ヲ定メル、更ニ市町村ノ附加稅率ニ關シテモ相當ノ制限ヲ設ケルコトヲ豫期シテ此文書ニ書イテアル、營業稅、雜稅稅ニ關シテハ本稅ノ百分ノ八十ヲ課セシメルト云フ先程ノ御話デアアル、家屋稅及戶數割ニ付テハ今直ニ的確ノ賦課率ヲ定メ、制限ヲ附スルコト云フコトハ困難デアアルカラ、當分ノ中各自治體ノ自由ニ任シテ置イテ、而シテ內務、大藏兩大臣ノ許可ヲ受ケシメテ實際ニ之ヲ課セシメル、斯ウ云フ御説明デアッタヤウデアリマスガ、果シテ左様デアリマス、少クトモ十三條ト二十七條ノ關係ニ於テ、家屋稅及戶數割ニ對スル附加稅率ハ、此本稅ニ對シテ如何様ノ程度マデ之ヲ課セシムルト云フ御腹案ガアル筈ト思フカラ、ソレヲ

改メルコトハ結構デアアル、結構デアアルケレドモ、町村ノ財源ヲ脅カスト思フ、今御示シニナッテ居ル表デ調べテ見ルト、府縣稅營業稅ノ總額ガ約八百五十萬圓、之ニ對スル市町村ノ附加稅ハ七百七十萬圓、サウ致シマス成程大體ニ於テノ比率ヲ取レバ、本稅ニ對スル約九割、百分ノ九十ノ附加稅ヲ、何程カ輕減スル目的ヲ以テ百分ノ八十ニシタト言ハレルナラバ、ソレハ一應聞エルノデアリマス、サリナガラ全國平均致シテ百分ノ九十ト云フモノノ中ニハ、或ルモノハ百分ノ三十、或ルモノハ百分ノ二十デアル、而モ一方ニ於テハ三十割、四十割デアル、少クトモ二十割、二十五割ト云フモノガ現ニ各府縣ニ存シテ居ル、サウナッテ來ルモノヲ一律ニ百分ノ八十ニ限ッテシマフト、何等苦痛ヲ感ジナイ町村ガアルト同時ニ、一方ニ於テハ是ガ爲ニ財源枯渴ニ苦シム町村ガ全國ニ相當アル、先日政府委員ハ、政府ニ於テ調査ノ結果ハ左様ナモノハ例外デアルト申サレマシタガ、私ハ事實トシテハ例外デナイ、餘程多イト思フガ、此事實ヲ御認ニナルカドウカ

○田中政府委員 只今御話ニナリマシタヤウニ、附加稅ノ率ノ相當ニ多イモノガ府縣稅營業稅ニ付テアリマスノハ事實デアリマス、併ナガラ其附加稅率ヲ餘リ高率ニ致シマス、矢張國稅營業者ヨリモ負擔ガ重クナル結果、自然國稅營業者ニナッテシマフト云フ自然

○森委員 其點ハ了解致シマシタガ、斯様ニシテ廢止ノ名ヲ附シテ、一方ニ於テハ家屋稅ヲ課スルコト云フノデアアルカラ、政府ガ恩惠ヲ下層ノ人ニ及ボスト仰セニナル趣旨ニハ合致シテ居ナイト思ヒマス、此地方稅ニ關スル法律案ノ第十三條、十八條、二十一條、二十七條、之ニ依リマス家屋稅、營業稅、雜稅、戶數割ノ賦課ニ關シテモ勅令ヲ以テ之ヲ定メル、更ニ市町村ノ附加稅率ニ關シテモ相當ノ制限ヲ設ケルコトヲ豫期シテ此文書ニ書イテアル、營業稅、雜稅稅ニ關シテハ本稅ノ百分ノ八十ヲ課セシメルト云フ先程ノ御話デアアル、家屋稅及戶數割ニ付テハ今直ニ的確ノ賦課率ヲ定メ、制限ヲ附スルコト云フコトハ困難デアアルカラ、當分ノ中各自治體ノ自由ニ任シテ置イテ、而シテ內務、大藏兩大臣ノ許可ヲ受ケシメテ實際ニ之ヲ課セシメル、斯ウ云フ御説明デアッタヤウデアリマスガ、果シテ左様デアリマス、少クトモ十三條ト二十七條ノ關係ニ於テ、家屋稅及戶數割ニ對スル附加稅率ハ、此本稅ニ對シテ如何様ノ程度マデ之ヲ課セシムルト云フ御腹案ガアル筈ト思フカラ、ソレヲ

○田中政府委員 先日御話申上ゲマシタ課率ニ付テ、內務、大藏兩大臣ノ許可ヲ受ケシムル件ハ家屋稅ダケデアリマス、戶數割ニ關シマシテハ將來相當ノ制限率ヲ設ケルコトニ致シテ居リマス、是ハ勅令ノ内容ニナリマスノデ、甚ダ煩雜ナモノニナリマスガ、大體現在ニ於キマスル戶數割ノ制限率ヨリモ遙ニ低率ノ制限ヲ致ス考デアリマス、家屋稅附加稅ニ付テハ先般御話申上ゲマシタヤウニ、本稅ノ百分ノ八十ヲ課スルコトニ致シタイト思ッテ居リマス

○森委員 先日質疑ヲ致シマシタ最後ノ時ニ、時間ガ迫ッテ居リマシタノデ、多クヲ申上ゲナイデ打切ッタノデ、アレヲ蒸シ返スコトニナリマスガ、モウ一度繰返スコトヲ御許ヲ願ヒタイ、斯様ナ規定ヲ設ケテ今後課稅サレルト云フコトニナッテ來リマスルト、營業稅ノ關係ニ於テハ先般大口君、本日小川君等ヨリ指摘致シマシタル關係ニ於テモ、相當附加稅ハ減ジテ來ルト云フ想像ガ付クノデアリマス、更ニ營業稅ノ國稅ノ營業稅ニ對スルモノハ暫ク措キテ府縣稅營業稅ニ對スル附加ハ今後ニ於テ百分ノ八十程度ニ止メルト云フコトデアリマス、ソレハ結構デアアル、今日ノヤウニ府縣稅營業稅ニ對シテ無制限ニ附加稅ヲ課スルコトハ宜シクナイ、之ヲ

ノ作用ガアリマスノデ、サウ多クノ例ガアルトハ思ヒマセヌ、稀ニサウ云フ縣稅營業者ハ國稅營業者ト均衡ヲ得タ負擔ヲ爲シテ居ルモノナリト思ヒマス、而シテ本稅ノ百分ノ八十ニ致シマシタト申シマシタノハ、其時ニモハッキリ申上ゲマシタヤウニ、原則トシテ本稅ノ百分ノ八十トスルト云フコトヲ申上ゲタノデアリマシテ、或ル場合ニ於キマシテ、之ニ對シテ相當ノ制限外課稅ヲ爲スノ途ガアルノデアリマス、ソレハ現在ニ於キマシテ國稅營業者ニ對シマシテ、制限外課稅ノ途ガ附加稅ニ付テアリマスルト同様、矢張府縣稅、營業稅ニ付テモ制限外課稅ヲ認メルノガ相當ト存ジマスルノデ、必ズシモ百分ノ八十ニ限ッテ、ソレ以上ハ附加稅率ヲ上ゲナイト云フ趣旨デハナイノデアリマス

○森委員 無論其點ハ屢御説明ヲ承リマシタノデ、略承知ハ致シテ居ルノデアリマス、併ナガラ既ニ是マデノ勅令ニ依テ定メテ居ク地方稅ノ規則ヲ此度法律ヲ以テ之ニ代ヘテ、サウシテ國民ノ負擔ノ關係ニ於テ、相當ノ保證ヲ與ヘヤウトサレル場合ニ於テハ、制限外課稅ガ出來ルカラト申シテ、制限外課稅ノ場合ヲ豫想シテ、何處マデモソレヲ許ス方針デ此法律ヲ作ルト云フコトハ、其意ヲ得ヌノデアリマス、是レ以上ハ議論ニナリマスカラ申上ゲマセ

○森委員 先日質疑ヲ致シマシタ最後ノ時ニ、時間ガ迫ッテ居リマシタノデ、多クヲ申上ゲナイデ打切ッタノデ、アレヲ蒸シ返スコトニナリマスガ、モウ一度繰返スコトヲ御許ヲ願ヒタイ、斯様ナ規定ヲ設ケテ今後課稅サレルト云フコトニナッテ來リマスルト、營業稅ノ關係ニ於テハ先般大口君、本日小川君等ヨリ指摘致シマシタル關係ニ於テモ、相當附加稅ハ減ジテ來ルト云フ想像ガ付クノデアリマス、更ニ營業稅ノ國稅ノ營業稅ニ對スルモノハ暫ク措キテ府縣稅營業稅ニ對スル附加ハ今後ニ於テ百分ノ八十程度ニ止メルト云フコトデアリマス、ソレハ結構デアアル、今日ノヤウニ府縣稅營業稅ニ對シテ無制限ニ附加稅ヲ課スルコトハ宜シクナイ、之ヲ

○森委員 無論其點ハ屢御説明ヲ承リマシタノデ、略承知ハ致シテ居ルノデアリマス、併ナガラ既ニ是マデノ勅令ニ依テ定メテ居ク地方稅ノ規則ヲ此度法律ヲ以テ之ニ代ヘテ、サウシテ國民ノ負擔ノ關係ニ於テ、相當ノ保證ヲ與ヘヤウトサレル場合ニ於テハ、制限外課稅ガ出來ルカラト申シテ、制限外課稅ノ場合ヲ豫想シテ、何處マデモソレヲ許ス方針デ此法律ヲ作ルト云フコトハ、其意ヲ得ヌノデアリマス、是レ以上ハ議論ニナリマスカラ申上ゲマセ

○森委員 無論其點ハ屢御説明ヲ承リマシタノデ、略承知ハ致シテ居ルノデアリマス、併ナガラ既ニ是マデノ勅令ニ依テ定メテ居ク地方稅ノ規則ヲ此度法律ヲ以テ之ニ代ヘテ、サウシテ國民ノ負擔ノ關係ニ於テ、相當ノ保證ヲ與ヘヤウトサレル場合ニ於テハ、制限外課稅ガ出來ルカラト申シテ、制限外課稅ノ場合ヲ豫想シテ、何處マデモソレヲ許ス方針デ此法律ヲ作ルト云フコトハ、其意ヲ得ヌノデアリマス、是レ以上ハ議論ニナリマスカラ申上ゲマセ

○森委員 無論其點ハ屢御説明ヲ承リマシタノデ、略承知ハ致シテ居ルノデアリマス、併ナガラ既ニ是マデノ勅令ニ依テ定メテ居ク地方稅ノ規則ヲ此度法律ヲ以テ之ニ代ヘテ、サウシテ國民ノ負擔ノ關係ニ於テ、相當ノ保證ヲ與ヘヤウトサレル場合ニ於テハ、制限外課稅ガ出來ルカラト申シテ、制限外課稅ノ場合ヲ豫想シテ、何處マデモソレヲ許ス方針デ此法律ヲ作ルト云フコトハ、其意ヲ得ヌノデアリマス、是レ以上ハ議論ニナリマスカラ申上ゲマセ

○森委員 無論其點ハ屢御説明ヲ承リマシタノデ、略承知ハ致シテ居ルノデアリマス、併ナガラ既ニ是マデノ勅令ニ依テ定メテ居ク地方稅ノ規則ヲ此度法律ヲ以テ之ニ代ヘテ、サウシテ國民ノ負擔ノ關係ニ於テ、相當ノ保證ヲ與ヘヤウトサレル場合ニ於テハ、制限外課稅ガ出來ルカラト申シテ、制限外課稅ノ場合ヲ豫想シテ、何處マデモソレヲ許ス方針デ此法律ヲ作ルト云フコトハ、其意ヲ得ヌノデアリマス、是レ以上ハ議論ニナリマスカラ申上ゲマセ

○森委員 無論其點ハ屢御説明ヲ承リマシタノデ、略承知ハ致シテ居ルノデアリマス、併ナガラ既ニ是マデノ勅令ニ依テ定メテ居ク地方稅ノ規則ヲ此度法律ヲ以テ之ニ代ヘテ、サウシテ國民ノ負擔ノ關係ニ於テ、相當ノ保證ヲ與ヘヤウトサレル場合ニ於テハ、制限外課稅ガ出來ルカラト申シテ、制限外課稅ノ場合ヲ豫想シテ、何處マデモソレヲ許ス方針デ此法律ヲ作ルト云フコトハ、其意ヲ得ヌノデアリマス、是レ以上ハ議論ニナリマスカラ申上ゲマセ

○森委員 無論其點ハ屢御説明ヲ承リマシタノデ、略承知ハ致シテ居ルノデアリマス、併ナガラ既ニ是マデノ勅令ニ依テ定メテ居ク地方稅ノ規則ヲ此度法律ヲ以テ之ニ代ヘテ、サウシテ國民ノ負擔ノ關係ニ於テ、相當ノ保證ヲ與ヘヤウトサレル場合ニ於テハ、制限外課稅ガ出來ルカラト申シテ、制限外課稅ノ場合ヲ豫想シテ、何處マデモソレヲ許ス方針デ此法律ヲ作ルト云フコトハ、其意ヲ得ヌノデアリマス、是レ以上ハ議論ニナリマスカラ申上ゲマセ

ヌ、左様ナ關係ニナッテ參リハシナイカ
ト考ヘル、其處マデモ相當御考慮ニナッ
テ、而シテ斯様ナ制限ヲ附シテ、成ベク
制限外課税ヲ許スコトニシナクテモ、
尙ホ地方ノ財源ヲ如何ニシテ涵養スル
カト云フコトヲ御考慮ニナルコトガ、
法律ヲ御制定ニナル本然ノ行方デハナ
イカト思ヒマスルガ、是レ以上ハ申上
ゲマセヌ、兎ニ角私ハ斯様ニナル結果
ハ制限外課税ト云フモノヲ絶エズ御許
ニナラナケレバ、實際ニ立行カナイ町
村ガ全國ニ出テ來ルダラウト思フ、若シ
私ノ申スガ如ク營業稅ノ附加稅ヲ非常
ニ高ク取ツテ居ル村ガ極メテ例外ニ過
ギヌト云フコトデアルナラバ、政府ノ
御調ベヲ御示シテ願フテモ宜シイ、是ハ
例外デナクシテ寧ロ通例ニナッテ居ル
ノガ事實デハナイカト私ハ想像スルノ
デアリマス、此點ハ此位ニ致シマシテ、
營業稅附加稅ニ依テ得ル市町村ノ財源
ガ今日以上ニ減ツテ參ルコトモ御認メ
ニナラナケレバナラナイ、ソレカラ地
租ニ關係ニ於テハ、是モ不公平ト云フ
點ヨリ申セバ、種々ノ缺點ガアルノデ
アリマスケレドモ、先ヅ制限外課税ヲ
許スト、政府ノ御方針ガ定マッテ居ルナ
ラバ、ソレヲ認メルト致シテ、是ハ少ク
トモ減ゼラルベキ稅源ト、而シテ將來
ニ於テ増シテ參ルノト、差引餘リ變リガ
ナイノデアアルカラ論外ト致シマシテ、
先般左様ニ申上ゲタヤウニ、營業稅ノ
關係ニ於テモ減ツテ參ル、而シテ營業

稅、雜種稅ノ地方府縣ニ於ケル課稅ニ
關シテハ制限ヲ設ケ、而シテ一方ニ於
テハ相當稅種ノ整理ヲサレル、廢止シ
タト云フ名ノ後ニ於テハ、更ニ他ノ稅
ヲ賦課セラレルト云フ事實ハアリマス
ケレドモ、暫ク其點ハ別ト致シマシテ
モ、斯様ニ致シテ參リマス、地租ニ於
テハ最早附加稅ヲ増スベカラズ、増ス
トスレバ制限外ノ課稅デアル、是ハ餘
程非常ノ場合デナケレバナラヌト私ハ
思フ、營業稅ニ於テモ減ル、ソレヲ補填
シヤウト云フナラバ、制限外ノ課稅ヲ
許ス、是ハ内務、大藏兩大臣トシテハ相
當御慎重ニナルデアラウ、勝手ニオヤ
リニハナルマイト私ハ思ヒマス、而シ
テ家屋稅ニ關シマシテモ、附加稅ハ本
稅ノ約百分ノ八十程度ノモノヲ賦課サ
セルト云フコトデアルガ、併シ家屋稅
ノモノニ對シテハ、大體ニ於テ府縣ノ
財政關係ノ如何ニ依テハ、無制限ニ之
ヲ賦課スルコトヲ御許シニナルヤウナ
コトハアルマイ、戶數割ニ於テ賦課ノ
制限ヲ御設ケニナルトシテモ、極端ニ
賦課ノ制限ヲ設ケラレル筈ハナイ、矢
張其町村ノ必要ニ應ジテ、何時デモ取
リ得ル途ヲ開ケテ置カナケレバ、地方
ノ財政ハ立タナイノデアアル、サウ云フ
コトヲ考ヘテ見ルト、都市ノ地ニ於テ
ハ家屋稅ノ増加ノ結果トシテ、所謂中
産階級ノ苦ムト云フコトハ事實デア
ル、所得稅ノ關係ニ於テハ、先般申上ゲ
マシタヤウニ、六百萬圓カラ附加稅ノ

増率ヲ許サレテ居ル、六百萬圓ノ増率
ト云フモノヲ許サレテ、而モソレヲ負
擔スル所得納稅者ノ數ト云フモノハ、
千二百圓ニ高メラレテ居ル結果、免稅
點引上ノ結果減ジテ行ク、其數ヲ申セ
バ、先般申上ゲタ通りデアリマス、七千
圓程度ノ所得者マデヲ計算致シテ見ル
ト約百二十萬圓、數字ガ違フカモ知レ
マセヌガ、大體違ヒハナイ、ソレノ負擔
致シマス金ハ、累進課稅ノ關係カラ、人
ノ數ヨリ減ツテ參、テ三千五百萬圓、而
シテ殘ル所ノ大キナ所得者ト云フモノ
ハ九萬五千人デアッテ、八千五百萬圓ヲ
負擔シテ居ル、此附加稅ハ大キナ方ニ
澤山課ツテ參ルコトハ勿論デアリマス
ケレドモ、國民ノ中軸デアル所ノ百二
十萬人、其現ニ負擔スル所ノ三千五百
萬圓ニ對シテ、是ガ千二百圓マデハ課
稅セラレテ居タモノガ、其免稅點引上
ノ結果無クナル人ノ負擔シテ居タ金
高、而シテ其附加稅率ヲ更ニ高メラレ
タル其結果ト云フモノハ、大體ニ於テ
此方ノ負擔ガ重クナッテ參ルト云フコ
トハ勿論デアリマスカラ、所得稅ノ附
加稅率ヲ改メラレル結果、而シテ今日
マデノ所得稅ノ免稅點ヲ引上ゲル結果
ハ、一方ニ於テハ結構ナ事デアルケレ
ドモ、半面ニ於テハ家屋稅ノ新設ト同
時ニ、私ハ都市ノ地ニ於テハ中産階級
ノ負擔ノ増加トナルト認メルノデアリ
マス、此點ニ御異存ガアルカドウカ、尙
ホ又之ヲ地方町村ノ關係ニ付テ申シマ

スレバ、賃賃價格ヲ御定メニナッテ地租
ヲ御改メニナル場合ニハ、附加稅ハ町
村ノ方ニハ減ジテ來ル、特別ノ制限外
課稅ヲ許ストシテモ、無茶ニ許ス譯ニ
ハ行カナイト云フコトデアルト、矢張
地方農村ニ於テハ、其方面ニ於ケル所
ノ附加稅ト云フモノガ減ツテ參ル、地租
及地租ニ對スル附加稅ヲ別ニシテ
然ラバ農村ニ如何ナル稅源ガ起ルカト
考ヘルト、所得稅トシテハ殆ド言フニ
足ラス、營業稅ト致シテモ殆ド言フニ
足ラス、今ヤ地方農村ノ財源ト云フモ
ノハ、全ク彈力ガ盡キテシマッテ居ル、
涸渴シテシマッテ居ル、斯ウ云フ際ニ於
テ斯様ナ課稅ノ方法ヲ御執リニナレ
バ、都市ノ地ニ於テハ家屋稅、所得稅ノ
賦課率ノ増加ニ依テ中産階級ヲ苦シ
メ、地方農村ニ於テハ、家屋稅、戶數割
ニ對シテ足ラザル稅源ハ皆押掛ツテ參
ル結果、地方農村ヲ苦シメル、此事實ハ
ドウシテモ御認メニナラナケレバナラ
ナイ、現ニ先年内務省ニ於テ、非常ニ理
想的ノ案トシテ戶數割賦課規則ヲ御定
メニナッテ、私共モ當時地方ニ居ッテ此
規則ヲ拜見致シマシタ時ニハ、成程控
除率モ設ケラレ、老幼婦女ノ多イ場所ニ
對シテハ、相當恩典ヲ設ケテ居ラレル、
此課稅ヲ致セバ、町村ノ戶數割ト云フ
モノハ餘程宜クナルデアラウト云フコ
トヲ私共想像致シマシタ、内務省ノ机
ノ上ニ於テ左様ノ御考ヲ御持チニナッ
タコトハ、私ハ無理トハ考ヘマセヌガ、

儲テ愈之ヲ實行スルト云フコトニナッ
タ場合ニドウデアアルカ、全國ノ町村長
一齊ニ起テ不平ヲ唱ヘ、未ダ其法律ノ
實行ヲ見ズシテ、早クモ之ヲ改正シナ
ケレバナラヌコトニナッタデヤナイカ、
吾ミハ斯様ニナッタト云フコトハ、地方
ニ居ッテ地方ノ租稅ヲ負擔スル一人ト
シテ考ヘテ見ルト、是ハ矢張地方ノ財
源ガ涸渴シテシマッタ結果デアアル、極言
致セバ、如何ニ勅令ヲ以テ定メタモノ
ヲ法律ニ御移シニナラウトモ、稅且ツ
稅種ノ御整理ニナラウトモ、私ハ今日
ノ狀態デハ、少クトモ地方農村ノ財源
ヲ、今日ノヤウナ租稅ノ徵收方法ヲ以
テシテハ、十分ニ養フ途ハナイ、斯様ニ
考ヘテ居ルノデアアリマスガ、政府ノ御
考ハ如何デアリマスカ

○田中政府委員 只今御話ガゴザイマ
シタ點ニ付キマシテ申上ゲマスルガ、
制限率ヲ設ケマスルコトハ、將來ノ戶
數制ニ付キマシテモ、先程申上ゲマシ
タヤウニ雜種稅ト同様ニ設ケルノデゴ
ザイマス、隨テ雜種稅ニ關スル制限、又
ハ府縣稅、營業稅附加稅ニ關スル制限
ガ緩イ、或ハ嚴重デアルト云フヤウナ
程度ト、戶數制ニ對スル制限ガ嚴重デ
アルカ緩イカト云フ程度ハ、全く同一
デアリマシテ、假令府縣稅、營業稅又ハ
雜種稅ノ附加稅ニ付キマシテ制限ヲ設
ケマシテモ、矢張ソレニ制限外課稅ヲ
許ス途ガアリマスコトハ、現在ニ於ケ
ル地租附加稅、營業稅附加稅、所得稅附

附加稅ニ付キマシテモ、法律自體ニ於テ
既ニ制限外課稅ヲ許スコトヲ認メルノ
ト同様デアリマテ、何等之ニ對シテ制
限外課稅ヲ認メルト云フコトハ惡イコ
トトハ思ハレマセヌノデアリマス、而
シテ其制限ヲ致シマシタガ爲ニ、戶數
割ノ方ニ増加ノ傾向ガナイカト云フヤ
ウナ御疑デアリマスガ、戶數割ニ關シ
マシテモ、同様一ツノ制限ヲ設ケマス
ルノデアリマスカラシテ、其點ハ敢テ
兩者ノ間ニ差異ガナイモノト思ハレル
ノデアリマス、又只今戶數割廢止ノ爲
ニ所得稅納稅者ノ負擔ヲ増ス、隨テ中
産階級ニ重課スルノ虞ガナイカト云フ
御話ガアリマシタガ、御承知ノ如ク戶
數割ハ、所得千二百圓以下ノ者デアリマ
シテモ、亦相當ノ負擔ヲ爲シテ居ルモ
ノデアリマシテ、之ヲ廢スルガ爲ニ所
得千二百圓以上ノ者ダケニ對スル負擔
ニ持タスト云フコトハ、決シテ是ハ中
産階級ニ重課スルノ所以デハナイト考
ヘラレマス、而シテ事實ニ付キマシテ
ハ、先日申上ゲマシタヤウニ各農村ニ付
テ、各府縣ノ各階級、各團體ニ付キマシ
テ、大要觀察ヲ致シテ見タ所ニ依リマシ
テモ、中産階級ノ負擔ハ決シテ重クナ
イト云フ實蹟ヲ得タノデアリマス、又
地租ノ附加稅ニ付キマシテハ、將來賃
賃價格ニ地租ガ改正ニナリマシタル結
果、或ハ此現在ノ附加稅ノ負擔位モサ
スコトガ出來ナイデハナイカ、隨テソ
レガ戶數割ニ行クデハナイカト云フヤ

ウナ御話モアリマシタガ、其點ハ私共
ハサウ認メナイノデアマス、假令賃
賃價格ニ稅率ガ改正サレマシテモ、現
在ノ附加稅ニシテ相當ノ負擔デアリマ
スル以上ハ、決シテ其附加稅ノ負擔ノ
限度ヲ減ジマシテ、現在ノ負擔ダケガ
出來ナイト云フ理由ハナイノデアリマ
スカラ、其點ハ誤解ノヤウニ思ハレル
ノデアリマス、左様ナ次第デアリマス
カラシテ、特ニ地方團體市町村ガ戶數
割ニ負擔ガ偏重セラレナケレバナラヌ
ト云フ傾向ガアルト云フコトガ、此稅
法ノ改正ノ結果ニ基ク所ノ當然ノ結論
トハナラナイト考ヘラレルノデアリマ
ス

○森委員 一寸先般ノ御説明ト同様ノ
コトヲ又再ビ承リマシタガ、私ノ質問
モ同様ノコトヲ申上ゲタノデ、當リ前
デアアルカモ知レマセヌ、只今ノ所得稅
ノ關係デアリマスガ、是ハ從來一圓ニ
付テ十四錢ト三錢六厘、十七錢ト六厘
ノ附加ヲ許シテ居ッタガ、今回ハ二十四
錢ニ御上ゲニナルノデアリマスカラ、
單ニ此關係ヲ申シテモ、約三割三分バ
カリノ増率ニナル、單ニ増率ニナルノ
ミナラズ、切捨テラレル所ノ所得稅納
稅額ハ大ニアルノデアリマス、ソレダ
ケハ上ノ方ニ掛ッテ參ルコトヲ御認メ
ニナラナケレバナラヌ、ソレヲ御認メ
ニナラナケレバ、所得稅ヲ納メマス者
ノ中ニ、特ニ七千圓程度ノ所得者マデ
ノ、所謂最も多數ノソレニ對シテ、相當

ノ課稅率ガ高マッテ參ルコトハ、是ハ御
認メニナラナケレバナラヌ、ソレ以上
ノ方ノ稅率ノ累進率ガ役々高マッテ參
ル人ハ、租稅ノ金額ハ高イデアリマセ
ウガ、併シ是ハ負擔力ガアルノデアアル
カラ、暫ク忍ブベシ、所得七千圓以下ノ
者ハ、私ハ左様ニ負擔力ガ潤澤デナイ
ト思フ、之ニ對シテ課稅サレルコトハ
面白クナイガ、ドウカト云フコトヲ申
上ゲタノデアアルガ、是ハ最早御答辯ヲ
促スノデハナイ、其事實ハ御認メニナ
ラナケレバナナルマイト思フ、家屋稅ナ
リ、戶數割ナリ、相當ノ制限ヲ附スト云
フコトトデアッテ、而シテ制限外ノ課稅
ヲ許スト云フコトハ、地租ニ致シテモ、
其他ノ租稅ニ致シテモ、極メテ是ハ已
ムヲ得ザル場合デアルト云フコトデア
リマス、ドウシテモ私ハ此法律ヲ眞面
目ニ御實行ニナル場合ニハ、町村財政
ガ今日以上ニ窮迫シナイヤウニスルト
云フコトハ、御考ヘニナラナケレバナ
ラヌノデアアル、デアリマスカラ此十三
條ナリ、二十七條等ノ制限ナドハ、寧ロ
此際ニ於テ勅令案ト云フモノヲ内緒ニ
爲サナイデ、寧ロ打明ケテ皆ノ批判
ニ御訴ヘニナル方ガ宜シイト思ヒマス
ガ、ソレハ秘密ニ屬シテイケナイト云
フコトデアレバ、是レ以上申上ゲナイ、
丁度此委員會ニ於テハ、私共同志ノ名
ニ於テ義務教育費國庫負擔額増加ノ案
ヲ提出致シテ居リマス、是ハ先般政友

ノ課稅率ガ高マッテ參ルコトハ、是ハ御
認メニナラナケレバナラヌ、ソレ以上
ノ方ノ稅率ノ累進率ガ役々高マッテ參
ル人ハ、租稅ノ金額ハ高イデアリマセ
ウガ、併シ是ハ負擔力ガアルノデアアル
カラ、暫ク忍ブベシ、所得七千圓以下ノ
者ハ、私ハ左様ニ負擔力ガ潤澤デナイ
ト思フ、之ニ對シテ課稅サレルコトハ
面白クナイガ、ドウカト云フコトヲ申
上ゲタノデアアルガ、是ハ最早御答辯ヲ
促スノデハナイ、其事實ハ御認メニナ
ラナケレバナナルマイト思フ、家屋稅ナ
リ、戶數割ナリ、相當ノ制限ヲ附スト云
フコトトデアッテ、而シテ制限外ノ課稅
ヲ許スト云フコトハ、地租ニ致シテモ、
其他ノ租稅ニ致シテモ、極メテ是ハ已
ムヲ得ザル場合デアルト云フコトデア
リマス、ドウシテモ私ハ此法律ヲ眞面
目ニ御實行ニナル場合ニハ、町村財政
ガ今日以上ニ窮迫シナイヤウニスルト
云フコトハ、御考ヘニナラナケレバナ
ラヌノデアアル、デアリマスカラ此十三
條ナリ、二十七條等ノ制限ナドハ、寧ロ
此際ニ於テ勅令案ト云フモノヲ内緒ニ
爲サナイデ、寧ロ打明ケテ皆ノ批判
ニ御訴ヘニナル方ガ宜シイト思ヒマス
ガ、ソレハ秘密ニ屬シテイケナイト云
フコトデアレバ、是レ以上申上ゲナイ、
丁度此委員會ニ於テハ、私共同志ノ名
ニ於テ義務教育費國庫負擔額増加ノ案
ヲ提出致シテ居リマス、是ハ先般政友

ノ課稅率ガ高マッテ參ルコトハ、是ハ御
認メニナラナケレバナラヌ、ソレ以上
ノ方ノ稅率ノ累進率ガ役々高マッテ參
ル人ハ、租稅ノ金額ハ高イデアリマセ
ウガ、併シ是ハ負擔力ガアルノデアアル
カラ、暫ク忍ブベシ、所得七千圓以下ノ
者ハ、私ハ左様ニ負擔力ガ潤澤デナイ
ト思フ、之ニ對シテ課稅サレルコトハ
面白クナイガ、ドウカト云フコトヲ申
上ゲタノデアアルガ、是ハ最早御答辯ヲ
促スノデハナイ、其事實ハ御認メニナ
ラナケレバナナルマイト思フ、家屋稅ナ
リ、戶數割ナリ、相當ノ制限ヲ附スト云
フコトトデアッテ、而シテ制限外ノ課稅
ヲ許スト云フコトハ、地租ニ致シテモ、
其他ノ租稅ニ致シテモ、極メテ是ハ已
ムヲ得ザル場合デアルト云フコトデア
リマス、ドウシテモ私ハ此法律ヲ眞面
目ニ御實行ニナル場合ニハ、町村財政
ガ今日以上ニ窮迫シナイヤウニスルト
云フコトハ、御考ヘニナラナケレバナ
ラヌノデアアル、デアリマスカラ此十三
條ナリ、二十七條等ノ制限ナドハ、寧ロ
此際ニ於テ勅令案ト云フモノヲ内緒ニ
爲サナイデ、寧ロ打明ケテ皆ノ批判
ニ御訴ヘニナル方ガ宜シイト思ヒマス
ガ、ソレハ秘密ニ屬シテイケナイト云
フコトデアレバ、是レ以上申上ゲナイ、
丁度此委員會ニ於テハ、私共同志ノ名
ニ於テ義務教育費國庫負擔額増加ノ案
ヲ提出致シテ居リマス、是ハ先般政友

會ノ御質問ニ對シテ小川君ガ御答致シ
ラ居ル通り、吾々ノ方ハ單ニ之ヲ以テ
教育改善ノ費ニ充テルノミナラズ、地
方自治體ノ負擔ノ緩和ヲ致シタイト云
フ目的ヲ以テ、是ダケノ金ヲ増シタイ
ト云フ目的ヲ持ッテ居ルノデアリマス、
吾々ハ斯様ナル法律ノ改廢ヲ以テシテ
ハ、ドウシテモ現在ノ町村ノ窮狀ヲ救
フコトガ出來ナイト思フ、政友會ニ於
テハ地租委讓ヲ以テ緩和ヲ圖ルガ第一
ナリトスルガ、吾々ノ方ハ寧ロ義務教
育費ノ國庫負擔ヲ増額スルヲ以テ其第
一ナリト考ヘテ居ル、此點ニ付テハ十
分ノ政府ノ御考慮ヲ煩シタイト思フ、
之ヲ以テ質問ヲ打切りマス

○田中政府委員 只今御話ガアリマシ
タ點ニ付キマシテ、一寸申上ゲテ置キ
マスガ、所得稅附加稅ノ負擔ハ相當ニ
増加致シマスケレドモ、現在戸數割ト
シテ負擔ヲシテ居リマス中産階級ノ負
擔ハ、相當重イノデゴザイマシテ、事實
ニ付テ調ベマスナラバ、所得稅附加稅
ノ増加ガ三割ニ及ビマシテモ尙且戸數
割ノ負擔ノ重課ヲ之ニ依テ免ルル點ガ
多イ結果、中産階級ノ壓制、中産階級ノ
重課ニナルト云フコトハ、私共ノ調査
ニ於テハ出テ參ラナカッタノデアリマ
スカラ其點ヲ能ク御承知ヲ願ヒタイト
思フノデアリマス、尙ホ勅令ニ付キマ
シテハ、昨日モ出セト云フ御話デアリマ
シタガ、實ハ關係各省ノ協議モマダ經
テ居リマセヌノデ、御示ハマダ出來ナ

イ次第デアリマスカラ、左様御承知ヲ
願ヒマス

○森委員 只今ノ御答ニ依リマススト云
フト、戸數割ノ規則ノ改正ニ依テ、其結
果中産階級ノ負擔ガ減ルカラ、所得稅
ノ方ガ増シテモト云フ御話デアリマス
ケレドモ、是ハ將來ノ事デアリマスガ、
吾々ノ見ル所ヲ以テ致シマスレバ、今
後ノ制限ハドノ程度ニ御設ケニナルカ
ハ知ラズ、制限外課稅ヲ許スト云フコ
トヲ前提トシテ居ラレマス以上ハ、今
後ノ所得稅附加稅ノ負擔ハ、決シテ今
日ニ比シテ減ラナイ、寧ロ増ス、戸數割
ノ減ル負擔ハ、私ハ矢張中産階級ノ負
擔ノ増加ニナルト信ジマス、此意味ヲ
申上ゲテ置キマス

○田中政府委員 私ノ申上ゲマシタノ
ガ、或ハ誤解ニナッテ居ルカモ知レマセ
ヌガ、戸數割ハ府縣稅トシテ無クナリ
マスノデ、隨テ戸數割ノ總額ガ減ルノ
デアリマス、又市町村稅ニ於キマシテ
モ、戸數割ノ總額ハ計算上、減ルト云フ
コトハ、茲ニ現ハシタ表ニ明カデアリ
マス、又戸數割ハ現在配當ニ依ル不公
平——府縣稅トシテ配當ニ依ル不公平
モアル、サウ云フ所ノ分子ガ除ケマス
ノデ、非常ニ私共カラ見マスレバ、市町
村稅トシテ適當ナル稅ニナル、而シテ
其負擔ハ現在ヨリモ輕クナルノデゴザ
イマスカラ、決シテ御話ノヤウナ事實
ハナイト存ジマス

○元田委員長 淺川サンノ番デゴザイ
マスガ、オキデアリマス——淺川サ
ンニ一寸申上ゲマスガ、只今迄ノ質問
者ノ應答中ニ、私ノ所ヘ竊ニ注意サレ
ル人ガアリマシテ、實ハ總體ノ質問ヲ
長イ間ヤッタノデ、今度ハ殘リノ各部ニ
互テノ質問ニ返ッテ、サウシテ成ベク
ソレヲ盡シタイト云フ考デ居ルノデア
ルカラ、同ジヤウナ事ヲ繰返シタリス
ルヤウナコトハ、委員長少シ制シテ貰
ヒタイト云フ御注意キアリマシタ、私
ハ先刻此席ニ著キマシタカラ、ドウカ
分リマセヌガ、皆サン共ニ其御積リデ、
問フベ 所ハ問ウテ、普ク行クヤウニ
致シタイト思ヒマス、ドウゾ宜シク願
ヒマス

○三土委員 此法文ニアリマスル通
リ、將來地價ノ標準ヲ廢止シテ貸賃價
格ニ依ル、其標準ハ今日ト變ラヌノデ
アリマス

○淺川委員 貸賃價格ニ依ルコトモ分
ツテリマス、第六條ノ「地方長官ハ命令
定ムル所ニ依リ道府縣各市町村ノ土地
貸賃價格ニ關スル市町村位ヲ決定スベ
シ」トアリマスルガ、此法文ノ解釋ヨリ
致シマスレバ、先ヅ村ガ單位トナリ、而
シテ一府縣ガ單位トナルヤウニ思フノ
デアリマス、全國ヲ通ジテノ公平ハ得
ラレヌヤウニ考ヘマス、地方長官ニハ
如何ナル命令ヲ御發シニナル御考カ、
御提案者ノ意思ハ何ト思ハレルカ、此
點ヲ伺ッテ置キタイ

○三土委員 市町村位ト申シマスノ
ハ、各市町村毎ニ市町村位ハソレハ地
方長官ニ任ス積リデアリマス、ソレヲ
承認シク行ク積リデアリマス

○淺川委員 御説明ノ如クデアリマス
ルト、當該府縣内ニ於テハ、或ハ公平ヲ
得ル途ガアルカモ知レマセヌガ、全國
ヲ通ジタル公平ト均衡トヲ得ル途ガ確
ニアルノデアリマス

○三土委員 ソレハ自治團體ノ結果當
然デアルト思フ、他ノ戸數割等ニ於キ
マシテモサウデア
○淺川委員 私ハ其御答辯デハ満足致
シマセヌガ、ソレハソレデ宜シイ、輕減
ヲ御伺リニナルト云フ御理由ガアリマ
スルカ、輕減ニ付テハ他ノモノヲ以テ當

テルト云フヤウナコトニナッテ居リマ
スガ、是ハ更ニ他ノ機會ニ讓リマシテ、
只今ノ質問ハソレダケヲ伺ッテ置キマ
シテ、是デ終リマス

○三土委員 私ハ一ツ内務大臣ニ伺フ
コトガ多イノデアリマスガ、大藏大臣
ニ一、二點伺ッテ置キタイと思ヒマス、
之ヲ伺ッテ居ル間ニ内務大臣ガ御出席
ニナルト思ヒマス、大藏大臣ハ現行營
業稅法ヲ廢止シテ、純益ヲ標準トシテ、
新營業稅法ヲ此機會ニ於テ純益ヲ四百
圓以下ヲ免稅スルマ云フコトヲ、屢四
百圓ト云フコトヲ免稅點トスルト云フ
コトヲ申サレテ居リマスガ、私ハ是ハ
免稅點ト云フコトハ理屈ニ合ハスト思
ヒマス、是ハ國稅ト地方稅トノ分域ダ、
是マデハ賣上金高二千圓、資本金一千
圓ト云フガ如キモノヲ分岐點トシテ居
ルノデアリマス、此度ノ新營業稅法ニ
依リマスルト、純益ヲ標準トシテ、純益
四百圓ヲ分岐點トスル、決シテ是ハ免
稅點デハナイ、國稅トシテノ免稅點デ
ナイ、所得稅ノ如キ、地方稅ダケヲ附加
セザルモノヲ混交スル嫌ガアル、是ハ
分岐點ト解釋シタイ

〔元田委員長長席ヲ退キ三
輪理事代リ著席〕

○濱口國務大臣 政府モ其考デアリマ
ス、ソレ故ニ社會政策ト云フコトヲ言
ヒマスル時ニモ、營業稅ノ免稅點ヲ引
上ゲタ、四百圓トシタト云フコトヲ述
ベテ居リマス

○三土委員 ソコデ是マデノ實狀ニ依
リマス、今度營業稅ノ國稅、地方稅ノ
分岐點ヲ四百圓ト致シマスルト、四百
圓以下ノモノハ無論府縣稅デアリマス
ガ、府縣稅ト地方稅ヲ合セマスルト、矢
張國稅及之ニ對スル市町村稅ノ附加稅
ヲ合算致シマシタモノヨリ多クナルコ
トガアルデアラウ、斯ウ云フ場合ニ於
テ、寧ロ四百圓以下ノ純益デアッテモ四
百圓以上ニシテ、サウシテ申告シテ國
稅ノ賦課ヲ受ケル方ガ得ダト云フ計算
ガ出ル所ガ多イノデアリマス、サウナ
レバ當然法律上ハ、地方稅トシテ納稅
スル者ガ、ソレハ國稅ノ方ニ自ラ改メ
テ納稅スル、斯ウ云フコトガ段々出テ
來ルト思ヒマス、ソレハ政府ニ於テ御
認メニナッテ居リマスカ

○濱口國務大臣 只今ノヤウナ御心配
ノ結果ヲ惹起スコトノナイヤウニ、地
方稅ノ方ノ率ハ拵ヘテ居リマスカラ、
サウ云フコトハアルマイト思ヒマス

○三土委員 私ハ詰リサウ云フ場合ガ
多ク起ルト思ヒマスガ、ソレハソコデ
ニシテ置キマス、モウ一ツ此清涼飲料

稅ト「ビール」トノ關係ニ付キマシテ、
既ニ色々質問應答ガアリマシタカラ、
是ハ申シマセヌガ、「ビール」ト清酒ト
同ジヤウニ、今回一石七圓増稅スルノ
デアリマスガ、是マデノ稅法改正ノ歴
史ヲ見マスルト、何時デモ清酒ノ増稅
ヨリモ「ビール」ノ増稅ノ方ガ少クナッ
テ居ル、然ルニ今回ハ清酒同様ニ七圓

増稅致スノデアリマス、之ニ就キマシ
テ私ハ根本ノ方策ヲ伺ッテ置キタイ、私
共ハ斯ウ見テ居ルノデアリマスガ、成
ベク「アルコール」含有料ノ少ナイモ
ノ、即チ酒類ハ國民ニ飲マセヌト云フ
方法ヲ執ラナケレバナナイ 同時ニ
「ビール」ノ原料ハ大麥デア、テ、清酒ノ
原料ハ米デア、然ルニ近頃麥酒ガ段
段減ッテ參リマシテ、此關東地方ナドノ
大麥ニ付キマシテハ、非常ニ困ッテ居
ル、國策カラ考ヘテモ、「ビール」ヲ飲用
スルコトカ寧ロ獎勵シテ、清酒ノ飲料
ヲ成ベク抑シスルト云フコトハ、國策ト
シテ宜イノデアリマス、然ルニ今回ニ

限ッテ清酒ノ増稅ハ「ビール」ナ増稅ト
同率ニ致シマシテサウシテ、是マデヨ
リ「ビール」ノ方ニ向フ方ヲ甚ダ少ナカ
ラシムル結果ヲ來タスト云フコトハ、
國策上如何ト思ヒマス、増稅ヲ致シマ
ス序ニ私共ハ酒トノ均衡上、増稅シナ
ケレバナリマセヌガ、「ビール」ノ金高
ヲ増稅スル率カラ申シマスルト、非常
ナ率ノ増稅デアリマス、根本方針ヲ伺
ッテ置キタイ

○濱口國務大臣 別ニ根本方針ト云フ
コトノ程モアリマセヌガ、詰リ最近ニ
於ケル清酒ト「ビール」トノ消費ノ狀況
ニ願ミマシテ、「ビール」ノ消費者ハ清
酒ノ消費者ト比較致シマシテ、比較的
ニ擔稅能力ガ多イト云フコト、消費ノ
狀況カラ判斷シテ是レ位ノ率デアルナ
ラバ、其擔稅能力ニ相當スル増稅デア

ラウト云フ判斷力カラ致シマシタノ
デ、必シモ其稅法ノ中ニ含有シテ居ル
所ノ酒精分ノ量ニハ考慮ヲ拂ハナカッ
タノデアリマス

○三土委員 私ハ同一ノ金額ヲ増稅ス
ルト云フコトハ宜シクナイト考ヘマ
ス、是ハ意見ノ直達デアリマスカラ止
メマス、實ハ先刻大口君カラ質問サレ
タ大正九年法律第五十一號改正ノ問題
デアリマス、此問題ハ私共第三者カラ
見マスト政府ノ手落ト云フコトハ明瞭
デア、ソレヲ實際ニ於テ樺太製造ノ
醬油ガ朝鮮ニ行クコトガナイカラ此儘
ニシテ置イタト云フコトハ、餘リ強辨
ニ過ギハシナイカ、誰ガ見テモ常識カ
ラ考ヘレバ是ガ手落デアルト云フコト
ハ明デア、前ノ法律案モ同様ニ手落
デアリマスカラ、茲デ手落デアッタカラ
然ルベク訂正シテ吳レト出ラレル方ガ
宜カラウト思ヒマス、斯ウ云フ事ヲ強
辯セラレルト云フト、他ノ事マデ政府
ノ言フ所ヲ信セラレナイヤウナ氣ガス
ル、濱口君ハ私ハ正直ナ方ト思ヒマス
ガ、少シ淡泊ニ是ハ手落デアッタ、然ル
ベク修正シテ吳レト仰ッシャッタ方ガ宜
上ゲタイ

○濱口國務大臣 是ハ御承知ノ通り大
正九年法律第五十一號ト云フノハ、内
地、臺灣又ハ樺太ヨリ朝鮮ニ輸出スル物
品ノ內國稅免除ニ關スル法律案デアリ
マス、其實際ノ働キハ内地カラ行クノ

ガ主デアリマス、樺太臺灣ト云フコト
ガアリマスケレドモ、其目的ハ内地ガ
主タル目的デアリマス、其關係カラ致
シマシテ、内地ノ醬油稅ヲ廢シマシタ
以上ハ、此法律ヲ改正スルノガ相當デ
アルト云フ考デアリマス、若シ樺太ノ
醬油稅ノ廢止ト云フコトヲ十六年カラ
ト致シタ爲ニ、此改正ノ結果不都合ヲ
生ズルト云フ御疑デアアルナラバ、ソレ
ハ實際ニ於キマシテ樺太カラ朝鮮ニ醬
油ヲ出シテ居ル場合ハナイカラ、實害
ハナイト思ヒマス、又法律ノ形カラ見
マシテモ内地ガ主デアリマス、是ハ手
落デアリマセヌ、相當ニ考慮ヲ致シタ
結果、實際ノ害ガナイト云フ考カラ斯
様ニ改正ヲ加ヘタダケデアリマス、申
ス迄モナク是ハ醬油ダケノ關係デナ
ク、清涼飲料ノ關係其他ノ關係モアリ
マスカラ、斯ウ云フ改正ヲ致シタ譯デ
アリマス

○三土委員 私ハ好意ノ御忠告ヲ致シ
タノデアリマスガ、飽迄モ強辯セラレ
ルナラバ、ソレ以上申シマセヌ、私ハ内
務大臣ニ一ツ御同致シタイト思フ、私
ハ屢本議場竝ニ他ノ機會ニ於テ申上ゲ
マス通り、稅制ノ整理ト云ヘバ國稅ヨ
リモ地方稅ノ方ニ非常ニ重キヲ置カナ
ケレバナラナイト思フ其根本ノ議論ニ
付キマシテハ只今申シマセヌガ、唯一
二點伺ヒタイノハ、今回府縣戶數割ナ
ルモノヲ廢シ、家屋稅モ同様デアリマ
スガ、之ヲ廢シ、其財源補填ノ方法トシ

テ現在市町村ガ取ッテ居ル所得稅ノ附
加稅ヲ増率スル、ソレニ對シテ本稅三
千萬圓バカリノ家屋稅ヲ取り、其足ラ
ザル所ハ所得稅附加稅ノ率ヲ高メル、
即チ高メルノハ、大正十四年ノ府縣市
町村ノ歲入豫算ニ依テ見マス、所得
ノ新ニ高マルモノガ總額六百萬圓、斯
ウナリマス、所ガ最初政府ガ發表致シ
テ居ッタ時分ノ數字ヲ見マス、家屋稅
ハ一千五百萬圓程度デス、サウシテ其
足ラザル所ヲ所得稅ノ附加稅ノ増率ニ
依テ補填スル、斯ウナリマス、大正十
四年度ヲ標準トシテ考ヘマス、只今
ノ六百萬圓増加ト云フ外ニ一千五百萬
圓程増加スル、斯ウナルノデアリマス、
私共其案ダケ見マシタ時分ニ、數年後
ハ率知ラズ、現下ノ經濟界ノ狀況カラ
考ヘマシテ、只今ノ所得稅及附加稅ト
云フモノハ相當重ク課セラレテ居ル、
此ノ所得稅ノ附加稅ヲ一時ニ甚シク増
率スルコトガ、事業界ニ大打撃ヲ加ヘ
ルト云フコトヲ私ハ論ジテ居リマシタ、
所ガ今回ノ御提案ヲ見、且ツ參考書類
竝ニ內務大臣ノ本議場ニ於ケル御演說
ヲ伺ヒマス、家屋稅千五百萬圓ト云
フ計畫ヲ變更シテ、本稅三千萬圓ノ附
加稅ノ方ハ、戶數割ヲ施行シ得ナイ所
モ段々加ヘテアリマスカラ、差引ドウ
ナルカ知レマセヌガ、大體ニ於テ本稅
ト附加稅ト同額デ宜カラウト思フ、其
上只今隣席ノ森君カラノ御質問ニ依テ
政府委員ノ御答辯ト合セテ見マス、

府縣稅市町村稅共ニ政府ハ制限ヲス
ル、併シ制限ヲシタナラバ地方ノ財源
ガ涸渴シテ居ルカラ、到底賄ヒ切レナ
イ、ドウシテモ制限外課稅ヲ許サナケ
レバナラヌガト云フ森君ノ御質問ニ對
シテ、政府委員ハ無論各市町村府縣ノ
財政狀況ニ應ジテ制限外課稅ヲ許ス積
リデア、斯ウ云フ話デアリマス、サウ
スルド家屋稅ノ附加稅ハ勿論制限外課
稅ヲサレルコトハ見エテ居リマス、若
シ家屋稅ノ方デ減額スルト、其足ラザ
ル所ハ戶數割ニ持ッテ行クニ極ッテ居
ル、何レニカ廻スコトニナル、私ガ考ヘ
マスノニ、現在ノ府縣戶數割、家屋稅ト
云フモノハ非常ニ不公平ナモノデアリ
マシテ、是ガ廢止ハ私共多年ノ議論デ
アル、財政經濟調查會デ調查ヲ致シマ
シタ時分ニモ、之ヲ廢止スルト云フコ
トハ地方稅ノ整理ニ取ッテ大關係ガア
ルト云フ論デアリマシタ、然ルニ現在
ノ府縣戶數割、家屋稅ト云フモノハ何處
ニ缺點ガアルカト云フト、各町村間ノ
公平ガ保タレナイト云フ事ト、戶數割
ニ按分シテ配付スル結果トシテ、各町
村ノ擔稅力ニ比例シナイデ、甚シキハ
隣接シテ居ル町村トト、同ジ資産狀態
ノモノデ、隣ハ一圓ノモノガ其隣ハ五
圓、四圓ト云フ府縣稅ヲ課セラレルト
云フ不公平ガアル、故ニ之ヲ廢止スル、
斯ウ云フデアリマス、而シテ此稅ハ
多年色々內務省デ御研究ニナリマシタ
ガ、私共モ研究致シマシタガ、此不公平

ハ町村間デ直シヤウガナイカラ之ヲ廢
ス、此財源トシテ新ニ起ス家屋稅ハ、私
ハ輕微ナ家屋稅ナラバ無論異存ハナ
イ、租稅ノ體系カラ考ヘマシテモ負擔
ノ均衡カラ考ヘマシテモ、極ク輕微ナ
家屋稅ヲ起スコトハ宜カラウト思ヒマ
スガ、今回政府ガ新ニ提案サレタル家
屋稅ヲ見マス、今迄ノ府縣稅ヲ戶數
割ノ代リニ持ッテ行クト云フコトニナ
テ、非常ナ不公平ニナル、ト云フハ今
迄ハ町村間デハ不公平デア、町村間
デハ不公平デアリマスケレドモ、同一
町村ノ内ノ其配付ト云フモノガ、其町
村内ノ資産狀態ニ應ジテ戶數割ヲ賦課
致シマスカラ、其内デハ公平デア、擔
稅力ニ相應シテ居ルモノト私ハ認メ
ル

「三輪委員長代理委員長席ヲ退
キ元田委員長若席」

○三土委員 (續)然ルニ其代リニ家屋
稅ヲ持ッテ參リマス、町村間ノ公平ハ
保タレマスガ、町村内ニ於テ非常ナ不
公平ガ起リハシナイカ、勿論家屋其モ
ノノ賃貸價格ヲ標準ニスルコトデアリ
マセウガ、家屋其モノ物稅トシテソレダ
ケ離シテ見レバ公平ト云ヘルカモ知レ
マセヌガ、是マデノ戶數割ニ代フルニ
此家屋稅ヲ以テ致シマス、詰リ家屋
稅ナルモノハ其町村内ノ擔稅力ニ應ジ
ナイ、例ヘバ財産ガ百萬圓アル者ト、或
ハ家屋數位シカ持ッテ居ラヌ者ト、殆ド
提灯ニ釣鐘見タヤウデ、比較ニナラナ

イ程ノ財産ノアル者、サウ云フ者デモ住ッテ居ル家屋敷——家ノ賃貸價格ト云フモノハ、恐ラク二十倍ノ差ハアルマイト思フ、即チ貧乏人ノ家ト其町村ノ一番大キナ百萬圓トカ云フヤウナ財産家ノ家ト比ベマシテ、賃貸價格ト致シマストサウ大シタ差ハ附ケラレマイト思フ、何レ建坪トカ色ミノ外形標準ニ依ル外ハナイト思ヒマス、此普請ハ紫檀、黒檀、「タガヤサン」ヲ使ッテ居ルカラドウト云フヤウナ事ハ言ヘナイ、ドウシテ家ノ材料ト云フコトヲ言ハズニ、大體ノ面積トカ坪數ト云フコトヲ標準ニ致シマスト、資産家ト貧乏人トノ間ノ賃貸價格ニ依ル負擔力ト云フモノハ、資産狀態ニハ非常ニ副ハヌモノガ出來ル、斯ウナリマス結果トシテ、是迄ノ府縣稅タル戸數割、家屋稅ヲ負擔シテ居ッタヨリハ、今度ノ新タナル家屋稅ヲ負擔スル結果トシテ、其町村内ノ資産家ハ非常ニ得ヲスル、資産家ハ今日マデノ府縣稅戸數割ヨリ非常ニ樂ニナル、其樂ニナル所ヲ中産以下ノ人ミニ非常ニ重課スルト云フコトニナルノデアリマス、町村ニ於キマシテハ町村稅タル所得稅附加稅二千萬圓程ヲ取ラレマス、尤モ是ハ家屋稅ヲ施行スコレトノ出來ナイ所ノ保留ガゴザイマスカラ、ソレヲ差引イテ見マスト千六百五十萬圓程、市町村ノ財源ヲ失フコトニナル、是ハ主トシテ相當ノ資産アル者、相當ノ負擔力アル者以上ニ掛ケテ

居ルノデアリマスガ、ソレガ府縣ニ取ラレル、其又補填トシテ家屋稅ノ附加稅ガ各町村ニ掛カテ來ル、是ハ又右申スト同様ニナルノデアリマシテ、即チ此稅制整理ノ結果ト致シマシテ、各町村内ノ資産家ハ非常ニ負擔ヲ輕減サレ、中産以下無産階級ノ人ハ非常ニ負擔ノ重課ニナルト云フコトヲ政府ハ御認メニナリマス、如何デアリマスカ

○若槻國務大臣 稅制整理案ニ付テ、國稅バカリデナク、地方稅ト國稅共ニ併セテ考ヘナケレバナラヌト云フ事柄ハ、私三士君ト同論デアリマス、唯三士君ハ地方ノ方ニ寧ロ重キヲ置イテ整理スルノガ相當デアルト云フ御論ノヤウデアリマスガ、是ハ見方デアラウト存ジマス、地方稅ヲ納メル者モ國稅ヲ納メル者モ誰カト云ヘバ、同ジ懷ロカラ出テ行クノデアリマスカラ、地方稅國稅ハ共ニ併セテ見テ稅制ノ整理ヲスルト云フノガ相當デアッテ、私ハ其間ニ甲乙ヲ置カズニ、兩者併セテ全般ニ於テ公平ヲ得ルヤウニ整理ヲスルノガ宜カラウト思ヒマス、大體ハ恐ラク三士君モ御同論デアラウト思フノデアリマス、サウ前提ヲ置イテカラ、戸數割ヲ府縣カラ取ッテ之ヲ町村ニ移シ、ソレカラ府縣ニ家屋稅ト云フモノヲ設ケテ町村ニ其附加稅ヲ取ルコトヲ許ス、又府縣ニ所得稅ノ附加稅ヲ徵收スルコトヲ許ス、其變更ガ何等カ地方ニ於テ富者ヨリモ寧ロ貧者ノ方ニ負擔ガ重クナルヤ

ウナ結果ニナルト思ハレルガ、政府ハソレヲ認メルヤ否ヤ、大體サウ云フ御質問ノヤウニ伺ヒマス、其前ニ一言申上ゲテ置クノハ、當初內務省ガ世ノ中ニ發表シタトキニハ、家屋稅ハ府縣ニ於テ千五百萬圓デアッタモノガ、今度參考書デ見ルト三千萬圓程取ルヤウニナッテ居ルヤウデアアル、ソレカラ更ニ一方ニ於テ家屋稅徵收ト云フ上カラ負擔ノ不均衡ガ増加シタヤウニ思フト云フノモ、亦御質問者ノ頭ニハ加ヘテ御考デアルト思ハレマス、御話ノ如ク、世ノ中ニ發表シタト云フノデアリマセヌケレドモ、併ナガラ內務省デ調査シツツアルモノガ新聞ニ出タコトハ事實デアリマス、而シテ當初出タモノハ御話ノ通り府縣ニ於テハ家屋稅ヲ千二百萬圓カラ四五百萬圓程度デ徵收シヤウト云フ考デ居リマシタガ、併シサウナレバ一方ニ於テハ今度ハ所得稅ノ附加稅ヲ大ニ増加シナケレバ、現在ノ財源ノ維持ガ出來ナイ、ソレデハ又今度ハ其方面ニ於テ餘リニ急激ナ變化ガ起ルト云フコトヲ見マシタモノデスカラ、ソレデ總テ調和ヲスルノニハ當初考ヘテ居ッタヨリモ今少シ家屋稅ノ方ニ餘計取ッテ、サウシテ所得稅ノ附加稅ノ率ヲ今少シ下ゲタガ相當デアアル、斯ウ考ヲ變ヘマシタ結果ガ、今日參考書ニ於テ御目ニ懸ケタヤウナ結果ニナッタノデアリマス、沿革ヲ申上ゲルト左様ナ次第デアリマス、而シテ家屋稅ナルモ

ノハ富豪デアッテモ、小サナモノデモ、必ズ家ヲ持ツ、其持ッ家ノ賃貸價格ナルモノハサウ大シタ相違ハナイ、相違ガアルトシテモ二十分ノ一前後ノモノデアルト思フ、サウナルト今日戸數割デ取ッテ居ッタヤウナ工合ニハ行カナイ、不公平ガ増サヤウナコトニナリハセヌカ、結局ノ御質問ハソコニ歸着スルト思フ、內務省ニ於テ取調ベマシタ所ハ、地方ニ於テ幾ラカノ例外ハアルカモ知レマセヌガ、大體ニ於テ家屋稅ニ賃貸價格ヲ取ッテ行クト云フコトハ、貧富ニ於テサウ負擔ガ富者ニ輕ク、貧者ニ重イト云フコトニナラヌト大體ノ見込ヲ立テタノデアリマス、內務省ノ見タ所ハサウ認メテ居ルノデアリマス、而シテ之ニハ納稅者ノ結局ノ負擔ガ均衡ヲ得ルヤ否ヤト云フコトハ、唯家屋稅ナラ

家屋稅一ツヲ以テ必シモ判斷スベキモノデナカラウト思ヒマス、家屋稅モ賃貸價格ニ依テ徵收スレバ凡ソ比例ハ取レルノデアアル、其上ニ所得稅ノ附加稅ト云フモノガアッテ、是デ又富者ト貧者トノ權衡ヲ取アリマス、其上ニ戸數割ト云フモノガアッテ、是デ又富者ト貧者トノ權衡ヲ取ルノデアアル、是等ヲ綜合シテ見ルト云フト、富者ト貧者トノ間ノ負擔ガサウ不均衡デナイモノニ行クト云フヤウニ、總テノ例ヲ綜合シテ考ヘテ居ルノデアリマス、ソレデアリマスカラ今度改正シタヤウニスレバ、大體ニ於テ貧

富擔稅力ニ應ズルモノニナルト思ッテ居リマスガ、倍ソレナラバ家屋稅ノミヲ離シテ見テ大ナル不權衡ガアルカ、斯ウ申シマス云フト、內務省ニ於テ一應調査ヲシ、又認定ヲシタ所ニ於テハ、家屋稅ノミ離シタ所デモ左程ヒドイ其間ニ不權衡ガアルトモ思ハレヌノデアリマス、賃貸價格デ之ヲヤッテ行ク以上ハ、地方ニ於ケル相當ナル擔稅力ノアル人ハ矢張家屋モ良イモノニ住ッテ居ル、擔稅力ノ乏シイ者ハドウシテモ賃貸價格トシテハ極メテ低イ賃貸價格ノ家屋ニ住ッテ居ル、其間ニ於テ自ラ權衡ガ取レテ行ク、併シ其間ニ於ケル權衡ノ取レ方ガ尙ホ少イト云フナラバ、所得稅ノ附加稅、或ハ戶數割ノ課稅ト云フヤウナモノデ益其權衡ヲ平ニ爲シテ行クト云フコトニナル、大體ハ左様ニ認メテ居ルノデアリマス

○三土委員 只今ノ內務大臣ノ御答辯ハ、地方稅整理ヲ致シマス上ニ付テ、或ハ所得稅ノ附加稅、或ハ家屋稅、色々差引シテ見ルト云フト、相當公平ガ保テ引ルト云フ御話デアリマスガ、然ラバ私ハ分析的ニ申上ゲテ見タイト思ヒマスガ、市町村ニ於キマシテ——先ヅ簡單ノ爲ニ町村ヲ申上ゲマス、町村ニ於テハ今度ノ內務省御提案ノ改正ニ依ルト云フト、變タ所ハ何ガ變タカト云ヘバ、今マデ所得稅附加稅ヲ取ッテ居ッタノヲ、ソレヲ取上ゲラレル 所得稅附加稅ハ無クナル、ソレカラ府縣稅ノ營業

稅雜種稅ヲ整理シタ爲ニ、若干其附加稅ガ無クナル、其代リニ新ニ起ス家屋稅ノ附加稅ガ這入ッテ來ル、斯ウ云フノデアリマス、町村ダケデ申シマス云フト、極ク少數ナ資産階級ノ負擔シテ居ツタ所得稅ハ取レナイ、其代リ家屋稅ヲ以テスル、斯ウ云フ事ニナルノデアリマス、戶數割ノ關係ニ於テハ町村デハ違ハナイ、金高ハ多少減ルカモ知レマセヌガ、戶數割ノ負擔ハ是マデト同ジデアッテ、丁度租稅力ニ應ジテ居ル、町村ニ於テハ之ニ付テ變リガナイ、縣程ハドウナルカト云フト、縣稅ハ戶數割ニ掛ッテ居ッタ、其戶數割ヲ町村デ賦課スル時分ニハ、其資産狀態ニ應ジテ課稅致シタノデアリマス、ソレヲ止メテ其代リ縣稅ヲ家屋稅ニ代ヘタ、サウシテ非常ニ資産家モ、無産階級ノ人モ同一ニ負擔スルノデアリマス、是マデ其負擔ノ仕方ガ非常ニ資産階級ニ重ク課シテ居ッタモノヲ、賃貸價格ニ依ルト云フト、大體均シテ負ハサレルノデアリマスカラ、御承知デアリマセウガ、町村ニ於テ戶數割一戸分ノ人モアレバ、資産家ノ如キ三百戸分、五百戸分ヲ負擔シテ居ル、所ガ之ヲ止メテ家屋稅ニ變リマス云フト、賃貸價格ニ依ルノデアリマスカラ、其賃貸價格ハサウ高ク適用ガ出來ナイ、資産家ノ者ガ極ク貧乏ノ人ヨリ賃貸價格ヲ百倍、二百倍ト云フ譯ニモ行カナイ、サウスルト金高ハ大體同ジデアッテ、其負擔ハ資産階級

ガ負ウテ居ッタノガ輕減サレテ、一般村民ニ及ブト見ナケレバナラス、差引スルカラ、大體均衡ヲ得ルト仰シヤリマスケレドモ、所得稅ヲ納メル以上ソレニ付テ考ヘテ見ルト云フト、其人ハ政府案ニ依リマス云フト、全國ヲ通ジテ所得稅ノ附加稅ノ負擔額ハ六百萬圓増シマシテ、サウシテ一面ニ於テ家屋稅ガ府縣ニ於テ三千萬圓、其六百萬圓ト云フ所得稅ヲ増ス方ノ資産家ハ、租稅力ガアルカラ増スノデアリマスガ、ソレト家屋稅ノ負擔ノ輕減ト差引シテ、餘程資産階級ノ人ハ助カルガ今日ヨリモ善イカ惡イカト云フコトハ問題ト思フ、今日府縣稅ノ負擔ニ於テ各町村ガ大體資産家ガ輕減サレテ、貧乏人ガ増稅ニナルト云フコトハ、是ハドウシテモ認メナケレバナラスダラウト思フ、各町村ノ町村稅ニ於テハ、所得稅ガ府縣ニ行キマシテ、其代リガ家屋稅ニナルノデアリマシテ、矢張所得稅ト云フ極ク少數ノ人ガ負擔シテ居ッタ所ノモノガ、多數ノ村民ノ負擔ニナルノデアリマスカラ、町村稅ト致シテモ、貧者ニ増加サレテ富者ノ爲ニハ輕クナル、是ハ爭ハレヌ事實ダラウト思フ、是ハ政府モ認メナケレバナラス事ト思ヒマス

方ハドツチカト云フト、所得ノ多イ人ガ割合ニ税金ヲ負擔スルト云フ事モ御認メナリ、今度ハ家屋稅ノ方ガ却テ富者ヨリ貧者ノ負擔ニ移ル傾向ガ多イ、ソレヲ政府ハ認メルヤ否ヤ、斯ウ云フ御話デアリマスガ、勿論其點ハ若干御話ノ通りニナラウト思ヒマス、但シ戶數割ノ中デ建物ノ坪數等ヲ標準ニシテ、若干戶數割ヲ課スルヤウニナッテ居ッタコトモ事實デアリマス、之ヲ今回除クコトニナッテ居リマスガ、是ハ自ラ家屋稅ト同ジ性質ノ關係ニ在ルト云フコトモ、是ハ認メナケレバナラスト思ヒマス、ソレデ家屋稅ニ付テハ大體之デ貧富ノ權衡ヲ得テ居ルト思ヒマスケレドモ、其權衡ノ得方ハ、家屋稅ニ増加スル金額ガ、所得稅ノ附加稅ニ増加スル金額ヨリモ、家屋稅ノ方ニ増加スル金額ガ多ケレバ、ソコノ割合デ、キチント貧富ノ間ノ負擔ガ從來極ッテアッタノガ、若干變ルコトヲ政府ガ認メナケレバナラスト仰セニナルガ、其通りニナラウト思ヒマス、而シテ其通りニナルノハ、是マデノ標準ガ抽象的デアッタノガ、有形的ニナッテ來タ爲ニ、所謂任意ト云フ部類ガ減ジテ、其方面カラ幾分見計ヒデ取ルト云フコトニナッテ——現實ノ標準ニ依テ取ルト云フコトニナッテ、ソレデ幾分カ負擔ガ變ルニ相違ナイガ、若干サウ云フ相違ガアッテ、或アルモノハ見計ヒデヤッテ適當ナモノモアルケレドモ、餘リ見計ヒデヤリマス

○若槻國務大臣 三土君カラ所得稅ノ附加稅ニ付テ、府縣ト町村ト合計スルト、從前ヨリモ増加スルト云フコトヲ御認ニナッテ、所得稅、附加稅ノ増加スル

ト、時ニ依ルト一方ニ偏スル虞ガアルカラ、之ヲ若干有形ノ標準ニスルト、ソコノ間ニ割然タル比例ガ保テルト云フ關係モ起リマスカラ、負擔ハ若干變更スルト云フ仰セデアレバ、私モサウナルダラウト思ヒマス、何トナレバ、一方ノ總額ニ於テ、一方ノ總額ト違フ以上ハ、其間ニ若干ノ變更ガアルト思ヒマス、而シテサウナッタ結果ドウナルカト云フト、私共ハソレニ依テ全體ノ府縣稅、市町村稅、國稅ノ總體ヲ綜合致シマシテ之ヲ見ルト、今日ノ負擔能力ニ相應ジタヤウナ課稅ニナツテ、結局納メル懷ロハ一ツニナル、一ツノ懷ロカラ勘定シテ權衡ヲ得タモノニナルト考ヘテ居リマス、併シ一端ヲ捉ヘテ仰シヤレバ、家屋稅ニ於テ貧富ノ差ノアルト、所得稅ノ附加ニ於テ貧富ノ差ノアルト、割合ガ違フト云フコトハ認メナケレバナラヌト思ヒマス

○三土委員 稅ヲ納メルノハ一ツト仰シヤイマスガ、一ツデハナイ、何千萬圓ト云フヤウニ違ッテ來ル、ヤリ方ニ依テ非常ニ激減ブ來シマス、私共ハ最初カラ申シマス通り、家屋稅ハ輕微ナモノガ宜カラウ、現在ノ府縣稅ノ負擔及ビ市町村稅ノ負擔ヲ基準ト致シマシテ、サウシテソレニ激變ヲ生ゼシメズシテ、寧ロ今マデヨリモ稅制整理ノ結果、社會政策的ニ現在ノ資産階級ノ人ノ負擔スルモノガ幾分力増加シテ、無産階級ノ人ノ負擔ハ輕減スルヤウニシナケ

レバナラヌ、其尺度ヲ以テ量ツテ見ルト、非常ニ今度ノ稅制整理ノ結果ニ相反スルト思ヒマス、ドコニ缺點ガアルカト云フト、家屋稅ガ多過ギルノデア、最初內務省ガ計畫サレタ程度ガ宜カツタト思ヒマス、之ヲ増加シテ所得稅ノ方ノ稅率ヲ抑ヘタ結果、今日斯ウ云フ結果ニナツタト思ヒマスガ、都會ニ於ケル有力ナル資産家ハ知識ガ發達シテ居リ、又團體的ノ力モ強イカラ、ドウシテモ政治界ガ動カサレルト思フ、私ハ何故內務省ガ最初ノ御計畫ヲ御變更ニナツタカト云フコトヲ考ヘマス、深ク遺憾ニ思フ、私ハ今ノ府縣稅タル家屋稅ヲ一千萬圓或ハ一千二、三百萬マデ、精々千五百萬圓程度ニ置キマシタナラバ、此戶數割ノ廢止、所得稅ノ増率ヲ差引致シマシテ、サウシテ大體各町村ニ於テキマシテ、資産家ト貧乏人ノ間ノ負擔力ニ應ジ、少ナクモ現在ノ負擔ノ割合ニ大變更ヲ來サヌト斯ウ見テ居ツタノデアリマス、私モ隨分長イ間、此地方稅ノ事ニ付キマシテハ多少注意ヲ致シテ居リマシタ、色々算盤ヲ探ッテ見タノデアリマス、ソコデ私ハ政府ガ彼ノ案ヲ公表サレマシタル時分ニ、是ハ一寸考ヘモノダ、所得稅ハドウシテモ整理シナケレバナラヌノデアアルケレドモ、此場合ニ於キマシテ急激ニ所得稅ヲ増スト云フコトハ、財界ニ打撃ヲ與ヘルカラ、ドウモ如何カト首ヲ捻ツタノデアリマス、ケレドモ然ラバ此

家屋稅ノ方ヲ先ヅ三千萬圓ト見ナケレバナリマセヌガ、是亦非常ニ膨脹スル傾向ヲ持ッテ居ル、サウ云フモノヲ設置致シマスルノハ餘程考ヘモノデアアル、寧ロ思切ッテ所得稅ノ稅率ヲモット高メテ、家屋稅ヲ輕微ノモノニシテ置イタ方ガ、現在ノ地方民ノ負擔ニ激變ヲ來サシメズ、サウシテ社會政策ノ中ノ稅制整理ノ精神ニモ合致スルト思ヒマス、然ルニ政府ガソコニ大變更ヲ加ヘタ結果ト致シマシテ、市町村ニ於テハ非社會政策的ノ負擔ニナツテ、恐ラクハ現內閣ニ對スル地方民ノ非難ハ此處ニ在ルト思フノデアリマス、丁度隣ニ居ラレマシタ森肇君ナドハ、最モ地方稅制ニ精通シテ居ラレマス、長崎縣デ九箇年間モ縣會ヲ經ラレテ、縣ノ豫算ニ就キマシテ始終調ベテ居ラレタ御方デアル、其森君ノ如キモ私ト全ク同感デアル、恐ラクハ內務省デ一番地方稅制ニ精通サレテ居ル潮君ナドハ、屬僚ノ悲サニ默ッテ居ルガ、大體私ト同ジ意見デアアル、唯天降リ的ニ、內閣デ斯ウ云フ風ニ決定シタカト云フノデ、唯諾々トシテ居ルガ、内心ハサウデアラウト思フ、政府ニ於キマシテハ此點ヲ御認ニナツテ、家屋稅ノヤウナ、初メテ置キマスモノハモット輕微ノモノカラ始メルト云フ風ニシタ方ガ宜イト思ヒマスガ、內務大臣ハサウ云フ考ハアリマセヌカ

○若槻國務大臣 所得稅附加稅ノ割合ト、家屋稅ノ制限ノ割合ニ就テハ、餘程慎重ナル調査ト考慮トヲ加ヘタノデアリマス、今三土君ノ仰セニナルヤウナコトモ十分ニ考ヘタノデアリマス、家屋稅ハ從前戶數割ノ中デ、建物ヲ標準トシテ取ッテ居ッタ位ノ稅額ニ止メヤウ、ソレハ即チ先刻仰セニナツタ一千二百萬圓乃至四百萬圓ノ範圍ノモノデアリマス、ソレニ止メヤウカ、或ハ家屋稅ノ附加稅ヲモウ少シ少クシテ、其代リ所得稅ノ附加稅ヲモウ少シ高クスルカ、或ハ所得稅ノ附加稅ヲモウ少シ少クシテ、其代リ家屋稅ノ制限ノ率ヲ、モ少シ高クスルカト云フコトハ十分ニ考ヘマシタノデ、是ハ唯好イ加減ニシテ編出シタノデモ何デモアリマセヌ、ソレハ人々各考ガアリマス、故ニ內務省ノ役人ノ意見トシテモ、個人々々ノ意見ガ全然一致シテ居ルカドウカ存ジマセヌガ、併シ決シテ三土君ガ仰シヤルヤウニ、天降リ的ニヤッタノデモ何デモナク、ソコハ非常ニ慎重ニ、考慮ト調査ヲ加ヘタノデアリマス、所得稅ヲ納ムテ居ル者トモ、必シモ資本ヲ蓄積シテ、其利益デノミ所得稅ヲ納メテ居ルノデナイコトハ三土君モ御承知ノ通りデアリマス、稅額ヲ多額ニ國庫ニ納ムル部分ハ、矢張勤勞所得ニ依テ得タル部分モ餘程アルト思フ、故ニ所得稅ノ賦課ヲ餘リニ高メルト云フト、資産ニ依テ生活シテ居ル人ノ苦シムヨリモ、寧ロ勤勞ニ依テ所得ヲ得テ居ル人ノ苦シ

ト、家屋稅ノ制限ノ割合ニ就テハ、餘程慎重ナル調査ト考慮トヲ加ヘタノデアリマス、今三土君ノ仰セニナルヤウナコトモ十分ニ考ヘタノデアリマス、家屋稅ハ從前戶數割ノ中デ、建物ヲ標準トシテ取ッテ居ッタ位ノ稅額ニ止メヤウ、ソレハ即チ先刻仰セニナツタ一千二百萬圓乃至四百萬圓ノ範圍ノモノデアリマス、ソレニ止メヤウカ、或ハ家屋稅ノ附加稅ヲモウ少シ少クシテ、其代リ所得稅ノ附加稅ヲモウ少シ高クスルカ、或ハ所得稅ノ附加稅ヲモウ少シ少クシテ、其代リ家屋稅ノ制限ノ率ヲ、モ少シ高クスルカト云フコトハ十分ニ考ヘマシタノデ、是ハ唯好イ加減ニシテ編出シタノデモ何デモアリマセヌ、ソレハ人々各考ガアリマス、故ニ內務省ノ役人ノ意見トシテモ、個人々々ノ意見ガ全然一致シテ居ルカドウカ存ジマセヌガ、併シ決シテ三土君ガ仰シヤルヤウニ、天降リ的ニヤッタノデモ何デモナク、ソコハ非常ニ慎重ニ、考慮ト調査ヲ加ヘタノデアリマス、所得稅ヲ納ムテ居ル者トモ、必シモ資本ヲ蓄積シテ、其利益デノミ所得稅ヲ納メテ居ルノデナイコトハ三土君モ御承知ノ通りデアリマス、稅額ヲ多額ニ國庫ニ納ムル部分ハ、矢張勤勞所得ニ依テ得タル部分モ餘程アルト思フ、故ニ所得稅ノ賦課ヲ餘リニ高メルト云フト、資産ニ依テ生活シテ居ル人ノ苦シムヨリモ、寧ロ勤勞ニ依テ所得ヲ得テ居ル人ノ苦シ

ミ方ガ酷クナル、是モ餘程考慮シナケ
レバナラヌト云フ點デ、無暗ニ所得稅
ノ附加稅ダケヲ高メル譯ニ行カヌ、ド
ノ程度マデ行ッたら宜イカト云ツテ、其
適當ナル程度ヲ考ヘル、サウスルト云
フト、府縣ノ財源ガ此ニナイ、ソレナラ
何處カラ持ッテ來ルカト云フコトカラ
按排ヲシテ、結局家屋稅デ今御話ニナ
ルヤウニ三千萬圓程度ノ所ヲ取ル位ノ
制限率ヲ設ケたら宜イ、比例ヲ取ッテ見
ルトソレデ大體不公平ハナイ、先ヅ是
ナリ擔稅力ニ應ジタモノニナル、サウ
シテ餘リニ勸勞者モ苦シマナイヤウ適
當ナ率ヲ設ケタ結果、納稅者ノ個人ヲ
主體ニシテ、國稅、地方稅總テノモノヲ
考ヘテ行ケバ、是ナラ大體擔稅力ニ應
ジタモノニナル、斯ウ見テ今日ノヤウ
ナ稅整案ヲ拵ヘタノデアリマス、家屋
稅ヲ一ツ引離シテ、サウシテ所得稅ト
家屋稅トノミヲ兩ニ相對セシメ、此方
デ増シタモノハ、六百萬圓此方デ減ス
ルモノハ斯ウナル、然ラバ富者ノ負擔
ガ之ニ依テ減ジ、貧者ノ負擔ガ重クナ
テ社會政策的デナイヤウニ御覽ニナル
ト云フト、ソコゲケデハ若干其傾向ハ
アルカモ知レマセヌガ、併シソレナラ
バト云ツテ所得稅附加稅ヲ無暗ニ高メ
ルト云フト、只今申上ゲルガ如ク所得
稅ヲ納メル者ハ、唯資産ニ依テ生活シ
テ居ル者ダケデハナイ、勤勞ニ依テ所得
ヲ得テ居ル人ガアル、サウ云フ人ニ取
テハ非常ニ負擔ノ増加ニナル、ソレモ

亦考ヘテヤラナケレバナラヌト云フヤ
ウナ、全般ノ關係ヲ考ヘテ致シマシタ
ノデアリマス、此御意見ノ相反スルコ
トハ已ムヲ得マセヌガ、政府デハ此改
正ヲ以テ擔稅力ニ相應ジタ改正ト心得
テ居ル次第デアリマス

起ッテモソレガ最モ公平ナル負擔デア
ル、斯ウ見テ今回ハ整理ヲ致シテ居ル
ノデアリマス

○三土委員 ソコ迄御聞キスレバ私ノ
質問ハ打切りマス

○元田委員長 次ハ武藤金吉君

○武藤金吉君 私ハ主トシテ大藏大臣
ニ質問ヲ試ミタイト思ヒマス、大藏大
臣ノ出席ヲ望ミマス——大抵御答辯ヲ
得マシタカラ要領ヲ得ナイモノダケニ
三ノ點ニ付テ質問ヲ致シマス、先ヅ資
本利子稅ニ付テ御尋ヲ致シタイ、資本
利子稅ノ疑問ノ各項ニ付テ、私ノ質疑
ニ對シテ大藏大臣ハ答ヘラレテ居リマ
スガ、更ニ私ハマダ此疑ヲ解クコトガ
出來マセヌ、資本利子稅ノ立法ノ目的
ハ、利子ノ取得者ニ課稅ヲスルト云フ
コトハ申ス迄モナク答ヘラレテ居リマ
スガ、然ルニモ拘ラズ此資本利子稅ハ
内地ニ於テ其收益ノ源泉ヲ持ッテ居ル
ニ付テ、外國デ之ヲ支拂フ者ニ取ラヌ
ト云フコトハ、ドウモ其意ヲ得ナイト
思フノデアリマス、是ハ何カ外國ノ公
債ノ關係ニデモ關シテ取ルコトガ出來
ナイ事情ノ爲ニ、斯様ナ規定ヲ致サレ
タノデアアルカドウカ、又公債ニ拘ラザ
ルトスルモ、日本内地デ此收益ノ源泉
ヲ持ッテ居ルモノニ對シテ、支那露西亞
デ取ルコトガ出來ナイト云フコトハ、
ドウモ其意ヲ得ナイト思フノデアリマ
スガ、此點ニ付テ分リ易クモウ一應御
説明ヲ願ヒタイ、又物品ノ貸付ノ利益

マスカ
○若槻國務大臣 先程申上ゲマシタ通
リ、總額ヲ押ヘテアルノデアリマス、總
額ヲ變更スレバ兎ニ角、總額ガ押ヘテ
アル、而シテ其中ノ稅種ニ變更ヲ加ヘ
タノデアリマスカラ、其ノ稅種ノ變更
ニ依テ起ルダケノ負擔ノ異動ハ、是ハ起ル
ノデアリマス、其異動ノ起ル内ニ、所得
稅ノ附加稅デ取ル場合ト、ソレカラ又
一方家屋稅デ取ル場合トハドウナルカ
ト云フト、ソレハ所得稅ノ附加稅デ取
ル方ガ、富者ノ方ニ餘計ニ負擔ガ行ッ
テ貧者ニ少イト云フコトニナル、家屋
稅ニ於テハ、其間ニ固ヨリ階段ハアル
ケレドモ、若干ノ階段ガ近寄ルト云フ
コトハ三土君ノ觀察ノ通りデアリマス
併シ今日ハ戶數割ノ上ニ於テハ、頗ル
不公平デアルト言ハレテ居リマス、ソ
レデアルカラ、其中カラ幾ラカ有形的
ノ據ルベキモノヲ引抜イテ、之ヲ物稅
ニ出ス、家屋稅ニ出シテ、稍權衡ヲ得セ
シムル、サウシテ一方有形的標準ヲ除
カレタ後ノモノデ、見計ヒデ戶數割ヲ
掛ケル其點デハ貧富ノ見計ガ出來ル、
其結果ガ負擔ノ上ニハ最モ公平デア
ルト見テ居リマス、併シサウヤレバ今
マデ例ヘバ或村デ一番金持ト言ハレル
人ノ負擔ガ、從前ヨリモ若干減ジテ、今
マデ或村デ一番貧乏人ト云ハレル者ノ
負擔ガ、從前ヨリモ少シ増スト云フ結
果ガ起リハセヌカト云フ御話、或ハサ
ウ云フコトガ起ルカモ知レマセヌガ、

○三土委員 今ハ此所得稅ト家屋稅ヲ
比較シテ云々ト申シタノデアリマセ
ヌ、先刻モ分解シテ申上ゲタ、各市町村
稅ノ改廢ノ種類ヲ計算シ、府縣稅ニ於
キマシテモ改廢ノ種類ヲ計算シテ、總
體的ニ地方稅ノ範圍ニ於テ申シタノデ
アリマス、家屋稅ニ増シ、所得稅ニ増ス
サウシテ現在ノ戶數割ガナクナルト云
フ其關係ノ差引ダケヲ申スノデアアリ
マセヌ、全體カラ各稅種ニ就テ差引ヲ
付ケテ見マス、善イカ惡イカハ別問
題デアリマスガ、現在府縣費ヲ負擔シ
テ居ル府縣民、現在各町村ニ於テ町村
費ヲ負擔シテ居ル町村民ノ現狀ヨリ見
テ、現狀ヨリモ此改廢ノ結果總體的ニ
貧者ノ負擔ガ重クナッテ、富者ノ負擔ガ
輕クナル、是ハ當然免レヌコトダラウ
ト思フ、善イカ惡イカハ別問題デアリ
マス、今日マデハサウデアリマセヌ、只
今マデノ——現在ヲ押ヘマス、稅制
整理ノ結果トシテ、現在ヨリモ府縣費
ノ負擔ニ於テ、竝ニ町村費ノ負擔ニ於
テ、兩方合スレバ尙更デアリマスガ、富
者ノ負擔ガ輕減サレテ、貧者ノ負擔ガ
増スト云フコトハ、是ハ爭ハレヌ事實
デゴザイマス、ソレダケハ御認ニナリ

第五類第一號 所得稅法中改正法律案(政府提出)外二十七件委員會議錄 第十三回 大正十五年二月十五日

トノ均衡ヲドウスルト云フコトヲ更ニ御尋ヲシタイ、又金ヲ貸ス代リニ株券ヲ貸シテ、此貸貸料ヲ取ル場合ニハ、此利子ノ取得者ニ課稅ヲスルノデアアルカドウカ、之モ伺ッテ置キタイ、ソレカラ債券ノ低價發行割引ニ付テハ既ニ御答ガアリマシタガ、ドウモ此割引料ヲ利子ト見ルカドウカト云フコトハ爭ニナリマスガ、此資本利子稅ヲ實行スルニ付テハ、此證券ノ低價發行ノ割引料ヲ利子ト之ヲ見ルト云フコトハ、此資本利子稅ノ實行ヲ期スル點ニ於テハ重大ナ關係ガアルト思フノデアリマスガ、先頃御答ニナッテ御答辯ニ於テハマダ満足スルコトガ出來マセヌガ、事實是ハ會社ニ於テモ個人ニ於テモ之ヲ看過スル場合ニハ大ナル脫稅ガ行ハレテ、此資本利子稅ト云フモノハ之ガ爲ニ其効力ヲ失フト云フヤウナ虞ハナイカト思フノデアリマスガ、モウ一應此點ニ付テ大藏大臣ノ説明ヲ伺ヒマス、ソレカラ更ニ細カイヤウデアリマシタガ、産業債券ト玆ニ書イテアリマスガ、公債社債産業債券ト書イテアリマスガ、産業債券ト云フ範圍ハ如何ナ範圍ヲ指スノデアアルカ、餘リ法律トシテハ私共承ラヌヤウデアリマスガ、産業債券ノ範圍ハドノ程度デアアルカト云フコトヲ明確ニ御示ニ預リタイ、ソレカラ更ニ第三種所得稅者ニ限リ以下ノ者ニ課稅スルト云フ理由デ、此前ニモ承ッタノデアリマスガ、ドウモ此前ノ御辯明ニ依

テハ吾々承服スルコトガ出來マセヌガ、地租ト營業稅トノ關係ヲ以テシテモ、此制限ト云フモノハ、ドウシテモ不當ダト思ヒマスガ、政府當局ニ於キマシテハ、地租、營業稅トノ關係ヲ以テシテモ、是ガ宜シイト御認ニナリマスルカ、是モ一點承ッテ置キタイ、更ニ資本利子稅ノ稅率ハ資本利子ノ金額ノ百分ノ二トナッテ居リマスガ、公債ノ利子ト社債ノ利子トハ、大體第二種所得稅ニ於テハ各稅率ヲ異ニシテ居リマス、是其擔稅力ノ相違ノアルコト勿論デアレマセヌガ、何故此資本利子稅ニ於テハ公債ノ利子ト社債ノ利子ト、稅率ニ於テ同一主義ニ依ラナカッタモノデアアルカ、所得稅ト同一主義ニ依ラナカッタ理由ハ何處ニアルノデアアルカ、先ヅ以テ之ヲ承ッテ置キマス

○濱口國務大臣 御質問ハ大分事項ガ多カッタヤウデアリマス、私、大抵書留メマシタケレドモ、中ニ脫落ノ點ガアラウト思ヒマス、尙ホ洩レマシタ點ニ付テハ、政府委員ヨリ御答ヘスルコトニ致シマス、第一ノ御質問ハ、資本利子稅ノ課稅物件ヲ、内地ニ於テ支拂ヲ受クルモノニ限ッテ、外國ニ於テ若クハ此法律ノ施行地外ニ於テ支拂ヲ受クル所ノ資本利子ニ課稅シナイ理由ハドウデアアルカ、斯ウ云フ御質問デアアル、御承知ノ通り、今日ノ地租ニ致シマシテモ、又此度提案致シマシタ營業收益稅ニ付テ

モ、内地ノ分ニ限ッテアルノデアリマス、此權衡カラ申シマシテモ、資本利子稅ヲ内地ニ於テ支拂ヲ受クル分ニ限ッテモ差支アルマイト考ヘタノガ一ツノ理由デアリマス、更ニ一ツノ理由ハ、成程海外ニ於テ支拂ヲ受ケルモノニ課稅スルコトハ差支ナイデハナイカト云フ議論ハ確ニ是ハ一ツノ理由ガアルト思ヒマスガ、段々研究シタ結果、多少ノ疑問ヲ持ッテ居リマス、果シテソレデ宜シイカ、或ハ之ヲ避ケタ方宜クハナイカト云フコトニ付テハ、多少ノ疑問モアリマス、又之ヲ實行スル上ニ付テモ不便デアルト云フ心配モアリマスルシ、殊ニ現在ノ第二種ノ所得ニ於ケル現行ノ扱ヒカラ比較致シマシテモ、内地ニ於テ支拂ヲ受ケルモノヲ限ッタ方ガ相當デアルト認メマシテ、海外ニ於ケル支拂ニハ課稅シナイコトニ致シマシタ、殊ニ此試ミハ初メテノ試ミデ、新シイ課稅デアリマスガ故ニ、成ベク其扱ヒヲ簡單ニ致シ、又納稅者ノ苦痛ヲ少カラシムル、不便ヲ除クト云フコトノ爲ニ、右様ニ扱ッタ次第デアリマス、第二ノ御質問ハ手形ノ割引料、公債ノ割引料ニモ課稅スルノガ相當ト認メルガ、之ニハ課稅シナイコトニシタノハドウカト云フ御質問デアリマシタ、ソレニ付キマシテハ、先日モ御答致シマシタ通り、實行上割引料ニ課稅スルコトハ種々ノ不便モアルト云フノガ一ツノ理由デアリマスルシ、又現在ノ所、第

二種ノ所得稅ハ、割引料ニハ課稅シナイコトニナッテ居リマスケレドモ、サレバトテ別ニ脫稅ノ弊害ヲ認メテ居ルト云フ程度ニモ達シテ居リマセヌノデ、旁々割引料ニハ課稅シナイト云フコトニ致シテ置キマシタガ、將來此法律施行ノ結果、脫稅ノ弊ガ盛ンニ起ルト云フ如キコトヲ生ジマシタ場合ニハ、又其實績ニ照シテ相當ノ考慮ヲ致シタイト思ッテ居リマス、第三ノ理由ハ割引料ヲ爲スモノハ、多クハ法人デアラウト思ヒマス、其法人ノ割引料ニ課稅致シマシテモ、結局ソレハ營業收益稅カラ控除サレルコトニナリマシテ、實際上ニ於テハ課稅シナイト同一ノ結果トナル、ソレ等ノ理由ニ依テ、割引料ニハ課稅シナイコトニ致シテ置キマシタ、尙ホ御意見ノ點モアリマス、又施行ノ實績ニ鑑ミテ他日其缺點ニ付キマシテ、ソレヲ補正スルニ付キマシテハ、相當ノ考慮ヲ致ス積リデアリマス、ソレカラ産業債券ニ付テ御質問デアリマシタガ、是ハ産業組合中央金庫ノ發行スル債券デアリマス、別ニ廣イ意味デアリマセヌ、其場合ニ限ッテ居リマス、其他ノコトモアリマシタガ、私、一寸記憶シテ居リマセヌカラ、政府委員カラ御答スルコトニ致シマス

○武藤委員 大切ノ點ガ脱ケテ居リマスガ、物品貸付ノ所得トノ權衡ハ考慮シナカッタカドウカト云フコト、ソレカラ有價證券ヲ貸付ケテ、其貸貸料ヲ取ッ

タ時ニハドウスルカ、之ヲ承リマス

○黒田政府委員 只今御質問ノ點ハ、物品貸付ノ所得ニ付テモ、資本利子税ヲ課シタラ宜イデハナイカト云フ御趣意ノヤウニ承リマシタガ、物品ノ貸付ニ付テハ、大體ニ於テ物品貸付業ト云フ營業ニナリマス、營業デナイモノハ非常ニ少イノデアリマシテ、是ハ調査モ困難デアルノデ、省キマシタ次第デアリマス、尙ホ先程大藏大臣ガ御答ヲ殘サレタ點ニ付テ申上ゲマスガ、其一ツハ第三種ノ所得税ノ納稅義務アルモノニ、何故貸金ノ利子ト限ツカト云フ御話デアリマスガ、是モ所得税ヲ納マセヌモノモ、貸金ヲ一々調査スルコトハ非常ニ實行上困難デアルガ爲ニ、是ハ省キマシタ、モウ一ツハ税率ヲ第二種ノ所得ニ於テハ、公債、社債ト區別シテ居ルニ拘ラズ、資本利子ニ於テ、ソレ等ノ點ヲ何故考慮シナカッタカト云フ御尋デアリマシタガ、是ハ資本利子税ハ、補完税トシテ、別箇ニ設定シタモノデアルカラ、是ハ國債モ公債モ、社債モ、貸金ノ利子モ總テ一率ニ負擔スルコトガ適當デアルト云フ風ニ、人ヲ見マセズ、唯其所得ノミヲ見マシテ、此目的ヲ達スルノデアリマスカラ、一率ニスルコトガ適當デアルト考ヘルノデアリマス

○武藤委員 只今ノ御答辯ニ依リマスルト、物品ノ貸付ハ營業税ノ方ニ這入ルカラト云フ仰セデアリマスガ、私共

見ル所ヲ以テスルト、サウデハナイ、明ニ貸付信託ノ利益ト云フコトヲ、玆ニ規定サレテアルノデアリマス、貸付信託ノ中ニハ金ノ代リニ有價證券ヲ貸付ケル仕事モ這入ッテ居ル、又金額ニ相當スル物品ヲ貸付ケルコトモ、玆ニ這入ッテ居ル、之ヲ明カニシテ置キマセヌケレバ此資本利子税ト云フモノハ、其目的ヲ達スルコトハ困難ダト思フノデアリマス、ココ迄考慮シナカッタノデアルカ、考慮シタガ範圍ガ廣イカラ、ソコ迄及バナカッタノデアルト承知シテ宜シウゴザイマスガ、モウ一應承リタイ

○黒田政府委員 只今貸付信託ノ如ク物品ヲ貸付ケルモノニ對シテ課税シテ居ルデハナイカト云フ御話デアリマシタガ、貸付信託ハ所得税法ノ貸付信託ト同ジデアリマシテ、信託會社ニ引受ケタル金錢信託ニシテト云フノ借金ノ信託ヲ受ケマシテ、其金錢ヲ運用シマス場合ニ、其金錢ヲ貸付ケタ金錢貸付ノ場合デアリマスカラ、物品ノ貸付ハ其場合ニ於テモ特ニ物品ノ貸付ト云フモノト見テ居ル譯デハナイノデアリマス、左様御承知ヲ願ヒマス

○武藤委員 大變奇怪ノ答辯ヲ承ル、金錢ニ代用スル有價證券ハ金錢代用デ、各市場ニ於テハ金錢ニ代用サレテ居ルノデアリマス、現ニ取引所ノ如キハ金錢ト同様ニ有價證券ト云フモノハ取扱ハレテ居ルノデアリマス、株券デアルカラ物品デアル、金錢デナイ、通貨

デナイト云フコトハ出來マセウガ、有價證券ハ何等金トハ異ナラナイ、此貸付ノ資本利子ヲ考慮シナイト云フコトハ、此法案ノ一大缺點デハナイカト私共ハ信ジテ居ル金錢ダケガ貸付ダト申サレマスクレドモ、各市場ニ於キマシテハ、有價證券ハ現金ト同様ニ、公債、有價證券、金錢ハ、同様ニ代用サレテ居ルノデアリマス、此點ヲ考慮サレタノデアリマスガ、及バナカッタノデアルカ、明白ニ承ッテ置キタイ

○黒田政府委員 御話ノ通り有價證券ガ殆ド金錢同様ニ取扱ハル場合ガアリマスコトハ、御話通りデアラウト思ヒマス、併シ此貸付信託ヲ例ニ御取リナリマシタカラ、實ハ貸付信託ニ付テ申上ゲタノデアリマスガ、是ハ只今申上ゲマセヌデモ御承知ノ通りデアリマスルガ、貸付信託ノ場合ハ、是ハ信託業法デ特ニ金錢信託ト云フ言葉ヲ使ッテ限定シテ居リマスカラ、是ハ私ハ先程申上ゲマシタコトハ誤ッテ居ラヌト思ッテ居リマス、然ラバ有價證券其他物品ヲ貸付ケルト云フノガアルデハナイカト云フ御話デアリマス、ソレハ勿論アリマスコトハ認メルノデアリマス

○武藤委員 只今ノ御答辯ニ依リマスルト、物品ノ貸付ハ營業税ノ方ニ這入ルカラト云フ仰セデアリマスガ、私共

相當ナ高ニ上ッテ居ルノデアリマスカラ、是ハドウシテモ押ヘナクテハイカスト云フ考ヘデ之ヲ押ヘタノデアリマシテ、其他ノ物品等ニ付キマシテハ、是ハ調査ガ相當困難デモアリマスルシ、貸金ノ方ハ色々登記所等ニ依テ調べマシタリナドシマシテ、十分調べテ居リマスモノデアリマスカラ、相當高ニ上ッテ居リマスカラ、玆ニ掲ゲマシタノデアリマスルガ、有價證券等ハ調査モ困難デアリマスルシ、ソレ故ニ特ニ之ヲ除キマシタ次第デアリマス

○武藤委員 此點ハ尙ホ會得ガ出來マセヌクレドモ是デ止メマス、尙ホ大藏大臣ニ承ラネバナラヌノハ、内地ニ收益源泉ヲ持ッテ居ル者ガ、外國ニ行クカラト言ッテ之ニ課税ヲシナイト云フノハ、ドウモ資本利子税ノ此目的ニ斷ジテ副ハナイト思フノデアリマスルガ、ドウシテ是ガ出來ナカッタカト云フコトハ答辯ニ盡サレテ居リマセヌガ、政府ハ其收益源泉ノ内地ニ在ルモノヲドウシテ是ダケヲ除イタト云フ理由ヲ、尙ホ分ルヤウニ承ッテ置キタイノデアリマス

○黒田政府委員 ソレデハ私カラ先程ノ大藏大臣ノ説明ヲ補足シテ申シマスガ、今日第二種ノ所得税ガ、御承知ノ通り此施行地内ニ於テ仕拂スル者ニ限ッテ居ルノデアリマシテ、第二種ノ仕拂ヲ致シマスル際ニ、資本利子モ併セテ取ルヤウニ致スノガ今度ノ立前デア

リマス、ソレデ施行地外ニ於キマシテハ、仕拂ラシマスルトキニ第二種所得稅ハ取ラナイノデアリマスルカラ、資本利子稅モ取ラナイコトニスルノガ、取扱上ノ方カラ見マシテモ便利デアアルデアリマス、是ハ取扱ノ問題ダケデアリマスルガ、其外ニ於キマシテ、施行地外ニ於キマスル場合ニ於テ課稅ヲスルトシマス、朝鮮、臺灣ハ勿論ノコト更ニ進ンデ或ハ支那或ハ外國、歐米ト云フ處迄ズット行カナケレバ徹底ヲシナイノデアリマス、是等ニ付キマシテハ先程大藏大臣ノ述べラレマシタヤウニ、立法シマスル上ニ於テ、又徵收ヲシマスル上ニ於テ、尙ホ考究ヲ要スルダラウト思ヒマス、ソレ故ニ、今回ハ第二種所得稅ト步調ヲ合セル程度ニ止メテ居ルノデアリマス

ナッテ居ルノデアリマスルカ、左様承知シテ宜シウゴザイマスカ

○濱口大藏大臣 是ハ明瞭ニ御答シテ置ク必要ガアルト思ヒマス、割引料ニハ御承知ノ通り現在ノ第二種所得稅ヲ課シテ居リマセヌ、課シテ居リマセヌガ、別ニ脫稅ノ弊害ヲ今日認メテ居リマセヌ、隨テ資本利子稅ニ付テ割引料ニ對シテ課稅ヲシナイト云フコトニ致シマシテモ、脫稅ノ弊害ヲ生ズルコトハナイト考ヘテ居リマス、併ナガラ若シ萬一武藤君ノ御疑ヒニナルヤウナコトガアルト致シマシタナラバ、其實蹟ニ鑑ミテ他日考慮致シタイト斯ウ云フコトヲ申上ゲタノデアリマス

得ハ私ハ政府當局バカリヲ責メルノデアアリマセヌ、所得稅ノ中デ最モ困難ナル稅率ヲ定メルト云フコトガ山林所得ニアルノデス、所得稅ガ創設セラレテ以來今日マデ、常ニ問題ニナッテ居リマスモノハ山林所得デアアルノデアリマス、然ルニ此度ノ山林所得ノ改正ニ付テ、其所得ヲ五分トシタル金額ニ對シ、其稅額ヲ適用シテ算出シタル金額ヲ五倍シタルモノヲ以テ其稅額トスル、此五分ト云フ割出ノ根據、之ヲ御決定ニナッタ根據ノ理由ト、數字ヲ承ッテカラ更ニ質問ヲ致シマス

乘ジマシテ、サウシテ其年ニ對シテ其年ノ所得ニ綜合スルトカ云フ方法デ、課稅スルコトモ一ツノ良イ方法デアラウト思ヒマスルガ、何分ニモ地方ニ依リ、又樹種ニ依リマシテ、伐採期モ非常ニ違フ

○武藤委員 ドウモ何度御尋ヲ致シマシテモ要領ヲ得マセヌカラ、之ニ止メマスルガ、尙ホ大藏大臣ニ此資本利子稅ヲ設定ニ付テ、只今私ノ質問中ニ證券ノ低價發行割引料ノ利子ヲドウ見ルカト云フ點ニ付テハ、脫稅、通稅ノ虞ガナイ譯デハナイ、今ノ所デハナイガ若シアッタナラバ相當ノ方法ヲ講ズル積リデアアル、考慮中デアアル、多少ノ不備モ認メル、缺點モ認メルト云フ御說ノヤウニ諒承シテ居リマスガ、此資本利子稅ハ初テノ試ミデアアルカラ、十分ニハ行カナイ、缺點ガアル、不備デアルト云フコトヲ、大藏大臣ニ於テモ御自覺ニ

○武藤委員 大藏大臣ノ御覽ニナルヤウニ脫稅、通稅ガナイト現在ニ於テモ御認ニナッテ居ル、將來モアルマイト云フ見方ナラバ洵ニ御目出度コトデアリマス、大藏大臣ハ左様ニ御覽ニナッテ居ルカモ知レマセヌガ、吾々ハ此點ニ於キマシテハ、現在ニ於テモ只檢舉サレナイダケデアッテ、各處ニ於テ大ナル脫稅通稅ガアルト認メル者デアリマス、又此法律ニ於テハソレガ出來得ル不備ガアルト云フコトヲ具ニ感ズル者デアリマス、是カラ先ハ議論致シマセヌガ、資本利子稅ハ是デ打切りマス、次ハ所得稅ノ中ノ山林所得ニ付テ御尋ヲ致シマス、是モ本會議ニ於テ質問ヲ致シマシタ中ニ答辯ガサレテ居リマスルケレドモ、更ニ要領ヲ得テ居ナイ、山林ノ所

○黑田政府委員 之ニ付キマシテハ過日大藏大臣カラ一應御説明ヲ申上ゲタノデアリマスガ、私カラ尙ホ少シク詳細ニ御説明申上ゲタイト思ヒマス、山林所得ニ付キマシテ適當ナル稅率ヲ盛リ、課稅致シマスルコトガ非常ニ困難ナモノデアアルト云フコトハ、武藤サンモ御認ノ通りデアリマス、山林所得ガ十數年若クハ數十年ノ所得ガ蓄積シテ、其一時ニ所得セララルモノニ對シテ課稅致シマスノデ、適當ナル稅率ヲ設ケマスルコトハ非常ニ困難デアリマスルガ、然ラバ之ヲ適當ニ致シマスルニハ、今日現行ノ如ク唯他ノ所得ト分ケテ累進稅ヲ適用スルダケデハ不十分デアアルト考ヘテ居リマス、然ラバドウ云フコトヲスルカト云フコトニ付キマシテ、是ガ若シ何年デ伐ルト云フコトガ一定致シテ居リマスナラバ、其年デ

又同シ木デモ樹齡ニ依テ年限ガ非常ニ違フ、或ハ之ヲ地方々々ニ於キマシテ其地方ノ樹種ニ依テ、凡ソ伐ル年齡ニ依テ之ヲ割増シテ適用シタラドウカト云フコトモ考ヘタノデアリマスガ、是非非常ニ課稅上複雑デアリマス、一々其地方ニ於キマシテモ木ヲ伐リマス數ヲソレゾレノ木ニ付テ調ベナケレバナラヌト云フ風ナ非常ナ不便ガアルノデアリマスカラ、大體ニ於テ之ヲ區分スル外ナイ、然ラバ何年デ區分スルカト申シマス、之ニ付キマシテハ學者ノ間ニ於キマシテモ、亦專門家ノ間ニ於キマシテモ、色々說ガアル、或ハ五分、或ハ十分、或ハ二十五分、或ハ三十分ニスル方ガ宜イトカ、色々說ガアリマスガ、併ナガラ之ヲ相當細分致シマスレバ、各年度ノ他ノ所得ト併セテ綜合稅ニスルト云フコトニ致サナケレバナラヌノデアリマス、ソレモ非常ニ年限ヲ求メルコトガ困難デアリマス、然ラバ適當ニ區分シテ綜合スルト云フコトハ或ハ理想カモ知レマセヌガ、適當ノ區分ト云フコトガ困難デアリマスナラバ、其

湯淺委員長代理著席

「元田委員長、委員長席ヲ退キ、湯淺委員長代理著席」

區分ヲ尙ホ少シク大キク致シマシテ、サウシテ之ヲ別ニ課税スルト云フコトニスルノガ、實際上ニ於テ適切デハナカラウカト云フヤウナ考カラ致シマシテ、綜合シナイト云フ點ト、之ヲ區分スルト云フ點ト、兩方カラ考ヘマシテ大體之ヲ五分位ニ致シマシテ、其五分シタモノヲ以テ他ノ所得ト合算ラセズ、其五分シタモノニ對シテ累進稅ヲ適用シテ、之ヲ五年間ノモノトシテ、詰リ五年間ノ分ヲ一遍ノ分ト見做シテ五倍スルト云フコトガ、大局カラ見マシテ大體其方ガ寧ロ適當デハナカラウカト云フ點カラ參ッタノデアリマス、五分ニシタノハ數字上ニ根據ガアルト云フ譯デハナイノデアリマス

○武藤委員 尙一ツノ別ケマシテ御尋ヲ致シマスルガ、只今ノ御辯明ニ依リマスレバ、大體ニ於キマシテト云フノデ、何等根據ガナイト云フコトデアリマスルガ、苟モドシナ困難ナ課稅デアリマシテモ、法律ヲ定メテ國家ガ國民ニ臨ムト云フノニ、目分量ヤ大體デ法律ヲ拵ヘルト云フ程危險ナモノハナイト思フ、ソレニ付キマシテ殊ニ此山林所得ト云フモノハ、多年問題ニナッテ居ッテ色々主張モ議論モアリマス、又學者ノ說モアリマス、然ルニ今回五分シタト云フ根據ハ何ニ依ルカト云フト、大體ノ目分量デ之ヲアルト云フコトハ、正直ニシテ小心翼々タル濱口大藏大臣トシテ頗ル放膽的ノ御處置デハ

ナイカト私ハ思フ、何故ナラバ山林所得ハ立竹木ノ伐採期ダケヲ見レバ、大體ノ目分量ニ五分シタモノデモ宜イカモ知レマセヌガ、山林ノ所得ト云フモノハ必シモ立竹木ノ伐採年限バカリヲ基調トスルモノデハナカラウト私ハ思フ、年々歳々細カイヤウナコトデアリマスケレドモ、本會議デモ細カイ事ヲ言ッタト云フテ非難サレタ方モアルサウデスガ、茸ニシテモ筍ニシテモ年々收入ガ殖エル、其他ノ山林所得ニ付テハ年々立竹木ノ副收物ガアル、斯ウ云フ點マデ見ナケレバナラヌ、國家ノ山林ト云フモノノ收入モ亦田畑ト共ニ非常ニ重大ナモノデアアル、然ルニ是ハ課稅スルニ稅制ノ事ヲ餘リ御熱心デナイカ知ラスガ、山ノ事ハ餘リ分ラヌト云フノデ、目分量デ大體五分シタモノヲ課スルト云フコトデアルカラ、何年經ッテモ解決ガ出來ナイ、必シモ濱口君ダケヲ責メルノデハアリマセヌ、歷代ノ大藏省ニハ書物ハ能ク御覽ニナッテモ、山ナドハ歩イタコトガナイ連中バカリ居ルカラ、何時ニナッテモ解決ガ着カナイ、此改正ニ於テモ又好イ加減ナ事ヲヤッテ居ルト云フヨリ他ニ批評ガ出來ナイ位デアアル、私共ハ此山林ノ所得ノ立テ方ニ付キマシテハ、目分量ノ大體五分シタモノデ行カナクテモ行ケヤウト思フ、此點ニ付テハドウ考慮シテ居ルカト云フコトヲ分リ易ク一ツ二ツ聞イテ見ヤウト思フ、立竹木ノ伐採所得

ニ付テハ、其必要ガ存スルガ故ニ土地ト共ニ山林ヲ讓渡シタルニ依ル所得、固有ノ所得以外ノモノ、之ニ對シテドウ考慮シタカ、第二ハ山林ニ生ズル立竹木以外ノ所得ニ付テドウ云フ風ノ考慮ヲ拂ッタカ、第三ハ立竹木ニ付テ土地ノ利用カラ價ヲ生ズル年期、此年期ヲドウ云フ風ニ年限ヲ決メタガ宜シイト云フコトヲ考慮シタカ、シナイカ、此位ノコトハ此稅法ヲ決メルニ付キマシテハ御研究御考慮ガアッタコトと思フノデアリマスカラ、承ッテ置キタイ

○黒田政府委員 大藏省ノ者ガ山林ヲ少シモ知ラナイデ稅率ヲ決メルカラ、コンナコトニナルノダト云フ御言葉ガアリマシタガ、之ニ付キマシテハ農商務省ノ山林局トモ協議ヲ致シマシテ、決定シテ居ルノデアリマス、左様御承知ヲ願ヒタウゴザイマス、ソレカラ第一ノ點ニ付キマシテハ一寸私諒解出來ナカッタ點ガアリマスノデ、或ハ御尋ニ外レテ居ルカモ知レマセヌガ、土地ト共ニ山林ヲ買ッテ、サウシテ今度其立木ヲ伐採シテ所得シタモノノ場合ハ、ドウ考ヘタカト云フ御尋ノヤウニ承リマシタガ、左様デゴザイマス

○武藤委員 左様デス
○黒田政府委員 ソレニ付キマシテハ是ハ先ヅ所得ヲ計算致シマス場合ニ於キマシテ、其山林ヲ伐採致シマシタ所得カラ、以前ノ土地ト共ニ山林ヲ貫ヒマシタ場合ニ於テ——土地ハ一ツノ財

產ノ取得デアリマスガ、山林ノ代價トシテ前ノ所得者ニドレ位拂ッタカト云フコトヲ調査致シマシテ、ソレヲ差引イテサウシテ買ッタ後ノ年限ニ應ジマシテ更ニ自ラ投ジタ所ノ經費ヲ差引イテ、其人ノ其年ノ山林所得ト看做シテ、之ニ此稅法ヲ適用スルコトニナルノデアリマス、第二ノ御尋ハ山林ノ立木以外ノ色々ナモノノ所得ガアルダラウガ、ソレヲ考慮シタカト云フ御話デゴザイマスガ、是ハ勿論考慮致シタノデアリマス、現在ノ所得稅ノ取扱ニ於キマシテモ、是ハ常ニ左様ニ取扱ッテ居ルモノデアリマスカラ、能ク承知致シテ居リマスガ、勿論木ノ外ニ竹林モアリマスシ、是等ハ多少材木トハ違ヒマスガ、併シ是等モ現行法ニ於テ同ジ様ニ山林トナッテ居リマスモノハ山林所得トシテ居リマス、又下草トカ例ニ御舉ゲニナリマシタヤウナ茸、筍ノ如キモノニ付キマシテモ、之ヲ山林トシテ居リマス場合ニ於テハ、山林ノ所得トシテ他ノ所得ト區分シテ適用シテ居ルノデアリマス、是ハ左様ナモノハ毎年アルノデアアルカラ、別ニ見テモ宜イジヤナイカト云フ御話デアリマスガ、一應御尤少イモノデアリマシテ、特ニ是ダケ分ケル迄モナク、大體山林ノ所得トシテ普通ノ所得ト分ケテ適用シテモ差支ナイモノト云フ風ニ考ヘテ、今日迄モ取扱ッテ居ルノデアリマスシ、今後モ矢張

其通りニ取扱ヒタイと思フノデアリマス、ソレカラ第三ノ御尋モ能ク諒解致シマセヌデシタガ、恐入マスガモウ一遍……

○武藤委員 立竹木ニ付テハ其利用ニ價ヲ生ズル年期——山林ノ年期ヲ十年トカ二十年トカ見ル考慮ハ拂ハナカッタカ、是ハ竹ノ方ハ除ケテ、主トシテ立木ノ方ハ十年乃至二十年、三十年ト云フヤウナ年期ノ計算ヲ見ナカッタカト云フノデス

○黒田政府委員 是ハ樹種ニ依リマシテ何年位デ伐採ヲシテ、又更ニ植替ヘルト云フ風ナコトヲ考慮シナカッタカト云フ御意思ト解釋致シマスガ、先程モ一寸申上ゲマシタヤウニ、樹種ニ依リマシテ、又地方ノ慣習ニ依リマシテ、非常ニ區々ニナッテ居ルノデアリマス、是ハ山林局ニ付テモ能ク調査致シタノデアリマスガ、非常ニ區々ニナッテ居ルノデアリマシテ、何年ト之ヲ定メルコトハ非常ニ困難ナノデアリマス、同ジ松ニ致シマシテモ、門松ノヤウナ小サイ時ニ伐ッテシマフノモアリマス、大キクナッテ伐ルノモアリマス、色々地方ニ依リ慣習ガ違フノデアリマスカラ、ソレデ先程申上ゲマシタヤウニ甚ダ曖昧デアルト云フ御意見デアリマシタガ、大體之ヲ通ジマシテ、五分致シマシテ稅率ヲ適用スルト云フコトガ、現在ノ負擔カラ見マシテモ、他ノ所得ノ負擔カラ見マシテモ、先ヅ此程度ガ適切ナ

モノデ中庸ヲ得タモノダラウト云フ風ニ考ヘマシタ次第デアリマス

○武藤委員 山林ノコトニ付テハ是デ止メマス、次ニハ所得稅ノ中ノ第一種所得超過——法人ノ超過所得ノ計算ニ付テ、及ビ第一種所得ノ課稅率ニ付テ、肝腎ナコトデアリマスカラ伺ヒタイ、此點ニ付テハ小川名大口君ヨリ詳細ナル質問應答ガアッテ明瞭ニナッテ居リマスガ、尙ホ私ハ茲ニ一ツノ計算ノ例ヲ舉ゲテ、政府ガ之ヲ承認スルヤ否ヤト云フコトヲ承ッテ置キタイ、百分四ノ稅率

ノ適用ノアル第一種所得稅、即チ公債ノ利子、ソレカラ百分五ノ稅率ノ適用ノアル第一種所得稅、即チ社債又ハ銀行預金ノ利子ヨリ第二種及ビ第一種所得稅ヲ通ヅル結局ノ其負擔額ガ、輕イコトニナルト思ヒマス、是ハ不合理トナルヤウデアルガ、是ハドウデアるか、其不合理トナルト云フ其計數ヲ私ハ拵ヘテ見タノデアリマスガ、其計數ヲ御認ニナルカドウカト云フコトヲ承ッテ置ケバ宜シイ、即チ公債ノ利子十萬圓、社債又ハ銀行利子十萬圓ノ收入ガアルト致シマス、公債利子ノ方ハ第一種所得稅稅率ガ百分四、稅額ハ四千圓、社債又ハ銀行預金利子ノ方ハ稅率ガ百分五デアリマスカラ、稅額ハ五千圓ニナル、收入金額ヨリ第一種所得稅ヲ差引イタル金額、即チ第一種所得額ハ十萬圓ノ公債利子ハ九萬六千圓トナリ、社債又ハ銀行利子ハ五萬五千圓トナリマス、此金

額ニ對スル第一種所得稅ノ稅茲ハ、公債利子ニ於テ百分五、此稅額ガ四千八百圓、社債又ハ銀行利子稅額ハ、百分五四千七百五十圓トナリマス、ソレカラ同ジ金額ヨリ控除セラルベキ第二種所得額ガ公債利子ニ於テ四千圓、ソレカラ社債又ハ銀行預金利子ニ於テ五千圓、差引過不足ト云フモノガ茲ニ出テ參ル公債利子ニ於キマシテハ不足ガ八百圓、社債又ハ銀行利子ニ於テハ過ノ方ガ二百五十圓デアリマス、サウスル

ト結局ノ負擔ト云フモノハ、公債利子ニ於キマシテ十萬圓ニ對シテ四千八百圓デアリマス、銀行預金社債ノ利子ニ於キマシテハ十萬圓ニ對シテ四千七百五十圓デアリマス、斯様ナ結果ガ出ル、之ヲ收入金額ニ對スル割合カラ見マス、公債利子ニ於テハ百分四・八、社債又ハ銀行預金利子ニ於キマシテハ百分四・七五ト云フ數字ガ出ルノデアリマスガ、此計算ノ例ハ政府ニ於テ御認ニナリマスガ、又ハ之ヲ御認ニナリマスガ、念ノ爲ニ承ッテ置キマス、十分御聽取レニナレナカッタラ數字ヲ御目ニ懸ケマス

○黒田政府委員 一寸數字ヲ拜見シテ御答申上ゲマス

○武藤委員 只今ノハ御取調ノ上デ宜シウゴザイマス、尙ホモウ一ツアリマス、此度政府ハ綿織物稅ノ廢止法ヲ出サレマシタガ、此綿織物ハ必要品デアッテ、全體ヲ通ジテ綿織物デアル以上ハ、

奢侈品ト認メルモノハアリマセヌカ、先以テ濱口君ニ之ヲ承ッテ置キマス

○濱口國務大臣 ソレハ絹織物デアル以上ハ奢侈品デアリ、綿織物デアルガ故ニ絕對ニ生活ノ必要品ノミデアルト考ヘテ居リマセヌ、無論少數ノ例外ハアラウト思ヒマス、併シ絹織物、綿織物何レガ大體ニ於テ奢侈品デアリ、何レガ生活必要品デアルト申セバ、大體ニ於テ綿織物ノ方ガ生活必要品デアルト考ヘマス、無論例外ハアラウト思ヒマス

○武藤委員 織物ハ木綿デアリマシテモ、絹デアリマシテモ、毛デアリマシテモ、絹デアリマシテモ、毛デアリマシテモ、織物ノ綿柄其他加工ノ工合ニ依リマシテ貴重品トモナリ、木綿モ絹モ麻モ擇ブ所ガアリマセヌ、木綿ノ中ニモ非常ニ高價ナ物ガアリ、又普通一般多數國民ノ着ルモノハ必要品デアリマスケレドモ、全部木綿デモ絹及麻ヨリ高イ物ガアル、是等ニ付テ政府ハ關稅ノ上デ奢侈品稅ヲ取ッテ居ルニ拘ラズ、織物ニ於テハドシナ物デモ木綿デ造ッタモノハ無稅ニスル方針ヲ採ラレタト云フコトニ付テ、政府ハ只今申上ゲタ關係ヲ攻究サレタカ否カト云フコトヲ伺ヒタイ、更ニ木綿デモノ代用ヲスルモノガアル、又人造絹絲、私共ハ之ヲ光澤絲ト云ッテ居ル、此光澤絲ハ人造絹絲ト云ッテモ絹ノ競爭者ニアラズシテ寧ロ今日ニ於テハ世界ニ於テ木綿ノ競爭者ニナッテ居ル、大藏大臣モ御承知ノ通り、昨十四年度ノ生産額ハ全世界ニ於

テ一億三千萬封度生産スルヤウデアリマシテ、僅カ四十年間ニ人造絹絲ノ發達ト云フモノハ非常ナモノデ、今日ハ絹織物ノ敵デナクシテ、寧ロ木綿ノ代用品ト云フ傾向ヲ現シテ居ル、而シテ此人造絹絲デ造リマシタモノハ、現ニ世界到ル處ノ店頭ニ於キマシテ木綿ノ製品トシテモ賣ラレ、又絹ノ擬ヒトシテモ賣ラレテ居ル、縐子ノ如キ天鷲絨ノ如キ、總テノ物ガ人造絹絲デ、絹及木綿ノ代用ニナッテ居ルノデアリマシテ、其價モ亦木綿ト匹敵スルモノデアリマスカ、是等ニ付テハ政府ハ綿織物稅ヲ廢止スルニ於テ考慮ヲ拂ハレタノデアルガ、サウ云フコトハ大藏大省ノ係リデハナイ、商工省農林省ノ係リダト仰シヤレバソレ迄デアリマスカ、濱口君ハ内閣ノ中ニ於テモ吾々ノ最モ尊敬シテ重キヲ置ク有力ナ國務大臣ト思フノデアリマスカ、是等ニ注意ヲ拂ハレタカ拂ハレナイノカ、ソレカラ又更ニ進シ、ソレニ大體ノ御答ガアッタノデアリマスカ、現在織物ハ一箇年ニ十四億圓出テ居ル、一割ノ課稅ヲスレバ一億四千萬圓ハ取レルベキデアル、然ルニ織物稅ハ全體デ五千四百萬圓シカ取レテ居ナイ、一割取ッテ居ルト申シマスカ、全國ニ一割取ッテ居ル所ハ無イ、大抵五分カ三分五厘取ッテ協定徵收ヲシテ居ル、納稅者ト稅務署ト妥協ヲシテヤッテ居ル、斯様ナコトガ綿織物稅ヲ廢止シテ行ク

目的トシテ、織物稅ヲ存置シテ行ク上ニ於テ甚ダ惡影響ヲ及ボシハセヌカト思ヒマスカ、是等ニ付テ根本カラ織物稅ヲ改正スルコト云フ御考慮ハ無カッタノデアリマスカ、又御研究ハ無カッタノデアアルカト云フコトヲ承ッテ置キマス

○濱口國務大臣 三點ニ付テノ御質疑デアリマス、第一ハ綿織物免稅ト云フコトニナッテ居ルケレドモ、綿織物デモ隨分高價ナモノガアル、贅澤品モアル、サウ云フコトニ付テ此度綿織物ノ消費稅ヲ免除スルト云フ計畫ヲ立ツルニ當ッテ考慮スル所ガアッタカ否カト、斯ウ云フ御質問デアリマス、ソレハ十分ニ考慮致シマシタ、種々見本等モ取寄セマシテ、私モソレヲ見タノデアリマス、如何ニモ是ガ綿織物カト思ハレル程ノ立派ナ品物モアリマス、併ナガラ織物ノ消費稅ニ付テ社會政策ヲ行ハントスルニ當ッテ、何ヲ標準トスベキヤト云フコトガ頗ル困難ナ問題デアリマス、只今ノ御話ノヤウナ不公平ト云フモノヲ除カンガ爲ニハ、價格ニ依テ區分ヲ設ケ、例ヘバ一反三十圓ナリ三十圓以上ノモノハ免稅シナイ、三十圓未滿ノモノニ付テ免稅スルト云フガ如キ制度ヲ設クルコトモ一ツノ方法デアルニハ相違アリマモスカ、申スマデモナク織物ノ價格ハ他ノ商品ノ價格ト同様ニ、常ニ變動ヲシテ定マル所ヲ知ラナイ、先月一反三十圓デアリマシタモノガ、今月ハ二十五圓ニナリ、又其次ノ月ハ

或ハ三十五圓ニナルト云フ如クニ常ニ變動シマスカラ、價格ニ依テ徵稅スルト云フコトニ致シテ置キマス

ト云フト、或ル月ハ取ラレ、或ル月ハ稅ヲ免ゼラレマシテ、不公平ナル結果ヲ生ズルノデアリマス、既ニ價格ガ稅ヲ取ルカ取ラヌカト云フコトヲ決メル標準トスルニハ、適セヌトスルナラバ、何カ他ニ適スル標準有リヤト云フコトニ付テ相當ニ攻究ヲ重ネマシタケレドモ、奈何セシニ他ニ適當ナル方法ガ見當リマセヌ、是ニ於テ多少例外的ノ不公平ハアルニ致シマシテモ、其大體ニ於テ國民生活ノ必要品タル所ノ綿織物ハ之ヲ免稅スル、然ラザルモノハ依然トシテ稅ヲ取ルト云フ大體論カラ此區域ヲ決メル外ニナイト云フコトヲ決心致シマシテ、綿織物ニ付テハ消費稅ヲ免除シマシタ次第デアリマス、其結果トシテ御指摘ニナリマシタ如キ例外的ノ不公平ガアルト云フコトハ、私モ之ヲ認メマス認メマスルガ、ソレヲ如何ニシテ除クカト云フコトニ付テハ殆ド方法ガナイデアラウト思フ、又是マデ研究シタ所ニ依リマスレバ、其方法ハアリマセヌカラ、先ヅ大體ニ於テ綿織物ハ生活ノ必要品デアルト云フコトヲ認メル以上ハ、多少ノ例外的ノ不均衡ハ目ヲ瞑ッテ之ヲ斷行スル外ハナイト斯ウ云フ決心ヲシタ次第デアリマス、第二ノ人造絹ノコトニ付キマシテハ、是ハ段々ノ御話ガアリマシタ、如何ニモ其通リデアラウ

ト思ヒマスルガ、併ナガラ綿織物ト人造絹デ拵ヘタ織物ト比較致シマシテ、何レガ生活ノ必需品デアルカ、何レガ比較的ニ贅澤ニ近イカ、何レガ生活必需品ノ域ヲ離レテ嗜好品ニ類シテ居ルカト云フ、其大體ノ區別ヲ致シマス

ト云フト、少クトモ今日ノ現狀ニ於テハ、先ヅ大體ニ於テ綿織物ノ方ガ生活必需品デアッテ、人造絹ノ織物ハドチラカト申シマスレバ、ソレヨリハ生活必需品タル程度ガ薄イ、即チ絹織物ニ近イモノデアルト思フ、是ハ消費者ノ狀況カラ考ヘマシテ、左様ニ判斷ヲ致シマシテ、人造絹ハ免稅シナカッタ譯デアリマス、第三ニ織物稅ノ稅率ハ法律ニ依テ從價一割ト云フコトニナッテ居ルニ拘ハラズ、各地ニ於ケル徵稅ノ實況ヲ見ルト云フト、實際ノ價格ノ一割ヲ取ッテ居ナイヤウデアアル、或ハ五分ノ所アリ、三分ノ所アル、斯ウ云フコトデアリマスルガ、政府ノ當局ト致シマシテ、是ハ大體ニ於キマシテ法律ノ規定ガ圓滿ニ行ハレテ居ルト申上グルノ外ハアリマセヌガ、御承知ノ通り種々ノ租稅ノ徵收ノ仕方ニ付キマシテハ、從前カラ種々ノ慣例ガアリマス、其慣例ニハ良イ慣例モアリマス、又惡イ慣例モアリマシテ、悉ク其慣例ヲ取上ゲテ來テ、此租ノ上ニ乘セテ、是ガ法律ニ適合シテ居ルカ、若クハ法律ニ違反ヲシテ居ルカト云フコトヲ判斷スルニ及バヌ、種類ノ慣例モアルト思ヒマス、ソレ故ニ大體ニ於テ此稅法ノ

實行ガ圓滿ニ行ハレテ居ルト致シマス
ルナラバ、多少從來長ク行ハレテ居リ
マシタ所ノ此慣例ト云フモノヲ一擲シ
テ、打破シテシマフト云フニモ及バヌ
モノト斯様ニ考ヘマシタ、無論此度ノ
稅制整理ニ當ッテハ、織物稅ノ徵稅ノ
慣例等モ、ソレハ相當ニ考慮ノ中ニ入
レテ考ヘタノデアリマスケレドモ、先
ヅ此點ハ此儘ニ致シテ置イテモ大シタ
差支ハアルマイト斯様ニ考ヘタ次第デ
アリマス

○武藤委員 モウ一點伺ヒマス、只今
濱口大藏大臣ノ御答辯ハ分リマシタ
ガ、元來此織物稅ノ廢止——綿織物稅
ノ廢止ヲ行フト云フ場合ニ於テハ、大
體ノ觀察カラ、我國ノ纖維工業ト云フ
コトノ觀察カラ、我國ノ纖維工業ハ國
民生活ニ如何ナル關係ヲ持ッテ居ルカ、
我國ノ產業ニ如何ナル關係ヲ持ッテ居
ルカト云フコトノ政策ノ上カラ出テヤ
ウナケレバナラヌモノデハナイカト思
フ、然ルニ只今濱口君ノ御答辯ハ、刀筆
ノ小吏ガ答ヘルカ如キ御辯明デアアル、
或ハ織物稅ノ中ノ一ノ綿織物稅ヲ廢ス
ルト云フ場合ニハ——產業ノ發展ヲ圖
ルトカ、國民生活ノ安定ヲ期スルトカ、
社會政策ヲ期スルトカ、云フ場合ニハ、
少クトモ纖維工業ノ我國ノ國策ヲ如何
ニスルカト云フコトノ大體ノ觀察ヲ以
テヤラナケレバナラナイモノデハナイ
カト思フ、我國ノ纖維工業ハ外國ニ賣
レマスモノハ生絲デアアル、又棉花ヲ輸

入シテ綿製品ノ輸出ヲシテ居ル、其輸
出ハ昨年ノ十五億ノ中十四億ヲ持ッテ
居ル、而モ貿易ノ發展ヲスルニハ生絲
ノ輸出、棉花ヲ入レテサウシテ之ニ依
テ、綿製品ヲ賣出シテ世界ニ販路ヲ擴
メテ行ク、大正九年ニハ僅ニ六千萬圓
ノ綿製品デアッタモノガ、今日ハ綿絲綿
布ヲ入レルト云フト六億ニ近イモノヲ
昨年度ハ出スコトニナッテ居ル、此見地
ニ依テ政策ヲ立ッテ行クナラバ、私ハ國
民生活ノコトヲ考ヘ、產業ノ發展ヲ考
ヘタナラバ、モウ少シ注意ヲ何故大局
カラ拂ハナカッタノデアアルカト云フコ
トヲ御尋シタイト思フ、内地ノ消費ノ十
四億ニ對シマシテ、若シ之ヲ經濟的ニ
スルナラバ、廣幅實行ニシテ、絹木綿ノ
別ナクシテ參リマシタナラバ、消費ノ
上ニ於テ——常ニ濱口君ガ言ハレテ居
ル消費ノ上ニ於テ二割ハ輕減ガ出來
ル、又生産ノ上ニ於テモ二割ハ輕減ガ
出來ル廣幅制度ヲ斷行スル上ニ於テ免
稅スルトカ、或ハ織物ヲ統一シテ世界
的ノ織物ニスルトカ、世界的ニ賣出ス
方法ヲ執ッテ、内地デ織ッタ物ヲ國民ニ
ハ安イ物ヲ買ハセルトカ云フ見地カラ
出サナケレバナラヌ、織物ハ一般國民
ガ着ル者デアアルカラ、目ヲ瞑ッテ已ムヲ
得ズヤル、目ナンゾ瞑ッテ法律案ナドヲ
出サレテハ、國民ハ甚ダ迷惑千萬デア
ル、宜シク活眼ヲ開イテ徹底セル調査
ヲシテヤッテ貰ハナケレバナラヌ、目ヲ
瞑ッテ我慢ヲスルト云フヤウナ御説明

デアッタガ、サウ云フ御考デ、此織物稅
ノ整理ニ當ラルルト云フコトハ、全ク
無策無能デナイカ、纖維工業ニ對シテ
織物稅ノ廢止ニ對シテハ、大局カラ見
テ其邊ノ小サイ役人ノヤウニ、此稅ノ
枝葉末節ノ點ナドバカリ見ナイデ、織
物稅ノ廢止等ニ付テハ纖維工業ヲドウ
スルカ、消費生産等ニ付テ大藏大臣ハ
閣議ニ於テ相談シタ所ガ、總理大臣其
他ノ閣僚ト是等ノ政策ニ付テ相談シタ
コトガアルガ目ヲ瞑ッテ居ッタカラ、其
處マデ及バナカッタノデアアルカ、是ハ大
事ノ點デアリマスカラ、參考ノ爲ニ聞
イテ置キタイト思フ

○濱口國務大臣 只今ノ質問ニ御答ヲ
シヤウト思ヒマスガ、社會政策ヲ實行
スル爲ニ、國民ノ生活必需品タル綿織
物ニ稅ヲ取ラヌト云フ事ヲ定メルコト
ガ、何故ソレガ纖維工業ノ方針ニ反ス
ルカ、段々御説明ガアリマシタケレド
モ、私ニハ更ニ了解ガ出來ヌ、綿織物ノ
輸出ハ近年相當ノ額ニ上ッテ居リマス、
又絹織物若クハ生絲ノ輸出額モ御話ノ
通りデアリマス、纖維工業ノ方針ト云
フコトト、綿織物消費稅ノ免除ト云フ
コトト、ドウ云フ道行ニ、依テ如何ナル理
由ニ依テ衝突シ、矛盾スルカト云フ御
説明ヲ更ニ承ラヌ、隨ヒマシテ只今ノ
御質問ニ對シテ答辯ノ要ハアリマセヌ
○武藤委員 答辯ガゴザイマセヌケレ
バ宜シウゴザイマス

○元田委員長 黑田政府委員ヨリ先刻
表ヲ以テ御示シニナッタコトニ付テ是
カラ答辯ガアリマス
○黑田政府委員 先程御質問ニナリマ
シタ表ヲ拜見致シマシテ調査致シマシ
タ所ガ、御計算ニ少シ誤ガアルヤウニ
考ヘルノデアリマス、此御計算ニ依リ
マス、公債ノ利子或ハ社債預金ノ利
子ト云フモノカラ、第一種所得稅ノ計
算ヲナサレマス場合ニ、其所得カラ二
種ノ所得稅ヲ控除シタモノヲ基本ニサ
レタノデアリマス、是ハ二十一條ノ第
三項ニ於テ「前項ノ場合ニ於テ控除ス
ヘキ第二種ノ所得ニ對スル所得稅ハ第
一種ノ所得計算上之ヲ損金ニ算入セ
ス」ト規定シテアリマスノデ、ソレヲ基
ニ加ヘテ計算サレタモノト思フノデア
リマス、其點ニ誤ガアルヤウデアリマ
ス

○元田委員長 次ニ吉植君ハ缺席デア
リマスカラ、八田君

○八田委員 二三點伺ッテ置キタイ、實
ハ先日總論ノ際ニ伺ッタノデアリマス、
餘リ急ギマシテ、御答ニ付テ明確ヲ缺
イテ居ッタニモ拘ラズ、之ヲ更ニ再問ス
ルコトヲ省キマシタ爲ニ、頗ル不明快
ニナッテ居ル點ガアリマスカラ、ソレヲ
承ッテ置キタイ、國稅徵收交付金ニ關ス
ル件、私ハ其時申シマシタガ、國稅徵收
交付金ハ今ヨリ十五年前ニ制定サレタ
モノデアッテ、國稅ニ對シテハ百分ノ
三、切符一枚ニ付テ二錢、斯様ニ町村ニ
交付サレテ居ル、是ハ今日餘程制定當

時ト遠ザカッテ居ル、サウシテ此徴収交付金ノ分配ガ如何様ニ運バレテ居ルカト云フト、殆ド市ハ半分、國稅徴収交付金ヲ取ッテ居ル、町村ト云フモノハ其半分シカナイ、斯様ナ狀態ニナッテ居ル、殊ニ東京市トカ大阪市トカ云フ工業ノ發展地、斯様ナ所ニハ諸會社ガアッテ、切符一枚出ス所ノ法人ガアル、其公法人ニ對シテ市ハ一枚ニ付テ二萬圓モ三萬圓モ取ル、サウシテ町村ニナルト、是ハ徵々タル國稅ヲ取扱ッテ居リマスカラ、勞スル所ハ非常ニ多クテ、得ル所ノ徴収交付金ハ些細ナモノデアル、此不公平ヲ矯メル方法ハナイカ、如何ニ見ルカト云フ質問ヲ致シマシタ所ガ、左様ナ不公平ハ無イト仰ッシャル、曷ゾ知ラン、私ハ茲ニ御配付ニナッテ居ル所ノモノヲ見ルト、私ノ立論ヲ立證シテ居ル、斯様ニナッテ居リマス、東京市ノ一箇年ニ於ケル國稅徴収交付金ハ六十九萬一千圓、サウシテ府縣ノ交付金ガ四十五萬圓、即チ東京市ノ徴収交付金ト云フモノハ百十四萬一千圓デアル、大阪市ハ國稅カラ六十萬三千圓、府縣カラ十五萬六千圓デアル、福島縣全體ハ何程町村ガ國稅徴収交付金ノ惠ニ浴シテ居ルカト云フト、僅ニ十二萬五千圓デアル、之ニ對シテ縣カラ配付ニナル交付金ヲ加ヘテモ、僅ニ二十三萬一千圓、東京市ノ殆ド四分ノ一シカナイ、福島縣ノ人口ト東京市ノ人口トハ勞弊タルモノデアリマス、斯様ナ不公平ヲ來

シテ居リマス、市ト云フモノハ手數ガ少クシテ而モ非常ナル交付金ヲ取ッテ居ル、町村ハ非常ナ努力ヲ拂ッテ居ルニ拘ハラズ、國稅徴収交付金ト云フモノガ少イ、何トカ此缺陷ヲ補ウテ、サウシテ財源ニ苦シンデ居ル町村ニ財源ヲ與ヘナケレバナラヌト思ヒマスガ、之ニ付テ何カ方法ヲ請ジテ貰ヒタイト云フコトヲ其際承リマシテ、マダ適當ナ方法ガ無イヤウニ伺ヒマシタガ、斯様ナ點ハ最モ小サイ點デアリマスケレドモ、町村ノ財源ヲ涵養スル上カラ行キマス、大問題デアアルノデス、之ニ對シテ更ニ當局ノ答辯ヲ得テ置キタイト思ヒマス

○黒田政府委員 交付金ノ額ニ付キマシテハ、只今御述ニナリマシタコトハ多分其通りダラウト思ヒマス、是ハ先日モ御答ヘ申上ゲマシタヤウニ、地方ニ付テ調査致シタコトモアリマス、交付金トソレカラ其市町村ニ於テ徵稅上諸般ノ施設ニ要スル經費ト云フモノニ付テモ調ベタモノガアリマスガ、今回ノ稅制改正ニ依リマシテハ、是モ多少影響シテ參リマスカラ、其點ニ付テハマダ實績ノ調査ハ出來テ居リマセヌガ、大體ニ於キマシテ御述ニナリマシタ通り、現行ノ儘ニ置キマシテハ、市ニ於テハ非常ニ有利ニナリ、町之ニ次ギ、村ニ於テハ交付金ガ十分デナイ、併シ大體ニハ——ソレハ足りナイ所モアラウト思ヒマスガ、先ヅ村ニ於テハ市ト

カ町ニ比較シテ不利デアルト云フ事實ハ認メテ居リマス、隨テ將來ノ事ト致シマシテハ、今度稅制ガ改正ニナリマスト云フト、地租ニ付テモ町村ニ於テハ國稅ヲ取ラルモノガ少クナッテ來ルヤウナ事モアリマスカラ、ソレ等ノ點ヲ尙ホ攻究致シタイト思ッテ居リマス、併シマダ今日ニ於キマシテハ、之ニ對スル確定シタ案ヲ持ッテ居リマセヌガ、大體御述ニナリマシタヤウナ事情ハ認メテ居リマスカラ、將來尙ホ之ニ付テハ攻究ヲ致ス積リデアリマス

○八田委員 是ハ小問題ノヤウデスガ、實ハ大問題デス、當時一億二千萬圓ト云フ剩餘金ヲ町村ノ基本金ニ分タウカ、基本金ニ分ツヨリハ交付金ノ形式ヲ以テ町村ノ基礎ヲ固メタ方ガ宜イト云フコトデ、當時議會ニ於ケル速記録ヲ見テ、私ハ非常ニ嬉シク感ジタノデアリマス、其率ガ段々上ッテ十五年度ニ於テハ昔ノ交付金ノ三倍ニナッテ居ル、チヨット其事ダケヲ申シテ此問題ヲ止メテ置キマス、次ニ先程三土君カラ地方稅ノ上ニ於テ御話ノアリマシタ所得ノ附加稅ノ件デアリマス、是モ先日私ハ質問致シマシタガ、甚ダ不得要領ニ終ッタ、三土君カラ御聞キニナッタコトモ同一デアアルガ……

○元田委員長 チヨット大藏省ノ方ハアリマセヌカ

○八田委員 ソレデハ大藏省ニ關聯シタコトデ、地方ノ財源涵養ト云フ意味

カラ大藏大臣ノ答辯ヲ仰ギタイヒト思マス、地方ニ於テ酒稅ト云フモノハ、附加稅ト云フモノハ附加稅ガ免除ニナッテ居ル、是ハ私ハ市町村マデト云ッテハ甚ダ何ダカモ知レマセヌガ、セメテハ縣クラキニ附加稅ヲ許シタラドウカト思フ、サウスレバ地方ノ財源ガ大分出來ル、之ニ付テ如何ナル考ヲ持ッテ居ラルカ、御所見ヲ伺ッテ置キタイ

○濱口國務大臣 酒ノ稅ニハ地方ニ附加稅ノ掛ケヤウガナイト思ヒマスガ、是ハ製造スル場所、消費スル場所ガ全然關係ガナイト思ヒマス、製造者ニ向ッテ地方ノ附加稅ヲ掛ケルト云フコトハ非常ニ不公平ダト思ヒマス、是ハ只今ハ掛ケヤウハナイト思ヒマス

○八田委員 ソレハ掛ケル掛ケヤウガナイト云フコトハ法律ノ定メヤウデアリマスガ、是ハ出來ナイコトハナカラウト思ヒマス、安クシテ地方デ取ラス、地方ニハ澤山ノ製造所ガアルノデス、サウシテ國ニ納メテ地方デ納メナイ、斯ウナッテ居リマス、是ハ按排ノ仕様デ取ルコトノ出來ル可能性ガアルト思ヒマス、此點ニ付テハ吾々モ十分研究シテ見タイト思ヒマス、其次ハ地方稅ニ關スル問題デアリマスカラ内務省ノ……

○元田委員長 只今内務大臣ガ直キ出席サレマスガ、ソレマデ待間ガ惜イモノデアリマスガ、其間ニ大藏省ニ對シテ御質問ハ……嶋居君

○嶋居委員 私ハ昨日ノ質問ノ補足トモ申スベキモノデアリマス、昨日質問應答ヲ致シマシタガ、尙モ御質問ヲ申上ゲタイト存ジマス、第一ハ賣藥稅ノ問題デアリマスガ、賣藥稅ガ昨日大藏大臣ト宮島君トノ間ノ應答中ニモアリマシタガ、私ハ此賣藥稅一個ニ付テハ、是ハ社會政策ト云フ見地カラ善イ事ダト思フノデアリマス、併ナガラ既ニ昨日大藏大臣ガ御説明ニナリマシタ通リニ、賣藥稅ナルモノハ國民ノ擔稅力ガ應ジ難イト云フ程ナ大ナル稅デナイト云フ風ナコトハ、昨日大藏大臣ハ仰セラレマシタガ、私ハ其意味ニ於テ此醬油稅モモト輕微ナ稅デアル故ニ——私ノ手許ニ請願ガ參ッテ居リマスガ、是ハ醬油組合カラ廢稅ヲシナイデ、其稅ヲ存置シテ吳レト云フ請願ガ來テ居ル、是ハ極メテ輕微ナ稅ダラウト思フ、通行稅亦然リデアリマス、左様ナ輕微ナ稅ヲ廢止シテ、他ニ大ナル增稅ヲスルト云フコトハ、私ハ全體論カラ考ヘテ、社會政策ニアラズト斷ズルモノデアリマスガ、唯此賣藥稅一個ニ付テハ私ハ社會政策ニナルト思フノデアリマス、併ナガラ此ヤリ方ノ如何ニ依テハ私ハ社會政策ドコロデハナイ、大變ナ惡イコトニナルト、斯ウ考ヘルノデアリマス、其點ニ付テ今マデノ質問應答ノアリマセヌ點ニ付テ私ハ御尋ヲシタイノデス、此賣藥稅ノコトニ付テ御質問申上ゲマスルト、當然是ハ衛生局長ガ

御出ニナッテ居リマスカラ、御聞キシタイノデアリマスガ、衛生局長ハ昨日宮島君トノ應答ニ付テハ、私ハ其答辯ガ甚ダ不眞面目極マルモノダト思フノデアリマス、次ニ此賣藥稅廢止ニ付テ、大藏省ト内務省トノ間ニ何等聯絡ト打合セガナカッタ、社會政策ト云フ言葉ヲ論ジテ置キナガラ、此稅ヲ行フ上ニ付テ内務省ト大藏省トノ間ニ何等聯絡ガナイト云フニ至ッテハ、私ハ此點ヲ甚ダ遺憾ニ思フノデアリマス、此印紙稅ヲ撤廢スル結果トシマシテ、ドウ云フコトガ起ッテ來ルカト申シマス、此印紙ヲ撤廢シタ結果ト云フモノハ無印紙ニナリマスカラ、如何ナル賣藥業者モ賣藥ヲ造リ得ルト云フコトニナル、一例ヲ申上ゲマスレバ、茲ニ五萬圓ノ賣藥ヲ造ルト致シマス、其一割ノ印紙稅五千圓ト云フモノハ是ハ現金デ以テ先ニ出サナケレバナラヌノデアリマス、ソレデアリマスカラ此一割印紙ニ貼ルコトニ依テ、賣藥業者ハ一ツノ制限ヲ受ケテ居ル、ソコデ以テ賣藥ノ地方ノ卸賣ヲスル業體ヲ御覽ニナレバ明カナノデアリマスガ、例ヘバ仁丹十錢ノ定價ト云フモノヲ地方ニ卸ス場合ニハ、ソレヲ六掛ニスルトカ、八掛ニスルトカ云フコトニナッテ居ルノデアリマス、皆是ハ掛賣ニナッテ居ルノデアリマスカラ、有ユル賣藥ハ掛ニナッテ賣ラレテ居ルノデアリマス、茲ニ十錢ト云フ定價ノモノガ無印紙ニナル場合ニハ、先ヅ

其賣藥ヲ製造スル前提ニ於テ、現金ニ於テ支拂フコトガ要ラナクナリマスカラ、如何ナル者ガ賣藥ヲ製造シテモ十錢ノ定價ノモノヲ二十錢ト書イテ、此掛ヲ安クスルノデアリマス、サウシマスルト此掛ヲ安クスル賣藥ハ現在ハ、公開サレテ居リマセヌカラ——此内容ノ種目及分量ニ付テハ公開サレテ居リマセヌカラ、一般國民ハ是レガ如何ナル價值ガアルカト云フ判斷ヲスルコトガ非常ニムヅカシイノデアリマス、ソレデアリマスカラ、今マデハ定價十錢ヲ二十錢ニスレバ二割課稅ノ二錢ト云フコトニ限定サレテ居リマシテカラ、製造業者ノ中デ濫造スル者モ是ニ手ガ出シ得ナカッタノデアリマス、印紙ヲ撤廢致シマス結果ト致シマシテ、茲ニ其定價ヲ自由ニ定メテ、サウシテ其掛ガ極ク安クナルノデアリマスカラ、濫造者ガ非常ニ殖エテ參ルノデアリマス、此印紙稅ヲ徹廢スルコトニ依テ、其賣藥ト云フモノガ非常ニ濫造サレルト云フコトハ、是ハ餘程考究シナケレバナラヌコトデアリマシテ、我國民ノ賣藥ニ對スル實情ヲ眺メテ見マスルト、實際近來醫學上ノ知識ニ依テ實際ニ瘥リ得ナイト云フ病氣ニ對シテ、盛ニ賣藥ヲ賣ッテ而モ其賣藥ハ非常ニ効能ノアルモノトシテ廣告サレテ居ルノデアリマス、斯ル賣藥ヲ吞ンデモ決シテ利クモノデナイト云フコトハ、常職アルモノハ考ヘテ見レバ明カナ場合ニ於テモ、

尙且ツ其賣藥ガ非常ナカラ以テ賣レテ居ルノデアリマスカラ、此賣藥ガ非公開ノ狀態デ秘密ニサレテ居ル結果、賣藥價值ニ對スル國民評價ト云フモノガ非常ニ見難クナリ、而モ印紙稅ガ撤廢サレマス、其定價ヲ附スル點ニ於テ自由自在ニナルカラ、之ヲ地方ニ販賣スル場合ニ於テモ、非常ナ濫造ヲスルト云フコトニ付テ、私ハ賣藥ノ印紙稅ヲ撤廢スルト云フコトハ直接賣藥業者ニ利益ヲ與ヘルノデナクシテ、國民直接ノ利益、即チ其負擔ヲ輕減スルト云フノデアリマスカラ、此點ニ付テハ餘程徹底ノ此廢稅ノ目的ヲ貫徹スベク、内務省及大藏省ノ間ニ相當ノ聯絡アッテ然ルベシト思フノデアリマス、而モ現在ニ於テ新藥ト賣藥トノ取扱ニ於テ、新藥ト稱スルモノハ、近來ノ新藥ト云ヒマスレバ——御承知ノ通り新藥ト云フモノハ醫者ニ賣ラレル藥デアリマス、賣藥ト云ヘバ、一般國民ニ直接賣ラレル藥デアアル、所ガ新藥ト稱スルモノハ「アスピリン」トカ「カスカラ」錠トカ云ッタ風ナ物が盛ニ新聞雜誌ニ廣告ヲシマスノデ、國民ガ之ヲ買ッテ使用スルコトニナッテ居リマス、新藥ニシテ事實賣藥ニナッテ居ルモノガアル、新藥ハ無稅デアッテ賣藥ハ有稅デアッテモ、其間ノ區別ハ殆ド混同サレテ來テ居ルノデアアル、今後此賣藥ガ無印紙ニナッタ場合ニ、此新藥ト賣藥ノ取扱ニ付テノ規則サヘモ御考ニナッテ居ラヌト云フコト

ニ至ッテハ、甚ダ私ハ危險ナルモノト思フ、昨日衛生局長ノ御答辯デハ殆ド何等之ニ對シテノ御考ノナイヤウナ御答辯デアリマシタカラ、私ハ今日是非此點ニ付テハ十分當局ノ人ノ御考慮ヲ仰イデ置カヌト、此撤廢ニ依テ却テ其結果ヲ惡クスルコトニナッテ來ルノデアリマスカラ、私ハ今日特ニ此點ニ付テ御質問申上ゲル次第デアリマス

○山田衛生局長 私カラ御答申上ゲマス、昨日只今ノ所、賣藥法ヲ改正シナケレバナラヌ考ハ持ッテ居ラヌト申上ゲマシタコトハ、若シ實施ノ結果棄テ置ケヌコトガ出來レバ、其時ニハ十分ニ手ヲ盡スト云フコトハ無論ノコトデアリマスガ、今日ノ所デハドウシナケレバナラヌ、斯ウシナケレバナラヌト云フコトハナカラウカト考ヘテ居リマスカラ、其事カ今日ハ申上ゲタノデアリマスカ、何カ實際ノ上ニ弊害ガ起レバ、其時ニハ固ヨリ十分ノコトヲスルト云フ考デアリマス、只今ノ所デハ取締上デドウ斯ウシナケレバナラヌト云フコトハアルマイ、規則ヲ變ヘナケレバナラヌト云フコトハナカラウ、現在ノ規則ノ範圍内デ運用シテ十分行ケヤセヌカ、斯ウ考ヘテ居リマスカラ其事ヲ申上ゲタ次第デアリマス

ハレルノデアリマス、行ハレタ結果ト云フモノヲ全然考ヘナイデ、サウシテヤッテ見テ、出來タラ何トカシヤウト云フコトハ、私ハ政府當局トシテノ御答辯トシテハ洵ニドウモ驚入ッタ御答辯ト思フノデアリマス、貴方ガ實際ニ何等其御考ガ無イトスルナラバ、甚ダ私ハ國民ハ不安心ナル狀態ニ置カレタモノデハナカラウカト思フノデアリマスカ、併ナガラソレ以上御答辯ガナイト云フコトデアレバ、見解ガ違フノデアル、吾々考ヘテ見テモ將來必ズ起ッテ來ルト云フコトハ是ハ明カナル事實デアリマスカラ、ソコマデ考ヘラレヌト云フ程ノムヅカシイ問題デヤナイト思フデノデアリマス、私ハ將來此賣藥ニ向ッテ此賣藥ヲドウ云フ風ナ方法デ取扱フト云フ腹案モ多少持ッテ居リマスケレドモ、此處ハ左様ナコトヲ論議スル場所デアマリセヌカラ、私ハ其問題ハソレデ止メテ置キマス、唯私ハ大藏大臣ニ御伺シタイノハ、矢張此場合ニハ賣藥稅ヲ御廢止ニナルト云フノハ、昨日申上ゲタ通りノ理論ノ上カラ衛生問題ニ對シテ相當ノ御考慮ヲ煩シタイト云フコトヲ併セテ御願ヒ致シテ次ノ問題ニ移ルノデアリマスカ、是ハ昨日ノ大藏大臣ト湯淺君トノ應答ノ問題デアリマスカ、ソレハ專賣局ノ規則ニ依テ、此煙草ヲ値上ヲシタト云フコトハ憲法違反デアルトカナイトカ云フ問題デアッタノデアリマス、併ナガラ是ハ私ハ憲法違

反問題ヲ擔ギ出スノデモ何デモナイ、左様ナコトヲ申上ゲルノデハナイ、併ナガラ此精神ニ於テ稅率ヲ變更アルハ法律ヲ以テ之ヲ定ムベシト云フ憲法上ノ性質ト、ソレカラ此專賣局ニ於テ自由ニ稅ヲ變ヘルト云フコトガ、餘リニ是ガ輕クテ、片方ハ憲法デ規定シテアルノデアアルカラ、二千萬圓ノ問題デ解散ガアルトカナイトカ云フ風ナ大變ナ問題ヲ起ス時代ニ於テ、唯專賣局ノ規則ニ依テ大藏省内部デ以テ四千萬圓カラノ金ヲボカリト上ゲルコトガ自由ニ出來ル、而モソレハ議會ノ何等ノ協賛ヲ經テナイ、サウシテ其事ガ自由自在ニ出來ルト云フ、明カナル間接稅ヲ課スルノデアアル、茲ニ私ガドウモ腑ニ落ちナイ點ガアルノデアリマス、政府當局ニ之ヲ聞キマス、ソレハ實際煙草ヲ値上ヲスル場合ニハ、ボカッテ遣ラナイト、ソコニ惡イコトガ出來ルカラ遣ラタノダト仰シヤルケレドモ、ソレナラ酒ヤ清涼飲料ハドウデアアルカ、民間ニ於テ豫メ議會ニ協賛ヲ經テ、サウシテ豫メ之ヲ行使スル期日マデ分ッテ居ル、其民間事業ニ對シテ議會ノ協賛ヲ經テ、サウシテ之ヲ民間ニ遣ラセルノデアアル、政府專賣局ノモノダケハ默ッテヤラナケレバ出來ナイト云フコトハ、私ハドウモ其點ノ理解ガ出來ナイ、少クモ私ハ憲法ノ六十二條ノ條文ニ依リマシテ、此精神ヲ重ンズル意味カラシテ、茲ニ當然大藏大臣ニ於テ御考慮ヲ

煩シタイノデアリマス、サウシテ此間接稅ノ値上ト云フコトニ付テハ、ソレハ從前カラノコトデアリマスカラ、今ノ大藏大臣ニ彼此レ申上ゲルレデハアリマセヌケレドモ、立憲治下ノ國民ガ、寢テ居ル間ニ増稅ヲサレテ、ソレモ異議ガ言ヘナイト云フヤウナコトデハ、私ハ困ルト思フノデアリマス、殊ニソレガ社會ノ經濟事情ニ從ッテ、極ク穩當ナル値上デ以テ、如何ニモ無理ガナイト云フ此以前ノヤウナ場合ノトキハ宜シウゴザイマスガ、稅制整理ノ其根本ニ觸レル増稅デアリマシテ、ソレガ而モ何等議會ノ協賛ヲ經ナイデ、是ガ爲サレルト云フコトニ付キマシテハ、將來ハ私ハ電氣事業或ハ酒ノ專賣ト云フコトモ起ッテ來ルダラウト思フ、專賣事業ハ益殖エルカモ分ラヌ、其際ニ斯ウ云フ問題デ、ボッカリボッカリト遣ラレタラ、國民ガ困リマスカラ、之ニ對シテ大藏大臣ノ御考ヲ承リタイノデアリマス

○濱口國務大臣 其問題ニ付テハ、私ハ屢御答ヲ致シテ置イタ通りデアリマス、別ニ憲法違反デナイコトハ勿論デアリマスガ、憲法ノ精神ニ何等抵觸スルコトハナイ、屢是迄行ッタコトモアリマス、又此度行ヒマスニ付テモ、從來ノ例トハ變ラヌコトヲ遣ッテ居リマス、私ハ別ニ弊害ガ生ズルモノデアルト考ヘラレヌ、憲法ノ精神ヲ蹂躪シタトモ何トモ思ッテ居リマセヌ

○嶋居委員 私ノ質問ハ是デ宜シウゴザイマス

○八田委員 先刻此所得稅ノ附加稅ニ關シテ三土君ト内務大臣トノ質問應答ガアリマシタガ、私共ドウ考ヘテモ此所得附加稅ヲ市町村ヨリ之ヲ取ツテ、サウシテ府縣ニ移シテシマッタト云フコトハ、是ハモウ實ニ非常ナ問題デアッテ、富者ニ輕クテ貧者ニ重クナル結果ヲ來スト云フ斷案ヲ三土君ガ下シテ質問サレタガ、同感デアアル、私モ先日モ一寸申シマシタガ、斯様ナ例ガ澤山アル、地主ハ今回ハ二百圓迄ハ免稅スルト云フコトニナツテ居リマスガ、地主ハ各所ニ土地ヲ持ツテ居ル、サウシテ所得稅ノ附加稅ナルモノハ各村カラシテ附加サレテ居ル、村ノ土地ト云フモノニ對スル所得稅ノ附加稅ト云フモノハ、其村ニ於ケル所ノ財源デアッテ、所謂不在地主ニ課稅スル所ノ好財源デアッテ、公平ナル稅デアアル、今多ク地主ニシテ其地ニ居ル人ミハ、農村ニ居ルコトヲ嫌ツテ市街地ニ走ル傾ガアル、戸數割ガ重イバカリデナク、小作人ノ爭議トカ、色ミ煩累ガアルカラシテ、皆市街地ニ走ル傾向ガアツテ、土地ニ對スル所得稅附加稅ト云フモノハ、全ク取レナクナツテシマッタ、斯様ナル趨勢カラシテ町村ヲ遁レテ行ク者ニ對シテ、所得稅ノ附加稅ヲ課スコトガ出來ナイト云フコトニナツテ來マシタナラバ、社會政策ノ上カラ、農村ノ根柢ヲ固メル上カラ、思想ノ

惡化ヲ防グ上カラ申シマシテモ、甚ダ悲シムベキ事ト思フノデアリマス、私ハ先日モ例ヲ擧ゲテ申シマシタガ、三分ノ一ハ市街地ノ人ガ持ツテル土地デアアル、其村ノ者ガ半分、アトハ他町村デアアル、半分々々デアアル、サウ云フヤウナ時ニ當ツテ、一定ノ附加稅ヲ市街地ノ人カラ取ルコトガ出來ナイ、是ハ町村ニ取ツテ社會政策ノ上カラ見マシテモ、由敷問題デアアル、此町村ノ好財源ヲ失ハシメテ居ル、地主カラ出スノデアアルカラ、是位取易イ所得稅附加稅ハナイノデアリマス、此財源ヲ失ハシメテ、尙且ツ非常ナ稅制整理ヲ爲シタイト云フ政府ノ答辯ハ、私ハ奇怪ニ考ヘテ居リマスガ、此事ニ對シマシテ政府ノ所見ヲ承リタイノデアリマス

○田中政府委員 所得稅附加稅ハ府縣

シテ、強テ農村ノ財源ヲ奪ツタモノトハ考ヘナイノデゴザイマス

○八田委員 今ノ點ニ付テハ意見ヲ異ニ致シマスガ、實際ノ實情ハサウデナイコトヲ明確ニ申上ゲテ置ク、私ハ農村ヲ專門ニヤツテ居ルノデ私ノ申スコトハ誤リナイコトヲ確信シテ居リマス、實際今ノ仰シヤルコトトハ矛盾シテ居ル、其事ヲ論爭致シマシテモ致方アリマセヌカラ、其程度ニ止メテ置キマス、其次ハ府縣ニ於キマシテ公納金ト云フノガアリマス、公納金ト云フモノヲ納メテ置イテ、サウシテ附加稅トスル稅トヲ免レルモノガ澤山アリマス、斯ウ云フコトニ付テ取締法ガ出來テ居リマセウカ、ドウデアリマセウカ、今回色ミノ稅ノ改廢ヲ爲スニ付テ、各種ノ多クノ會社等ガ試ミル所ノ問題デ、町村附加稅ヲ課シ得ナクテ困ツテ居ル、町村ノ財源ヲ涵養スル上カラ見マシテ、公納金ト云フモノヲ放棄シテ置クト云フコトハ重大事デアアル、是ハ如何ナル觀念ヲ持ツテ居ルノデアリマスカ

コトハ既ニ稅目デ許シデ居ル、所ガ電氣會社ガ聯合シテ附加稅ヲ免レル爲ニ、縣ト約束スル、十五年間動カスコトガ出來ナイ、府縣會ト雖モ動カスコトガ出來ナクナツテシマフ、斯様ナ例ハ各府縣共澤山アル、何ガ故ニ斯様ナル不公平ナル取扱ヲ、縣ガ地方ニ對シテ不監督ニ投ゲヤツテ置クカト云フコトハ、奇怪ノコトデアリマスガ、其點ニ對シテ御答ヲ願ヒマス

○田中政府委員 只今ノ御話ノ公納金ト云フモノハ、電燈會社、電氣會社ノ公納金ノ御趣旨ト解シマスガ、サウ云フ公納金ヲ府縣ニ納メルコトヲ約束致シマスルコトハ、ソレハ府縣ト其會社トノ任意ノ契約デアリマシテ、敢テ之ヲ答メル筋デハナイト存ジマス、而シテソレガ爲ニ市町村ニ於テ電柱稅附加稅ヲ課スルコトガ出來ナイデハナイカト云フ御話デアアルヤウニ考ヘラレマスガ、或ル市町村ニ於キマシテ、特ニ財源ニ窮シ、而シテ其電柱ニ對シマシテ電柱稅ヲ課スルニ適當ナリト云フ判斷ガ付クト云フ場合ニ於キマシテハ、サウ云フ市町村ニ於キマシテ、特別稅ノ電柱稅ヲ起シマスレバ差支ナイカト存ジマスノデ、其點ハ公納金ヲ府縣ガ會社ト特約致シマシテモ、私ハ市町村財政ニ特ニ影響ガソレガ爲ニアルトハ信ジナイノデアリマス

○八田委員 今論議ヲシマシテモ仕方

ガナイ、町村ノ財政ニ影響ヲ及ボスト

カ、何トカサウ云フ程度ノモノデハナ
イ、町村ト云フモノハ非常ニ財源ニ苦
シンデ居ル、附加税ヲ取り得ナイト云
フコトハ、市町村ノ基礎ヲ固メル上ニ
於テ大問題デアル、サウ云フモノヲ取
リ得セシムルヤウニスルト云フコト
ガ、町村ヲ監督スル所ノ局ニ立ッテ居ル
人ノ大ニ考慮スベキ點ダラウト考ヘマ
ス、サウ云フ點ニ付テ論争スルコトハ
出来マセヌカラ、私ハ此程度ニ於テ質
問ヲ打切ッテ置キマス

○元田委員長 高橋君——高橋君ニ一
寸願ヒマスガドウカ議論ヲシタ所ガ當
局者ハ逆モ屈伏シマセヌカラ、議論ニ
涉ラヌヤウニ願ヒマス

○高橋委員 私ハ疑問ヲ壞キ何遍モ繰返
シテ見タノデスガ了解シ兼ネタ、私ノ御問ヒ
スル所ガ或ハ私ノ誤解デアルカモ知レマ
セヌガ、確カリ聽イテ明確ナル御答辯
ヲシテ戴キタイト思フ、所得税法ノ十
四條即チ第三種所得ノ算定方法デアリ
マス、其中ニ二三ノ疑問ノ箇所ガアル
ノデアリマスガ、例ヘバ第十四條第一
項第一號ニアル營業ニ非ザル貸金ノ利
子竝ニ云々、ソレハ此處ノ改正案ニ依
リマス、前年中ノ收入金額ヲ捉ヘル
コトニナル、現行法ニ致シマスと云フ
ト、是ハ其歳ノ豫算金額ヲ捉ヘルコト
ニナル、ソレデ私ノ疑問ハ十六年度カ
ラハ何等差支ハナカラウト思ヒマス
レドモ、十五年度ニ於テ前年度ノ收入
額ヲ捉ヘテ、是カラ所得ヲ算出スルコ

トニナレバ、例ヘバ貸金ニ於テ前年度
デハ一割ノ利子デ以テ收入ヲ得テ居ッ
タ、大正十五年度ヨリハソレガ九分ノ
利息ニ下ッタ、サウ致シマスと云フト、
此改正案ニ依リマスと、前年ノ收入額
ヲ捉ヘルコトニナレバ、一割ニ依テ計
算ヲ致シタ收入額ガ課税標準ニナルヤ
ウニ考ヘラレルノデアリマスガ、是等
ノ點ニ付テ御伺ヒ致シマス

○黒田政府委員 只今例ニ御取リニナ
リマシタノハ、六號ニ依リマスル所得
ノ御尋デゴザイマセウカ

○高橋委員 一號ト五號トアリマス
ガ、一號デアリマス
○黒田政府委員 一號ノ營業ニアラザ
ル貸金ノ利子ニ付キマシテハ、御尋ノ
通り前年ニ於テ一割ノ貸金ヲシテ居ッ
タガ、今年ハ之ヲ九分ニ下ゲタト云フ
時ニ於キマシテモ、前年ハ一割デ實際
所得ガアッタ、其所得ニ對シテ課税ヲ致
ス積リデ居リマス、ソレカラ五號ト云
フ御話デゴザイマシタガ、五號ノ俸給
給料ノ如キニ付キマシテモ、今回ハ豫
算ノ主義ヲ改メマシテ、大體前年ノ實
績ニ依ルコトニ致シタノデアリマス、
前年ノ實績ニ依テ、前一箇年ノ實績ニ
依テ本年ノ課税ノ標準ニスルト云フコ
トニ致シタノデアリマス、唯中途カラ
シテ其所得ノ性質ガ始終變ッテ居ルト
云フ風ナ場合ニ於キマシテハ、已ムヲ
得ズ本年ノ豫算ニ依ルト云フノデアリ
マスカラ、前年少クシテ今年多クナッテ

モ、前年ノ少イモノニ依ル場合モアリ
マスルシ、前年多クシテ今年少クナッテ
モ前年ニ依ル場合モアル、但シ五號ニ
付キマシテハ若シ本年ノ實際ノ所得ガ
二分ノ一以下ニ減額シマシタ場合ニ於
テハ、特ニ是ハ減損更訂ノ主義ヲ認メ
タノデアリマスカラ、全然實績課税ト
云フノデハナイノデアリマス、實績ニ
依テ課税シマスガ、其救済ダケハ茲ニ
認メルノデアリマス

○高橋委員 サウ致シマスと云フト減
損更訂ノ條件ニ當嵌ラナイモノハ、十
五年度ダケハ此改正ニ依テ不當ナル課
税ヲ受ケルト云フコトハ、御理解ニナッ
テ此改正案ヲ御定メニナッタト理解シ
テ宜シイノデアリマス

○黒田政府委員 十五年度ニ限ッタコ
トデアリマセヌノデ、將來ズツテ同ジ
デゴザイマスルガ、減損更訂ヲ致シマ
セヌモノハ是ハ減損致サナイノデアリ
マス、大體ハ實績課税ノ主義デアリマ
ス
○高橋委員 サウスルト此四號ハ前年
ノ三月カラト云フ標準ニナッテ居リマ
スルガ、是ハ矢張現行法ニ依リマスと
四月カラデゴザイマスルカラ、此一箇
月ダケハ省クノデゴザイマス
○黒田政府委員 附則ニ依リテ三月分
ダケハ省キマス
○高橋委員 サウスルト此法人ヨリ受
ケル利益ト云フ方面ハ別ニ不當ノ二重
課税ヲ受ケルカ、或ハ不當ナル課税ヲ

受ケルト云フヤウナコトニナラヌガ、
其外ハ全部、私ノ申ス——言葉ガ少シ
穩當ヲ缺クカモ知レマセヌケレドモ、
實際得タル收入以外ノモノニ課税ヲ受
ケルノデアリマスルカラ、是ハ不當課
税ト認メテ宜シイダラウト思ヒマス
ガ、サウ云フコトハ御認ニナルト承知
致シテ宜シイノデアリマス

○黒田政府委員 一寸今ノ御質問ノ御
趣旨ガ十分ニ了解出来マセヌガ、前年
ノ實績ヲ標準ト致シマスル結果——此
四號ノ今年ノコトニ付テノ御尋ノヤウ
デアリマスルガ、今年ニ付キマシテハ、昨
年ハ豫算ニ依テ第一號ニ付テハ課税ヲ
シタノデアリマスルガ、是カラハ實績
課税ニ依テ、前年ノ所得ニ課税シテ行
クコトニ相成ルノデアリマスガ、御質
問ノ趣旨ノ通りデアラウト思ヒマス

○高橋委員 サウ致シマスと私ノ考ヘ
テ居ッタコトト、政府ノ今御答辯ニナッ
タコトトハ同ジデアッテ、第三種ノ所得
ノ計算法ニ依リマシテハ、私ノ心配致
シタ如クニ、十五年ハ不當ナル課税ヲ
受ケテモ、人民ハ致方ナイ、諸メル外ナ
イト云フヤウナコトニ承知シテ宜シイ
ノデアリマス
○黒田政府委員 御答致シマス、不當
ノ課税ニハ少シモナラヌト思ヒマス、
是ハ獨リ十五年度バカリニ限ッタコト
デアナイノデアリマシテ、前年ノ實績
ニ依テ課税ヲスルト云フコトニナルノ
デアリマスカラ、前年ガ少クテ翌年度

多クナツテモ、前年ノ少イモノニ依テ課税ヲスルシ、前年多クシテ翌年度少クナリマシテモ、前年ノ多イモノニ依テ課税ヲスルト云フコトニ致シタノデアリマス、是ハ一寸附加ヘテ御説明申上ゲマセヌト十分デナイト思ヒマスガ、貸金ノ所得ノ如キモノハ、其年ニ於テ減損更訂ヲスルトカ、變ヘルトカ云フコトニ致シマス、前年ニ於テ所得ガアツテモ、ソレヲ翌年ノ初ニ於テ返シタコトニシテ、又之ヲ貸付ケル形ニスルト云フヤウナコトデ、非常ニ自由ニ變更シテ脱税ヲシ得ル機會ガ多イノデアリマス、ソレ故ニ是ハ前年ノ實蹟ニ依テ課税ヲシテ行クト云フ趣旨ニ改メタノデアリマシテ、決シテ一ツノモノガ二度掛ケラレルトカ、不當ノ課税デアルトカ云フ結果ニハナルマイト信ジテ居リマス

○高橋委員 議論ヲスルノデハアリマセヌガ、政府ノ方ガ間違ッタコトヲ言ハレルカラ私ガ申スノデス、十六年度ト十五年度トハ違フノデス、十六年度カラハ差支ナイト私ハ申シテ居ル、十四年度ノ所得ト云フモノハ、現行法ニ依テ計算サレタノデアリマス、十四年度ニ於テハ現行法ニ依テ豫算デヤッタ、左様デアリマスカラ十四年度ニ、先程ノ例ニ依リマスト一割デ貸金ヲ致シタト云ヘバ、十四年度ハ一割デ、既ニ十四年度ノ所得額トシテ決定シテ居ルノデアリマス、左様デアリマスカラ、十五

年度ニ於テハ今度改正ノ法律ニ依テ決定ヲ取ケルト云フト、前年度ヲ捉ヘルノデアリマス、十五年度ニ於テハ九分ノ利率ニ下ツテ居ツテモ、十四年度ノ收入ヲ基トスルノデアリマスカラ、一割ノ率デ算出致シタル收入金額ニ依テ課税ヲサレルト云フコトニナル、其後ハ同ジコトニナリマセウケレドモ、一年ダケハ收入ノナイ所ニ課税ヲ受ケルコトニナルノデアルカラ、明ニ不當ノ課税ニナル、ソレヲ政府ハ御認ニナルカト云フノデス、ソレハ間違ナイト思フ、十六年度、十七年度即チ十六年度以降ハ別デス

○黒田政府委員 不當課税ニナルト云フコトヲ認メルカト云フ御尋デアリマスカラ、不當課税ニナルト云フコトハ認メナイト申上ゲタノデス、事實ハ十四年度ハ豫算ニ依テ課税ヲシテ居ルノデアリマスカラ、實蹟ガ豫算トビタツト合ヒマシタ場合ニハ、十五年モ同ジ金高ガ標準ニナルト思ヒマスガ、十四年度ハ豫算ニ依リ、十五年度ハ前年ノ實蹟ニ依テ、其收入金高ニ課税ヲスルト云フコトハ、多分御尋ト同ジヤウニナルト、思ヒマスガ、不當課税ニナルト云フコトヲ認メナイト云フ御尋デアリマスカラ、不當課税トハ認メマセヌト云フノデス

○元田委員長 ソレハ議論デヤアリマセヌカ

○高橋委員 私ノ言フコトガ分ラヌノ

デス、實蹟ト御シャルケレドモ、私ハ十五年度ノ課税標準ト云フモノハ大正十四年ノ實蹟ニ依ルノデアルカラ、十五年度ハ前年ノ收入ニ課税セラレル、十五年ノ實蹟ト云フ譯ニハイカヌ、即チ十五年ノ實蹟ハドウデアルカト云フト、年九歩ノ利子、是ガ實蹟デアル、然ルニ其實蹟ニ依ラズシテ、前ノ一割ノ時ノ收入ヲ以テ標準トシテ課税ヲスルカラ、其間ノ一步ト云フモノニ對シテハ、全然ノ收入ノナイモノニ課税ヲスルノデアルカラ、之ヲ不當課税デアルト承知シテ宜シイカ、斯ウ云フコトヲ御尋シテ居ルノデアリマス、私ハ明ニ不當課税デアラウト思ヒマスガ、御分リニナリマシタカ

○黒田政府委員 今迄モ其御尋ノ積リデ御答申上ゲテ居ッタノデアリマスガ、其點ヲ不當課税トハ考ヘテ居リマセヌ、十四年ハ御尋ノ通り豫算デアリマス、豫算ガ假ニ一萬圓デアッタ、實蹟ガ一萬五千圓アッタトスレバ、本年ノ初頭ニ於テハ豫算ヲ致シマスレバ或ハ一萬三千圓ト云フヤウナ豫算ガ出ルカモ知レマセヌ、十四年ノ實蹟ガ一萬五千圓デアッタナラバ、一萬五千圓トシテ十五年ハ課税スル、ソレハ一萬五千圓ノ豫算ヲシタナラバ、或ハモウ少シ少イ豫算ガ出ルカモ知レマセヌ、併ナガラ前年ノ實蹟ニ依テ課税シマス、是ハ不當課税トハ認メマセヌ、此前年ノ實蹟ニ依テ課税スル結果、サウナルノデアリマ

ス

○高橋委員 私ハ不當課税ノヤウニ思ヒマスガ、不當課税ト認メナイト云フナラバ仕方ガナイ、兎モ角モ其行違ヒガ出テ居ルト云フコトダケハ御認ノヤウデアリマスカラ、私ハ此點ハ是デ質問ハ止メル積リデアリマス、内務省ノ御方ガ御出デアリマスカラ、短イ質問ヲ致シタイト思ヒマス、是ハ家屋稅ト戸數割ノ問題デアリマスガ、家屋稅ニナツタカラ是ハ細民ヲ苦シメナイトカナントカ、色々ナ内務大臣ノ御答辯ガアリマシタケレドモ、私ハソレ等ノ御答辯ヲ承ツテ益疑惑ノ念ヲ深クスルノデアリマス、農村ニ於テハ只今迄戸數割ニ重キヲ置キ、是ハ洵ニ結構デナイ税金デハアリマスガ、其中ニ斟酌課税ノコトガ行ハレルノデアリマス、幾分ハ其財力ニ比例シ、擔稅能力ニ於テ手加減ヲスルト云フ途ガアッタ、然ルニ今度ハ此家屋稅ニナリマス、外形ヲ標準トスルト云フコトニナリマス、例ヘバソレガ實際自分ノ資本ニ依テ建築シタモノト、借財シテ他人ノ資本デ建築シタ家屋モ同一ニ課税ヲ受ケルト云フコトニナルノデアルガ、戸數割ノ方ニ於テハ其借金ノ多イモノニハ、其財力ノ狀態ヲ考査シ、斟酌ヲ加ヘテ、多少其負擔ヲ減ズルト云フ途モアッタノデアリマスガ、ソレニ代ツテ家屋稅ヲ掛ケルト云フコトニナルト、斯ウ云フ斟酌ハ全然ナクナルコトニナル、洵ニ是ハ改

惡ヲナスヤウニ吾々ハ認メマスガ、是等ノ點ハ政府モ御認ニナルカドウカ簡單デ宜シウゴザイマス

○田中政府委員 御話ノ點ハ認メマセヌ、何トナレバ戸數割ハ尙ホ將來市町村稅トシテ存續ヲ致シマスノデ、其市町村稅トシテ存續スル戸數割ハ、法文ニアリマス通り所得及資産ノ狀況ニ依リマシテ課稅ヲ致シマスカラ、住家坪數ニ依ル分ガ除イテアリマス、而シテ將來家屋稅トシテ課セラレルト云フコトニナッテ居リマスカラ、從來ノ立前ト其點ニ於テハ何等變更ガナイモノト存ジマス

○高橋委員 洵ニ腑ニ落チナイ答辯デハアリマススケレドモ、時間ノ節約上、ソレ以上追窮致シマセヌ、大藏大臣ニ唯一度最後ニ質問ヲ致シタイト思ヒマス、從來ノ調査會、即チ私ハ所得稅營業稅兩方面トモ言フノデアリマスガ、今度ハ營業稅ノ調査會ト云フモノガナイヤウデアリマスガ、所得稅調査會ト云フモノハ、其權威ガ洵ニ薄イノデアリマス、先日モ一寸申上ゲタ通り、稅務署ノ官吏ガ無理ナ申告ノ取方ヲ致シマシテ、店先ニ行ッテ強制的ニ申告ヲ取ツテ來ル、サウ云フモノヲ金科玉條トシテ、自分ノ方ノ氣ニ入ッタ、詰リ増稅ニナルヤウナ方面ハ之ヲ嚴格ニ採用シテ、所得稅調査委員ナドノ言フコトハ聽カナイ、調査委員ハ外部カラ見テ之ヲ付度ヲ致シテ論ズル、是ハ單ニ想像ニ過ギ

ナイノデアアル、吾々稅務官吏ハ其家ヘ飛込シテ自ラ訪問ヲナシ、帳簿ヲ檢査シタ上デ査定ヲシタ、或ハ申告ヲ取ツタノデアルカラ正確デアル、想像上ノコトハ受入レルコトハ出來ナイト云フヤウナコトデ、要スルニ決議機關デナクシテ、諮問機關ノヤウナモノデアアルカラ、何等權威ガナイ、又政府ハテレ隱シニ斯ウ云フヤウナモノヲ設ケタノデハナイカト思ハレルヤウナコトガアリマス、左様デアリマスカラ、將來モサウ云フコトガアラウト考ヘテ居ルノデアリマス、ソレデ今度ハ民意ヲ尊重シテドウスルト云フヤウナコトハ、多少御考

從來ノ儘デハ決シテサウ云フコトハ望ミ得ナイコトデアアラウト思ヒマス、併ナガラ大藏大臣ハ特別ナ威力ヲ發揮サレテ、サウ云フ所ニ迄眼ガ透ッテ、此調査ノ威力ト云フモノヲ増サレルヤウナ施設ヲ將來ナサレル御見込デアアルカ、其點ヲ最後ニ御質問申上ゲテ私ノ質問ハ打切ル積リデアリマス

○濱口國務大臣 調査委員會ハ左様ニ無力ノモノトハ私ハ考ヘテ居リマセヌ、偶全國多數ノ稅務署ノコトデアリマスカラ、御話ノ如キ無力ナ調査會ガナイト云フコトモ斷言ハ出來マセヌガ、ソレハ調査會ヲ設ケタ趣旨ニ反スルト思ッテ居リマス、調査委員ハ即チ納稅者ノ選舉ニ依ルモノデアリマスカラ、相當ナ人物ガ出テ居ッテ、稅務署ト能ク協調ヲ

保ッテ、公平嚴正ナル調査ヲナシテル居存ジマス、隨テ將來ニ向ッテモ願クハ調査委員ノ人ミガ能ク勉強サレテ、其權威ヲ發揮シテ公正ナル調査ヲスルニ至ランコトヲ希望致シマスガ、若シ只今ノ如キ例ガ全國ニ澤山アリマスルナラバ、是ハ相當考ヘマスケレドモ、恐ラクサウ云フ事ハ稀有ノ例デアラウト思ヒマス、大體ニ於テ能ク其權能ヲ發揮シテ居ルト私ハ信ジテ居リマス

○高橋委員 只今ノ大藏大臣ノ御答辯ハ地方ノ事情ニ通ジテ居ラレナイ議論デアアル、偶否今マデヲ通ジテ、斯ウ云フ御議論ガ多クカッタデアリマス、モウ少シ地方ノ事情ニ精通セラレンコトヲ希望ヲシテ私ノ質問ヲ打切リマス

○山本委員 私ノ御尋シタイノハ主トシテ町村稅、農村ノ納稅者ノ立場カラ考ヘテ見ルト、一番苦シイモノハ町村稅デアリマス、私ノ調べマシタ小サイ範圍デ見ルト、四百戸位ノ村ハ直接國稅ノ負擔ガ一戸平均二十五圓、縣稅ガ三十圓、町村稅四十圓ト云フ負擔ニナッテ居リマス、町村稅四十圓ノ負擔ガ一番重イ、國稅モ租稅標準カラ割出サレテ居ルノデ、之ニ對スル苦痛ハ比較的少イ、而シテ町村稅中ニ一戸平均四十圓ト云フ八割マデハ戸數割デアリマス、サウスルト戸數割ト云フモノガ一番農村ニ對シテ苦痛ニナッテ居リマスガ、此度家屋稅ヲ縣稅ヲ實施サレタ結果トシテ見立割ノ一割ト云フモノガ取レテ、

サウシテ所得ニ對シテ五割、凡ソ見立割ガ五割ト云フコトニナリマスガ、サウ云フヤウナ事カラ町村稅ヲ割出シマスルト、益見立割ノ高ガ多クナリマス、而シ其見立割ト云フモノカラ生ズル所ノ町村會ノ決定ト云フモノガ屢政弊ニ煩サレ、或ハ種々ノ感情ノ爲ニ常ニ苦情ノ種ニナッテ居ル所ガ多イノデアリマス、此見立割ノ量ガ益増スニ付テ政府ハドウ云フ風ニ御考ニナッテ居リマス、殊ニ內務省ガ示シテ居リマス所

ノ町村稅中ノ戸數割ノ賦課ノ準據スベキ命令ト云フモノハ、事實ニ於テ各町村トモ正確ニ準據シテ居マスモノガ多イヤウニ思フノデアリマスガ、此點ヲ御認メニナリマスカ如何デアリマスカ

○田中政府委員 戸數割課稅準備ハ資力デアリマシテ、資力ノ査定標準タル所得ト、資産ノ標準ト云フモノハ幾割ニナルカト云フコトハ、マダ公ニ決定セラレテ居リマセヌケレドモ、內務省ニ於テ目下審議中ノ腹案ト致シマシテハ、大體矢張所得ヲ中心ト致シマシテ課稅スルノガ適當ダト存ジマスノデ、資産ノ狀況ヲ斟酌シテ從來ノ割合ヲ大體變ジナイ豫定ヲシテ居リマス、而シテ又只今戸數割規則ガ行ハレテ居ルカ否ヤト云フ御質問ガアリマシタガ、私共ハ大體ニ於キマシテ全國ヲ通ジテ新戸數割規則ハ殆ド其勵行ヲ見テ居ルモノト存ジマス、而シテ現在御承知ノ如

ク行政裁判所ノ判決例等ニ於キマシテ、漸次此勅令違反ノヤウナモノハ矯正セラレツアル狀態デアリマスカラ、近キ將來ハ益完全ナル勵行ヲ見ルコトト存ジテ居リマス

○山本委員 稅務署カラ所得稅ノ調査票ヲ町村ガ貰受ケテ、ソレニ依テ所得ノ率ヲ算出シマシテ、戶數割ヲ課ケテ居ル所ガ多イノデアリマス、ソレハ免稅點以上ノモノデアリマシテ、免稅點以下ノ多數ノ細民ニ對シテハ、全ク町村會ガ自由ニ之ヲ裁量シテ居ル、而シテ其所得及資産ニ對シテ十分審査ガ出來ナイノニ、況シテ其補完的ノ意味カラ生ズル所ノ資産、若クハ財産ノヤウナモノニ對スル見立ト云フモノハ非常ニ不完全デアアル、隨テ是モ種々ナ弊害ガ生ジマシテ、納稅上非常ナ苦痛ヲ覺エテ居ル、之ヲ何トカ矯正スル途ハナイカ、例ヘテ申シマスナラバ申告ヲサセルトカ、或ハ特殊ノ調査機關ヲ作ルトカ何トカ、モウ少シ課稅標準ヲ各納稅者ニ明示スルヤウナコトニナリマスレバ、モウ少シ納稅者カラ感情的ノ苦痛ヲ減ズルコトガ出來ルダラウト思ヒマス、ソレ等ノ點ニ付テ何カ新シイ御考案ガアリマス、ソレヲ伺ヒタ

○田中政府委員 只今御話ノアリマシタ此所得ノ申告等ニ付キマシテハ、從來種々議論ガゴザイマシテ、申告ヲサセナイ方ガ宜イト云フ説ト、申告サス

方ガ宜イト云フ説ガアリマシテ、嘗テハ政友會ノ誰方カラ申告サセナイヤウニスル方ガ宜イト云フ御説ヲ伺ツタコトガアルヤウナ次第デアリマシテ、其地方々々ノ實情ニ於テ適當ニ所得ヲ調査スレバソレデ足ルカト存ジテ居リマス、又市町村ニ於キマシテ實際是ガ苦情ガ多イト云フ場合ニ於テ、若シ勅令ニ違反シテ居ルヤウナ課稅ヲ致シテ居ルナラバ、行政裁判所ニ出テ救済ヲ求メレバ宜イノデアリマス、併シサウ云フ例ハ餘リ數多クモナイノデアリマス、大體ニ於テ圓滿ニ苦情ナク勅令ガ施行サレテ居ルモノト存ジテ居リマス

○山本委員 問題ハ詰リ課稅標準ガナイト云フコトガ一番苦情ノ種デアリマス、之ニ對シテ相當ノ或程度ノ課稅標準ヲ與ヘルト云フヤウナ思召ハナイノデアリマス

○田中政府委員 戶數割ノ標準ト云フモノハ資力ト云フコトニチャント決ツテ居リマシテ、而シテ所得ニ付テモ決ツテ居リマス、又資産ノ狀況ト申シマスレモハ多少漠然タル嫌ハアリマス、ケレドモ、其點ニ付キマシテ漸次行政裁判例ニ依テ、資産ノ狀況ト云フモノハ何ナリヤト云フコトガ定マリツツアル狀態デアリマス、私ハ現行ノ遺方ヲ以テ敢テ不都合ナキモノト存ジテ居リマス

マスカラ止メマス、大體地方ニ於キマシテハ戶數割ニ對シテ非常ナ不平ヲ持ツテ居ルト云フコトヲ、此處デ私ハ明言シ得ルト思フノデアリマス、ソレニ止メテ置キマシテ、何ニセヨ今ノヤウナ縣稅若クハ國稅ノ附加稅ト、ソレカラ戶數割トデ町村ノ財源ヲ作ッテ居ルノデアリマス、ドウシテモ或程度ノ獨立シタ一ツノ町村ノ財源ガナケレバ、益此戶數割ト云フヤウナ一種ノ最モ幼稚ナル人頭稅ニ近イモノヲ町村ガ掛ケナケレバナナイ、而シテ國稅ノ如キモノハ僅ニ一戸二十五圓、縣稅ハ三十圓、一番苦シイ所ノ町村稅ガ四十圓ト云フヤウナ高イモノニナルノハ見立割デ來ル、五割以上見立割デアアル殊ニ所得稅ニ至ッテハ全ク無標準デアアル、斯ウ云フ立場カラ、非常ナ苦痛ヲ納稅者ニ與ヘテ居ルコトハ、爭フベカラザル事實デアリマス、之ヲ御認メニナラヌト云フコトハ、政府ノ方ガ何モ苦情ガナイカラ知ラヌト云フコトハ、實ニ盲目ナ話デ、寧ロ餘リニ強辯ニ過グルト私ハ考ヘテ居リマス、出來ルナラバ例ヘバ土地増價稅ヲ町村ニ御與ヘニナルナラバ、或程度ノ獨立ノ財源ヲ得ルコトニナルノデアリマス、土地増價稅ニ對スル御考ハ如何デアリマス

○田中政府委員 戶數割ニ對シテ非常ナ非難ガゴザイマス、私ハ戶數割ハ市町村稅ト致シマシテハ、所得稅附加稅ヨリモ寧ロ適切ナル稅ト信ジテ居リマス、又人頭稅ト云フ御話ガアリマス、相當地方自治團體ニ之ヲ委任スルト云フコトハ、適當ナル制度ナリト信ジテ居リマス、土地増價稅ニ付キマシテハ一般ノ田畑等ニ對シマシテ、一樣ニ土地増價稅ヲ課スルト云フガ如キハ、果シテ適當ナリヤ否ヤ、餘程考慮シナケレバナラヌ問題ダト存ジマス、故ニ土地増價稅ニ付キマシテハ、目下審議中デゴザイマス、或ハ之ヲ許ス場合ニ於キマシテモ、都會地ニ於ケル或特種ノ財源トシテ之ヲ設定スルコトヲ許スニ限ラナケレバナラヌカト存ジテ居リマス

○山本委員 家屋稅ニ付テ一寸伺ヒマスガ、家屋稅ハ家主ニ掛ケルノデアリマス、ケレドモ、其地代ハ含ムノデアリマス、含マナイノデアリマス、ソレカラ家屋ノ修繕及段々遞減シテ行キマス所ノ價格ナドニ付テハ、ドウ云フ風ニ御遣リニナルノデアリマス、ソレカラモウ一ツハ農村ナドハ賃賃價格ナドヲ見ル標準ガ殆トナイノデアリマス、家ヲ賃サウト思ヘバ借手ガナイ、隨テ、之ニ對シテ賃賃價格ノ算定法ニ非常ニ困ッテ居リマス、強テ求ムレバ其家賃價格ヲ豫メ評價シテ、ソレニ合フ賃賃價格ヲ算定スルヨリ外ニ仕方ガナイデアリマセウガ、ソレ等ノ點ハドウ云フ風ニ御遣リニナリマス

○田中政府委員 家屋ハ唯家屋ダケアル所モアリマス、又庭園ヲ持ッテ居

リマス所モアリマスノデ、家屋ダケヲ

ノハドウ云フ譯デスカ

故ニ家督相續税ノ第一種ニ付キマシ

デアリマス、隨テ税額ガ多クナリマス

庭園カラ分離シテ其賃貸價格ヲ調査ス

○黒田政府委員 是ハ十六年カラハ營

テ、四萬圓カラ致シマシテ段々税率ヲ

ルコトハ困難ト存ジマスカラ、此點ハ

業收益税ト所得税ト同ジ調査委員デ調

増シテ行ツタノデアリマス、ソレカラシ

一團トシテ其賃貸價格ヲ評定スル考デ

査スルコトニナリマスノデ、兩方ノ納

テ大體最高ノ所ニ於キマシテ現行ヨリ

アリマス、而シテ家屋ノ賃貸價格ノ評

稅者カラ選出致シタ者ガ之ニ當ルコト

モ二倍ニナル位ノ程度ニ、順ニ適當ニ

定ハ、大體從來ノ營業稅ニ於ケル家屋

ガ適當ダラウト思ヒマス、ソレ故ニ所

引上ゲタノデアリマスカラ、其間ニ於

賃貸價格ノ評定ト略同ジ方法ニ依ル考

得納稅者ノ所得調査委員ハ本年調査ヲ

テ著シク増シタノデハナク、順次階段

デアリマス、又家屋ノ賃貸價格ニ付テ

終リマシタ後ハ任期ヲ終ルコトニ致シ

ヲ適當ニ上セテ行キマス關係上、漸次

ハ困難デアルト云フ御話デアリマス

マシタ

増シテ參ッテ居ルノデアリマス

ガ、例ヘバ田舎ニ於キマシテハ家屋ノ

○若尾委員 此財產相續税ニ付キマシ

テハ金額ニ依テ標準トセラレテ、而シ

價格ニ課シ、而シテ都會ハ賃貸價格ニ

府ハ二百七十四萬何ガシカノ增收ヲ相

テ一定ノ增收ヲ得レバソレ宜シイ事

シマスト云フト、其間ニ負擔ノ均衡ヲ

續稅ニ依テ御見込ニナッテ居リマス、之

ト思フノデアリマスカラ、此二十萬圓以

保ツ途ガアリマセヌカラ、總テ之ヲ賃

ニ付テ私ノ先ヅ御伺シタイノハ、此課

下ノ相續財產ハ人員ニ於テモ、亦綜合

賃價格ト致シマシテ、調査委員ヲ設ケ

稅ノ率ニ於テ二十萬圓以下ノ相續財產

セル金額ニ於テモ、ソレ以上ノモノヨリ

テ、評定サス積リデアリマス

ニ對スル課稅ト、二十萬圓以上トハ著

モ多イト信ズルノデアリマス、此增收

○山本委員 地代マデ含メルト云フコ

シイ率ニ於テ増加致シテ居ル、金額ノ

ヲ得ルノニ付テ、金額ノ低イモノニ對

トニ致シマス、家主ト土地ノ持主ト

多イ方ニ於テ著シクゴザイマスカラ、此

スル割合ハ納メ易イケレドモ、金額ノ

違ッタ場合ニ於キマシテハ、土地ヲ持ッ

增加率ニ付テ如何ナル御考デスノ如キ

多イモノニ付テハ比較的此稅ヲ納メル

テ地代ヲ收穫スルモノガマルデ家屋稅

御計算ニナッテ居ルカラ伺ヒタイと思

ト云フコトガ容易デナイ、或ル場合ニ

ニ對シテ何等ノ負擔ヲ持タスト云フコ

ヒマス

於テハ一部ノ資産ヲ處分シナケレバ此

トニナルノデアリマスカラ、ソレデ差支

○黒田政府委員 御答ヲ申上ゲマス、

納稅ニ當ルコトガ出來ナイト云フ社會

ナイノデアリマスカ

御尋ノ趣旨ハ相續稅ノ税率ノ變更ガ二

ニ於ケル實態デアル、斯ノ如キ不便ヲ

○田中政府委員 其點ハ能ク御質問ノ

十萬圓、二十五萬圓ノ所ガ著シク増シ

少數ナル各個ノ多額ノ相續者ニ負擔セ

趣旨ガ了解致シ兼ネマスカラ、土地ハ土

テ居ルト云フ御尋デゴザイマスカラ、左

シメテ多クノ容易ニ納メ得ル相當低位

地トシテ別ニ課稅ヲ致シマスカラ、家屋

様ニナッテ居ラナイ積リデアリマシテ、

ノ相續者ニ薄クシタト云フ御趣意ハ何

ハ家屋ノ賃貸價格ヲ評定スル場合ニ於

（若尾委員）以下ト以上ノ割合ガ著シク

處ニアルノデスカ

キマシテ庭園ヲ拔イテ、家屋ノ賃貸價

違フト云フノデス（ト呼フ）ソレハ大體

○黒田政府委員 容易ニ納メ得ルモノ

格ヲ評定スルコトハ出來マセヌカラ、

今同ノ改正ガ相續稅ノ免稅點ヲ引上ゲ

ヲ薄クシタト云フ趣旨デハアリマセヌ

庭園ヲ含メテ家屋ノ賃貸價格ヲ評定ス

ルト同時ニ、相續財產ノ多イモノニ對

ノデアリマス、擔稅能力カラ見マシテ

ルコトニ致シタイト考ヘテ居リマス

シテ相當負擔ヲ増スト云フ趣意ヲ以テ

相續財產ノ多イ者ニ於テ負擔ヲ多クス

○山本委員 所得稅調査委員ノ任期ガ

稅率ヲ變更致シタノデアリマス、ソレ

ルト云フコトハ適當デアルト考ヘタノ

續スル者ニ於テハ、唯其本人ノ性質ノミナラズ、所謂一家眷族ノ之ニ對スル保護ハ、彼ノ人格ニ於テ支持シ得ルカ否ヤ、將來此家門ヲ繼イデ繁榮セシムルコトガ出來ルカ否ヤト云フ個人ノ能力以外ニ、一家一門ノ確メヲ得ナケレバ此家督相續ト云フコトハ出來ナイノデアアル、唯一片ノ法律デ長男ナルガ故ニ家督ヲ相續スルト云フ、サウ云フ單純ノモノデナイ、惡ケレバ廢嫡サレルノデアアル、斯ノ如ク相續人ソレ自身ノ精神的ニ、又物質的ニ非常ナ勤勞ヲ爲シ、又此家督相續ニ於テハ無理ニ相續スルト云フコトハ出來ナイノデアアル、サレバ吾々平民ニ於テハ其比ヲ多ク見ナイガ、或階級ニ於テハ六十ニナツテモマダ家督相續ガ出來ナイト云フヤウナ悲慘ナ狀態モアル、併ナガラ是等ノモノハ單ニ一家ノ爲ニ働イテ居ルノデナク、所謂我國ノ善風良俗ニ依テ無報酬デ以テ一家ノ爲ニ働イテ居ルト云フヤウナ事實ニナツテ居ル、斯ノ如ク其相續者ノ苦心ニ依テ成ル所ノモノヲ、唯是ガ相續者デアアルカラト云フヤウナコトテ高キニ重キヲ課スルト云フコトハ、是ハ少シ酷デハナイカト思フノデアリマス、是ハ當局ニ於テハ如何ニ御考ニナリマスカ

○濱口國務大臣 政府ト若尾君トハ大分考方が違ッテ居ル、政府ノ考ヘル所ニ依リマスレバ、此度ノ稅制整理ヲ行フニ付テ、減少スル所ノ財源ノ一端ヲ補

填スル事ト、今一ツニハ現在ノ社會經濟上ノ現狀カラ考ヘマシテ將來ヲ推スニ、是位ノ相續稅ノ稅率ヲ高メルト云フコトハ已ムヲ得ンコトデアアルト信ジタノデアリマス、若尾君ノ御考トハ根本ニ於テ聊カ觀ル所ヲ異ニスルト云フコトハ、洵ニ遺憾デアリマスケレドモ、政府ハ左様ニ信ジマス

○若尾委員 只今ノ大藏大臣ノ御答辯デ意見ノ相違致シテ居ルコトヲ承知致シマシタ、併シ是ハ……

○元田委員長 御議論ナラドウデスカ……

○若尾委員 議論ハ止シマス、是ハ事實ノ問題デアリマスガ、政府ガ收稅スベキ缺陷ヲ補フ爲ニ相當ノ增收ヲ圖ラントスルナラバ、其方法ガアルデアラウ、尙ホモウ少シ容易ニ納メ得ル方法ヲ以テ多數ノ人員ニ對シテ均霑的ニ課稅ノ率ヲ低クシテ、多ク納メルト云フコトガ、爲シ得ルデアラウト思フ、數ノ少イモノニ對シテ、又之ヲ納稅スルノニ甚ダ不便ヲ感ズルモノニ付テ又一ツノ財產ト云フモノハ是ガ唯ボケットニ入レテ持ッテ居ルモノデハナイ、相當ニ社會ニ一ツノ資本トシテ働イテ居ルモノデアアル、其中ニ於テ多額ノ稅ヲ拂ハナケレバナラヌト云フコトハ、恰モ株式會社ノ積立金ガ必ズシモ是ハ「キヤッシユ」デ持ッテ居ルモノデハナイ、其積立金ガ必ズシモ直ニ今日ノ決議シタラ明日ドウ斯ウト云フ譯ニ行クモノデハ

アリマセヌ、矢張個人ノ資本ニ於テモサウデアリマス、而シテ斯ノ如ク或ル程度ニ至ルト倍額ニ至ル、斯ノ如キハ稍多キニ失シハシナイカト思フノデアリマス、ソレ故ニ只今申シマシタヤウナ見地カラ多クノ人員ニ對シテ多クノ金額ニスル、低イ率ヲ以テ增收ヲセラレルト云フコトニ爲サル御考ハナイカドウカ

「答辯ノ要ナシ」ト呼フ者アリ

○元田委員長 ソレデ大低宜シウゴザイマスカ

○若尾委員 私ハ所謂政府ノ意見ト意見ガ違フカラ闘ウノデアアル、意見ガ同ナラバ闘ウ必要ハナイ、私ハ御答辯ガナケレバ希望ヲ附シテ置キマス、社會的ニ一個ノ財團トシテ運用サレル時ニハ、資産ト云フモノハ效用ヲ爲スケレドモ、假ニ五百萬圓ノ財產ヲ茲ニ或者ガ繼承スルトシテ、之ヲ五百萬人ニ一圓ヅツ御祝儀ニヤツテ仕舞ヘバ何モ殘ラナイ、併シ之ガ一個ノ財團トシテ働イテ居ルカラ國ニ取ッテモ效用ヲ爲シテ居ル、必ズシモ個人ノ一個ノ大ナル財產ガ國ニ害ヲ爲シテ居ルモノデハナイ、國家ノ產業ニ皆有效ニ働イテ居ル、其働イテ居ルモノヲ弱メルト云フ心配ガアル、此稅率ノ餘リニ苛酷ニ失スルニ依テ、其個人ノ財產ガ國家ニ有用ニ用キラレテ居ルト云フコトヲ弱メハシナイカ、斯ウ云フ心配ヲ持ッテ居リマスガ、其點ハドウデスカ

○濱口國務大臣 總テノ租稅ハサウ云フモノデアルト思ヒマス、是ハドウモ已ムヲ得ナイ事デアリマスガ、大體ニ於テ御承知ノ通り相續稅法ガ初メテ出來マシテ今日ニ至ルマデ、稅率ガ二回程遞減ヲサレテ居リマス、此度ノ提案ハ餘程高イヤウニ御感ジニナルカモ知レマセスケレドモ、最初ニ創設セラレタトキノ稅率ト稍同等トナツテ居リマスノデ、別ニ此度特ニ高クシタト云フ意味デアリマス、相當ニ擔稅能力ニ比例デアラバ、相當ニ擔稅能力ニ比例シタル適當ナル稅率ト認メテ居リマス

○若尾委員 意見ノ相違デ幾ラ闘ッテモ是ハ盡キマセヌ、私ハ此二十萬圓以上ニ於ケル稅率ヲ政府ニ於テ考慮セラレテ低メラレンコトヲ希望シ、又其填補トシテソレ以下ノモノニ低率ニシテ廣ク課稅セラレルヤウニ御考慮アラムコトヲ希望致シマス

○元田委員長 質問ハ是デ終了致シマシタ、茲ニ湯淺君ヨリ議事進行ニ關シ發議ガゴザイマス

○湯淺委員 既ニ質問ガ終結致シマシタル以上ハ或ハ明日カラ引續イテ討論ガ行ハレルコトト思ヒマス、然ルニ今日マデノ質問應答ノ狀況ニ鑑ミマス、此儘デ審議ヲ進メマシタ所ガ、所詮圓滿ナル歸着點ヲ見出スコトハ、或ハ困難デハナイカト思ヒマス、就キマシテハ此際本委員會ニ於テ小委員會ヲ設ケ

ラレ、委員ノ數ヲ委員長ヲ加ヘタル十
名トナシ、委員長外ノ九名ハ委員長ニ
テ指名サレテ、此小委員會ニ於テ審議
懇談ヲサレマシテ議事ノ圓滿ヲ期スル
コトニ致シタイト思ヒマシテ、此動議
ヲ提出致シマス（賛成「ノウ」）
○三土委員 只今ノ動議ハドウ云フ目
的デアリマス、一寸私ハ解シ兼タノ
デアリマスガ、政府案、本黨案、政友會
案、大體此三ツアルノデアリマスガ、ソ
レヲ三ツノ案ガアリマスノデ、小委員
ヲ設ケテドウシヤウト云フノデアリマ
スカ、其目的ヲ伺ヒタイ
○湯淺委員 各案ニ付キマシテ小委員
會ニ於テ審議ヲ致シマシテ、一致點ヲ
見出シタイト云フノガ目的デアリマ
ス
○三土委員 ソレデハ遺憾ナガラ私共
ハ反對致サナケレバナラス、御承知ノ
通り私共ハ國稅整理モ必要デアリマス
ケレドモ、是ヨリモ一層地方稅ノ整理
ガ必要デアルト考ヘテ居ルノデアリマ
ス、地方稅ヲ整理致シマスノニハ、吾々
ノ提案ノ如ク稅中ノ地租ヲ市町村ニ
委讓シテ、之ヲ基礎トシテ整理ヲスル
ニアラズンバ、今日ノ實狀ニ適切ナル
整理ハ出來ナイト斯ウ私共ハ信ジテ居
ルノデアリマス、然ルニ政府ノ御提案
ハ吾々ト非常ニ其趣旨ニ於テ違ヒマ
ス、故ニ少クトモ政府案ト吾々ノ提案
トヲ如何ニ懇談ヲ致シテ見マシテモ、
一致點ヲ見出スナント云フコトハ、豫

想ハ出來マセヌ、故ニ遺憾ナガラ小委
員ヲ設ケテ、或ル成案ヲ作ルト云フコ
トニ付テハ反對ヲ致シマス、而シテ尙
ホ私ハ附加ヘテ申上ゲマスガ、委員中ニ
小委員ヲ設ケテ審議ヲスルト云フコト
ハ先例ニモアリマス、併ナガラ是ハ委
員間ニ反對ノナカッタ場合ノミデアリ
マス、吾々ガ若シ反對致スト致シマス
レバ、反對ガ有ルノニ小委員ヲ設ケル
ト云フコトハ、法規ノ精神カラ申シテ
如何デアリマセウカ、委員中相當數ノ
反對ガアル場合ニ多數決ヲ以テ小委員
ヲ設ケルト致シマス、他ノ委員ノ
反對スル委員ノ審議權ヲ阻害スルコ
トニナリハセナイカト思ヒマス（「ノウ
」）私ハ法規典例ニハ餘リ精通致シ
テ居リマセヌケレドモ、左様ニ考ヘマ
スガ故ニ、御注意ヲ申シテ置キマス
○元田委員 只今ノハ委員長モ近來
ノ典例ハ餘リ調べテ居リマセヌガ、併
シ私ノ經歷シテ居ル昔ノ典例等ヲ申上
ゲマスレバ、斯ル二十八件ト云フヤウ
ナ錯綜シタル事件ガ問題トナツテ居リ
マス時分ニハ、其取纏メガ決テ採ルニ
致シマシテモ、ドウ云フ風ニシテ採ル
カト云フコトニ付テハ、出來得ル限リ
小委員ヲ以テ意見ノ一致ガ出來ルカ出
來ナイカト云フコトヲ、出來ル限リ試
ミテ、出來ナイ時ニハソレマデノ話デ
アリマスガ、サウ云フコトヲシテ而シ
テ全體ノ委員ノ會議ニ掛ケテ決スルト
云フコトハ、違法デハナイト私ハ記憶

ヲ致シテ居リマス
○砂田委員 只今湯淺君カラ動議ノ出
マシタル小委員ノ問題ニ付テ、三土君カ
ラ反對ノ意見ガ出テ居ルノデアリマ
ス、只今又委員長ヨリ斯ウ云フ場合ニ
於テ小委員ヲ設ケル先例ハ近頃ノ事ハ
知ラナイガ、古イ時代ノ先例デハサウ
云フ先例ガアルト云フ御意見ヲ承ツタ
ノデアリマス、併ナガラ左様ナ先例ハ
アリマセヌ、ノミナラズ議院法ニ依テ委
員中ニ委員ヲ設ケルト云フコトハ、常
任委員ノ場合ニ於テ特ニ議院法ノ規則
ニ明文ガアリマス、而シテ特別委員ハ
即チ此幾十名ノ者ガ本會議ニ於テ是ダ
ケノ者ガ此法律案全部ニ對シテノ審議
ノ權限ヲ委ネラレタモノデアル、其委ネ
ラレタモノ、中ニ反對ノアル場合ニ於
テ、其反對ヲ顧ミズシテ決議ヲ以テ小
委員ヲ設ケテ、其人々ニ依テ一致點ヲ
見出スト云フガ如キコトハ、委員ノ權
能ヲ根本ヨリ破壊シテシマウコトニナ
ルノデアリマス、ソレデ今迄ノ先例ニ
鑑ミマシテモ、只今湯淺君ノ發議サレ
マシタル如キ、唯單ニ澤山ノ法律案ガ出
テ居ル、各派デ以テ成ベク一致點ヲ見
出ス爲ニ小委員ヲ設ケルト云フ先例ハ
ナイ、今迄ノ過去ノ先例ハ或ル特別ノ
法律案、其他ノ議案ニ付テ修正スルコ
トヲ決定シタル場合ニ、其修正案文ノ起
草ヲ爲シ、若クハ又ハ特別ノ事情ヲ調査
ヲスル、或ル特殊ノ問題ヲ調査ヲスル、
若クハ政府又ハ貴族院ト特別ノ事情ニ

付テ交渉スル場合、又ハ報告書意見書
ノ起草ヲスルト云フヤウナ場合ニ限ッ
テ、滿場一致ヲ以テ始メテ小委員ガ出
來テ居ルノデアリマス、今日マデ委員
中ニ反對ガアルニ拘ラズ、而モ其委員
ハ本會議ニ於テ全部審査ノ權限ヲ一任
サレテ居ルモノニ反對者ガアル、反對
者ガアルニ拘ラズ委員會ノ決議ヲ以テ
ソレ等ノ者ヲ除外シテ、サウシテ小委
員デ此審議ヲ進メルト云フガ如キハ、
委員會ノ權能ヲ根抵ヨリ破壊スルコト
ニナリマス（「ヒヤ」）是ハ先例ニ依
テ明瞭デゴザイマスカラ、若シ委員長
ノ御宣言ノ如クデゴザイマスナラバ、
明瞭ニ其先例ヲ御示ヲ願ヒマス
○元田委員 御發言中デゴザイマス
ガ委員ノ權限ヲ侵シ、委員ノ權能ヲ破
壞スルト云フヤウナ意味ノ御宣言ガア
リマシタルガ、左様ナ事ハ致サヌノデア
リマス、ソレハ出來マス、斯様ナ方
法ニ於テ二十八件ノ中ニ錯綜シテ居ル
ノガアリマス、或ハ絶對的ニ三土君ハ
政府案トハ、反對デアルカラ、吾々ハ歸
著點ヲ見ルコトハ出來スト仰シヤルケ
レドモ、相會合シテ見タナラバサウデ
ナイカモ分リマセヌ、二十八件ト云フ
ノデアリマスカラシテ、少數ノ人ニ依
テ互ニ意見ノ交換ヲシテ見テ、若シ出
來得ルナラバ斯ウ云フ案デハドウデア
ラウカト云フコトヲ考ヘマシテ、之ヲ
委員ノ總會ニ附シテ、討論スルノデア
リマスカラシテ——ソレカラ又委員ニ

御成リナサル御方ニ付テ政友會諸君ハ反對シタカラ入レヌト云フノデヤアリマセヌ、權利ヲ拋棄シテ御這入リニナラヌノハ兎モ角モ、決シテ此方カラ拒絶スルノデヤアリマセヌカラ(此時發言スル者多シ)マア一寸御待チ下サイ、是ハ先例ニモナリマセウシ、餘リ私ハ法規違反デヤナイト思ヒマスガ……

○高木委員 私先例ヲ申上ゲタイト思ヒマス

○砂田委員 私許可ヲ得テ居リマスカラ——將來先例ニナル問題デアリマスカラ、特ニ委員長ニ於テモ慎重ニ御考ヲ願ハナケレバナラス、只今ノ委員長ノ御言葉ニ依リマス、二十幾件ニ互ル多數ノ案デアリカラ、此中ニハ纏マルモノモアルデアリマセウシ、纏ラヌモノモアルデアリマセウ、ソレヲ纏メル爲ニハ少數ノ者ガ寄ッテ話合ヲシタラ宜カラウト云フコトデ、其小委員ヲ設ケルト云フ御趣旨デゴザイマスガ、委員會ノ委員ハ悉ク皆對等ノ權利ヲ持ッテ居ルノデアリマス、ソレデアルカラ各派ガ一人宛トカ二人宛出テモ、ソレニ全部ノ者ガ悉ク一致スルカドウカ分ラヌデ、サウスレバ非公式ニ御勝手ニ御ヤリニナルコトハ格別、委員會ノ決議ヲ以テ其權利ヲ無視スルコトハ出來マセヌ、委員長ノ仰セララル如クスレバ、非公式ニ勝手ニ御ヤリニナルコトハ別デアリマスガ、全部ノ委員ガ參加シテ同意ガ出來ルカ出來ナイカト云

フコトハ問題ニナルノデアアル、其中ノ或ル特殊ノ者ヲ兩三名宛各派カラ出シタ所ガ、必シモ一致スルト云フモノデヤナイ、委員會ノ決議ヲ以テ小委員ヲ作ルノハ常ニ滿場一致ヲ以テ賛成シタ場合デナケレバサウ云フモノハ出來ナイ、是ハ明瞭ナ事實デアアル、若シ之ニ反スル先例ガアルナラバ先例ヲ御示ヲ願ッテモ宜シイ

○元田委員長 私ハドウモサウ能ク記憶シマセヌノデスガ、委員會ガ特別ニ進行ヲ便利ニスル爲ニ、或ル數ノ委員ヲ其中カラ擧ゲテ、サウシテ其成案デモ——出來ナケレバ兎モ角、出來マシタナラバ全體ノ委員ノ評議ニ掛ケテ決スルト云フノガ、何モ他ノ委員ノ權限ヲ蹂躪スルコトニハナラヌト私ハ確信シマス

○湯淺委員 只今砂田君ヨリ先例ガナイカラ云マツト云々御説デアリマシタカラ、先例ガアッタラ御賛成ナサルノデセウカ

○砂田委員 先例ノ有無ノ問題デヤアリマセヌ

(此時發言者多シ)

○湯淺委員 發言中デアリマス、先例ハ最モ新シキモノガアリマス、御忘レニナツテ居レバ兎モ角、第四十六回即チ大正十二年三月十七日小作調停法案委員會ニ於キマシテハ、矢張此小委員會ニ關スル所ノ動議ガアリ、反對ガアリマシテ擧手ニ依テ採決サレタル結果、

小委員會ガ出來テ居ル實例ハ明ニアリマスカラ、之ヲ御承知ニナツタラ、最早反對ノ理由ハ無クナルト考ヘマス

○砂田委員 私ノ申上ゲマシタノハ二ツノ理由ニ依テ反對シテ居ルノデアリマス、即チ其一ツハ滿場一致デナケレバ此小委員ヲ設ケルニハ根本ノ趣旨ヲ貫徹スルコトガ出來ナイカラ反對デアルト云フコトト、先例ノ問題ハ今申上ゲタ如ク、特別ノ事項ヲ調査シ、若クハ特別ノ修正ヲ爲スコトトナツテ、其修正案ノ起草ヲ爲ス場合、政府又ハ貴族院ト特別ノ交渉ヲ爲ス場合、報告書又ハ意見書ノ起草ヲ爲ス場合、是等ノ場合ノミニ先例ガアルノデアリマス、ソレデアリマスカラ根本ノ小委員ヲ設ケルト云フコトガ特別委員ノ中ニ反對ノアル以上ハ、是ハドウシテモ特別委員ヲ設ケルト云フ決議ヲ以テ議員ノ權能ヲ拘束スルコトハ絶體ニ許サヌ、此二ツノ理由ニ依ルノデアリマス

○元田委員長 貴方ノ御議論ハ能ク分ツテ居リマス、分ツテ居リマスカラ私ハ御議論ニ反對スルノ權限ヲ蹂躪スルガ、私ハ決シテ議員ノ權限ヲ蹂躪スルモノデナイト云フコトヲ確信シテ居ルト云フコトヲ申上ゲテ置キマス、而シテ先例ガ有ルトカ無イトカ云フコトヲ仰セデアリマスカラシテ、ドウモ古イ事デアルカラ覺エマセヌケレドモ、私ハ隨分委員長ニナツテ斯ウ云フ錯綜シタ場合ニハ度々小委員ヲ設ケテ成ルベク議事ヲ簡潔ニシテ行ク方法ヲ求メテヤッタコトハ自分ニモアルノデアリマス、何年何月カト仰セニナルト、只今手許ニ御示スルモノハアリマセヌガ、自分ノ心覺ニ確ニアリマス、近來ノ事ハ餘リ從事シナイカラ覺エテ居リマセヌト云フコトヲ先刻申上ゲマシタ、併シ私ノ違法デナイト云フ信念ハ先刻申上ゲタ通りデアリマス

○砂田委員 只今砂田君ヨリ先例ガナイカラ云マツト云々御説デアリマシタカラ、先例ガアッタラ御賛成ナサルノデセウカ

○湯淺委員 發言中デアリマス、先例ハ最モ新シキモノガアリマス、御忘レニナツテ居レバ兎モ角、第四十六回即チ大正十二年三月十七日小作調停法案委員會ニ於キマシテハ、矢張此小委員會ニ關スル所ノ動議ガアリ、反對ガアリマシテ擧手ニ依テ採決サレタル結果、

○元田委員長 貴方ノ御議論ハ能ク分ツテ居リマス、分ツテ居リマスカラ私ハ御議論ニ反對スルノ權限ヲ蹂躪スルガ、私ハ決シテ議員ノ權限ヲ蹂躪スルモノデナイト云フコトヲ確信シテ居ルト云フコトヲ申上ゲテ置キマス、而シテ先例ガ有ルトカ無イトカ云フコトヲ仰セデアリマスカラシテ、ドウモ古イ事デアルカラ覺エマセヌケレドモ、私ハ隨分委員長ニナツテ斯ウ云フ錯綜シタ場合ニハ度々小委員ヲ設ケテ成ルベク議事ヲ簡潔ニシテ行ク方法ヲ求メテヤッタコトハ自分ニモアルノデアリマス、何年何月カト仰セニナルト、只今手許ニ御示スルモノハアリマセヌガ、自分ノ心覺ニ確ニアリマス、近來ノ事ハ餘リ從事シナイカラ覺エテ居リマセヌト云フコトヲ先刻申上ゲマシタ、併シ私ノ違法デナイト云フ信念ハ先刻申上ゲタ通りデアリマス

○三土委員 私ハ強テ爭フ譯デハアリマセヌガ、併シ大體目的ハ分ツテ居ル、所ガ前申シマシヤウナ次第デ、吾々ハ小委員ニ加ッテ所ガ仕方ガナイ、ソレデ憲政會ト本黨ト新政俱樂部ノ人ガ御相談ニナツテ、少數デ以テ何カ案ヲ作製爲サルノハ御勝手デアリマスガ、ソレハ決議セズニ、皆様ノ爲ニ一日位休ンデモ宜イカラ、御作リナサッタラ如何デアリマスカ

○元田委員長 ソレハ委員會トハ別ニナリマス、委員會デハ只今ノヤウナ動議ガ出マシタナラバ、決ッテ進行スルノガ當然デアルト思フ

○大口委員 私ハ委員長ニ對シテ之ニ付テ質問ヲ致シタイノデアリマスガ、只今ノ問題ニ於キマシテ、茲ニ各派ガ討論ヲ致シマシテ、討論ノ結果或ル箇條等ニ付テドウシテモ折合ガ附カナイ、是ハ何所迄モ適當ナ案ヲ作ラナケレバナラス、此箇條ガ否決ニナリマシタ爲ニ案全體ガ否決ニナルト云フヤウナコトハ宜シクナイ、此案ハ成立タセ

タイ、茲ニ賛論否論ガ相別レテ複雑ス
ルト云フ場合ニ、委員ヲ擧ゲテサウ云
フコトニ對スル對案ヲ作ルコトハ、本
會ニ於テモ法文ガアリマスカラ、此法
文ニ準ジテ特別委員會ノ如キニ於テ之
ヲ爲スト云フコトハ、或ハ前例ガアツタ
ヤウニ私モ承知シテ居ルノデアリマ
ス、所ガ只今湯淺君ガ述ベラレタヤウ
ナコトデ、マダ討論ニモナラナイ、質問
ガ濟ンダバカリデ、ドウ云フ議論ガ出
ルカ一向分ラナイ、所ガ案ガ幾ツモア
ルカラムツカシクナリサウデアアルカ
ラ、質問ノ狀況デ推察スルト議論ガ輻輳
シサウデアアルカラ、豫メ折合ヲ附ケテ
見ヤウト云フ先例ハ私ハ承知シナイ、
只今湯淺君ノ御述ニナツタ先例モ之ニ
ハ適シテ居リマセヌ、モット討論ヲシタ
結果、ムツカシクナツテカハラデモ宜シ
イ、私ハ茲ニ委員長ニ質問ヲ致シタイ、
吾々御互ハ之ヲ審査スル所ノ全權ヲ本
會カラ委ネラレテ居ル、其吾々ガ反對
スルニモ拘ラズ、多數決ヲ以テ今ノヤ
ウナ小委員ヲ拵ヘテ局限サレタ場合
ハ、吾々ガ小委員會ヘ出テ議論ヲシタ
イト言ツタラ御許シニナリマスカ、ソレ
ハイケナイ、十人ニ限ツテ居ルカラ是ハ
十人ダケデ、其他ノ人ハ議論ハ出來ナ
イト云フコトヲ仰シヤイマスカ、サウス
レバ吾々ノ權利ヲ束縛スルコトニナ
ル、此點ハ如何デアリマスカ、十人ニ御
限リニナツテ、其十人以外ノ者ハ一人モ
議論ガ出來ナイト云フコトハナイ、吾

々ハ其會ニ出テ議論ヲスル權能ガアル
筈デアリマス
○元田委員長 委員長ノ所見ヲ申述ベ
マス、私ハ議事ノ進行ニ便スルガ爲ニ、
斯ノ如キ多數ノ案ガ出テ錯綜スルモノ
ガアリマスカラ、之ヲ——各派ト云フ
コトハ今日表向ニ言ツテ宜イカドウカ
分リマセヌガ、事實ハ各派ノ代表者ヲ
成タケ少數ニ出シテ、サウシテ意見ノ
交換ヲシテ、成ベクナラバ一ツノ成案
ヲ得ルコトニシテ、全體ノ委員ノ議ニ
掛ケルト云フコトハ、議事ノ進行ヲ洵
ニ良クスル所以ノモノデアルト思フ、
議員ノ權利ヲ斷ジテ蹂躪スルモノデナ
イト云フ確信ヲ持ツテ居リマス、是カラ
先ハ御議論デアリマスカラ、御異論ガ
アルナラバ本會ニ御訴ヘニナツテモ宜
シイト思ヒマス、私ハ斷ジテ議員ノ權
利ヲ蹂躪スルモノデナイト確信シテ居
リマス

爲ニ、是ハ討論ハシナカッタガ、色々解
釋ノ違ヒノ爲ニ小委員ガ出來テ、其委
員會ニ於テ具體ノ案ヲ纏メテ、サウシ
テ國有財産法ハ決議サレタ、是ハ極メ
テ近イ事デアリマス、更ニ四十三年デ
アリマシタカ、第二回ノ漁業法ノ改正
ニ付キマシテ、色々意見ガ異ツテ、現ニ花
井卓藏君モ委員ノ一人デアリマシタ
ガ、委員會ニ於テ容易ニ解決ガ出來ナ
イノデ、當時民刑局長ノ平沼騏一郎氏
ヲ特ニ政府委員ニシテ貰ツテモ容易ニ
解決ガ附カヌ、是ニ於テ小委員ヲ擧ゲ
タコトガアル、其他從來ノ例ニ依テモ、
請願ナドニ於テモ小委員ヲ拵ヘタ例ハ
澤山アル、意見ノ相違ノ爲ニ容易ニ此
問題ガ纏マラヌト云フ爲ニ、小委員ヲ
置イタ例ハ澤山アリマス、少シ時日ガ
アリマスレバ、先例ヲ澤山調ベテ持ツテ
參リマスルガ、現ニ自分ノ記憶デモ請
願ニ於テモアリ——請願ハ別問題トシ
テモ、其他ニモ多クノ例ガ、漁業法ニ於
テ及ビ國有財産法ニ於テアルコトヲ現
在記憶シテ居リマス、ドウカ此事ハ湯
淺君ノ提議ノ如ク速ニ小委員ヲ擧ゲラ
レンコトヲ望ミマス、此問題ニ對シテ
反對サレル方ヲ除外スル意思ハナイ、
委員ニ御加ヘニナルコトヲ希望致シマ
ス、反對論ガアツタ所ガ、其小委員ノ案
ガ出來タ時ニ御反對ナサレバ宜シイノ
デアリマシテ、議員ノ權利ヲ拘束スル
意味デモ何デモナイノデアリマス、委
員長モ御記憶デアリマセウガ、極メテ

此事ハ最モ好イ先例ガアリマスカラ、
湯淺君ノ御提議ノ通り、小委員ヲ擧ゲ
ラレンコトヲ希望致シマス

○武藤委員 只今ノ湯淺君ノ動議ニ付
テ、我黨ノ三土君カラ反對ガアリマシ
タガ、此稅制整理案ハ天下ノ齊シク此
成行ヲ注視シテ居ルコトデアアルニモ拘
ラズ、此先例モ無イ所ノ委員會ニ於テ
之ヲ小委員ヲ作ツテ定メルト云フコト
ハ、政治ヲ公明ニヤルト云ツテ標榜シテ
居ル各政黨ハ虚偽ヲ言ツタコトニナル、
サウシテ此委員會デ討論審議ヲ盡シテ
一致點ガアツテ場合ニハ、湯淺君ノ如キ
御提議モ必要デアリマスガ、此公ナル
所ノ政治ヲ、何カ妥協的ニ——其實ハ
妥協ヲ以テ、此委員會ノ決議トシテ進
マンストスルガ如キハ、私ハ甚ダ心外デ
アリマス、尊敬スル元田君ハ國政ニ對
シテ永ク御盡シニナリマシテ、意見ノ
相違ハ別ト致シマシテ、斯ノ如キ大問
題ニ際シタ時ニ、委員長トシテ何モ強
テ此小委員ヲ作ルコトニ御力ヲ左様ニ
入レナイデモ宜イデヤアリマセヌカ、
政友本黨ト憲政會ト政府ガ妥協スルナ
ラバ、夜半デモ宜シイ白晝デモ公々然
ト妥協シテ黨議ヲ定メテ御諮リニナツ
タラドウデスカ、甚ダ私共ハ元田委員
長ノ年來ノ國政ニ御盡シナサツテ居ツタ
態度ニ對シテモ惜ム次第デアリマスカ
ラ、此場合吾々ハドウシテモ同意スル
コトハ出來マセヌ

○元田委員長 洵ニ御注意ノ段ハ辱ク

○高木委員 私ハ極メテ簡單ニ湯淺君
ノ提議ニ賛成ノ意見ヲ申述ベマス、先
刻カラノ反對論ヲ聽キマスルト、常任
委員ニ付テハ先例ガアルガ、其他ニ先
例ヲ記憶セヌト云フコトデアリマシタ
ガ、私ハ常任委員ニ對スル先例ハ、二十
三年ノ豫算案ヲ一旦豫算委員會ニ提出
シタモノヲ小委員ニ附シタ、是ガ常任委
員ニ對スル先例デアリマス、常任委員
ノコトハ此問題ニ觸レナイトシマスル
ナラバ、現ニ最モ近イノハ、國有財産法
ノ制定ノ際ニ於テ意見ガ纏マリマセヌ

爲ニ、是ハ討論ハシナカッタガ、色々解
釋ノ違ヒノ爲ニ小委員ガ出來テ、其委
員會ニ於テ具體ノ案ヲ纏メテ、サウシ
テ國有財産法ハ決議サレタ、是ハ極メ
テ近イ事デアリマス、更ニ四十三年デ
アリマシタカ、第二回ノ漁業法ノ改正
ニ付キマシテ、色々意見ガ異ツテ、現ニ花
井卓藏君モ委員ノ一人デアリマシタ
ガ、委員會ニ於テ容易ニ解決ガ出來ナ
イノデ、當時民刑局長ノ平沼騏一郎氏
ヲ特ニ政府委員ニシテ貰ツテモ容易ニ
解決ガ附カヌ、是ニ於テ小委員ヲ擧ゲ
タコトガアル、其他從來ノ例ニ依テモ、
請願ナドニ於テモ小委員ヲ拵ヘタ例ハ
澤山アル、意見ノ相違ノ爲ニ容易ニ此
問題ガ纏マラヌト云フ爲ニ、小委員ヲ
置イタ例ハ澤山アリマス、少シ時日ガ
アリマスレバ、先例ヲ澤山調ベテ持ツテ
參リマスルガ、現ニ自分ノ記憶デモ請
願ニ於テモアリ——請願ハ別問題トシ
テモ、其他ニモ多クノ例ガ、漁業法ニ於
テ及ビ國有財産法ニ於テアルコトヲ現
在記憶シテ居リマス、ドウカ此事ハ湯
淺君ノ提議ノ如ク速ニ小委員ヲ擧ゲラ
レンコトヲ望ミマス、此問題ニ對シテ
反對サレル方ヲ除外スル意思ハナイ、
委員ニ御加ヘニナルコトヲ希望致シマ
ス、反對論ガアツタ所ガ、其小委員ノ案
ガ出來タ時ニ御反對ナサレバ宜シイノ
デアリマシテ、議員ノ權利ヲ拘束スル
意味デモ何デモナイノデアリマス、委
員長モ御記憶デアリマセウガ、極メテ

○元田委員長 洵ニ御注意ノ段ハ辱ク

御厚意ヲ拜承致シマスガ、私ノ斯様ナル多數ノ議案ガ一括シテ問題トナツタ場合ニ、議事ノ進行ニ便スルガ爲ニ、小委員ヲ設ケテ、或ル一定シタル所ノ原案デモ作ツテ、之ヲ委員總會ニ附シテ討論攻究ノ結果、最終ノ決議ニ達スルコトハ相當ノ方法デアルト確信致シテ居ルノデアリマス、是ハ今何年何月ト云フコトハ存ジマセヌガ、私モ嘗テ諸君ト共ニ政友會ニ居リマシタ時代ニ隨分左様ナコトハアツタ、故ラニ妥協スル爲ニ妙ナコトヲスルトカ何トカ云フ御尋ヲ被ルコトハ遺憾千萬ニ存ズル、唯審議ノ途ヲ攻究シテ行キマス爲ニ、便宜法ヲ設ケテヤラウト云フ多數ノ意見ニ從ツテ處理シテ行カウト云フノニ、白晝公然妥協スルトカ云フ攻撃ヲ被ルノハ甚ダ遺憾千萬ニ感ズルノデアリマス、委員長ト致シマシタナラバ、茲ニ動議ガ出マシタ以上、其動議ニ就テ多數少數ヲ決メナケレバナラス、而シテ斯カル動議ガ違法デアルト云フ御論ニ對シテ、違法トハ存ジマセヌト云フコトヲ申シタゲデアリマス、ドウゾ冷靜ニ私ノ心事モ御諒承ヲ願ヒタイ

○高橋委員 吾々ハ吾々ノ公然委託サレタ審議權ヲ無視サレルヤウニ思フノハ、度々ノ質問ノ中ニ、議論ニ涉ルカラ簡單ニヤレトカ、後トノ機會ニ讓レトカ委員長カラ度々御注意ガアツタカラ、此先ヲ論ジタイ、質問シタイト思ッテモ委員長ニ御叱リヲ受ケルノヲ恐レテ、

討論ノ機會ニ讓ツテ論議ヲ保留シテ居ルノデス、之ヲ御許シニナラヌト云フナラバ、當然與ヘラレタ吾々ノ審議權ヲ無視サレルト云フコトニナルデハナイカ、僅カ九名カ十名ノ人ヲ選ンデ、其人ニミミ議論ヲ盡セサルト云フノハ、確ト云ハレテモ辯解ノ辭ハナカラウト思フ、サウ云フ事情ヲ御考ヘ下サレバ、此際小委員ナド設ケルコトハ他ノ委員ノ言論ヲ壓迫スルト云フコトニナルト思ヒマス

○元田委員長 高橋君ノ審議權ヲ妨ゲルノデハアリマセヌ、小委員ヲ設ケテ成ベク進行ノ宜シヤウナ手段ヲ取ル、小委員ダケ決メテシマツテ君ニ喙ヲ容レサセヌト云フノデハナイ、小委員會ノ結果ニ付テ其上デ十分ニ討論サセラルノデスカラ、何モ審議權ヲ蹂躪スルノデモ何デモナイト私ハ信ジテ居ル、ソコデ此點ハサウ御論ジニナラヌデモ、若シ私ノ處置ガ惡ケレバ本會議ニ訴ヘテ自省ヲ促ス途モアリマセウ、私ハ私ノ司ツテ居ル委員會トシテ慣例ニ依リ、又自分ノ所見カラ見マシタ所デ、議事ノ進行ヲ便シ、同時ニ斯様ナ大問題ニ付テハ、輕マルカ纏ラヌカ云フ途ヲ——提徑ヲ踏ンデ行ク所ノ途ヲ講ズルコトニ付テ小委員ヲ設置スルコトハ、斷ジテ違法ニアラズト委員長ハ信ズルノデアリマスカラ、アトハ多數少數ニ依テ決シ委員長ハ其決議ヲ重ジテソレヲ實行スル

ダケデアリマス、其點ニ付テ決ヲ採リマセウ、只今湯淺君ノ御提案ハ違法ナリト云フ御論モアリマスガ、違法デアルヤ否ヤト云フコトヲ決ヲ採ルノモオカシイト思ヒマス、之ニ賛成ノ諸君ト反對ノ諸君ダケニ付テ決ヲ採リマス、ソレデ御異存ゴザイマスマイ、動議ニ賛成ノ諸君ノ起立ヲ求メマス

〔賛成者 起立〕

○元田委員長 多數デゴザイマス、可決致シマシタ、ソコデ委員ハドウ致シマス

○湯淺委員 委員ハ先刻發議致シマシタ通り、委員長ヲ加ヘテ十名トシ、委員長ノ外九名ノ委員ハ委員長ニ於テ指名セラレンコトヲ希望致シマス

〔賛成ト呼フ者アリ〕

○元田委員 ソレデハ直ニ指名致シマス、町田君、原君、田中君、三土君、大口君、武藤君、小川君、三輪君、増田君、以上九名、是デ本日ハ散會致シマスガ、モウ期日モ切迫シテ居リマスカラ、小委員ノ諸君ハ明日十時カラ御集リ下サイ、サウシテ御考モゴザイマスナラバ、成ベク懇談的ニ論議ヲ盡サレルヤウニ致シタイト存ジマス、又小委員外ノ方ハ午後ニ至リ或ハ總會ヲ開クカモ知レマセヌカラ、本會議モ開ケルコトデアリマスカラ、必ズ御登院下サルコトヲ切ニ希望致シテ置キマス、ソレデハ本日ハ是デ散會致シマス

午後六時四十六分散會